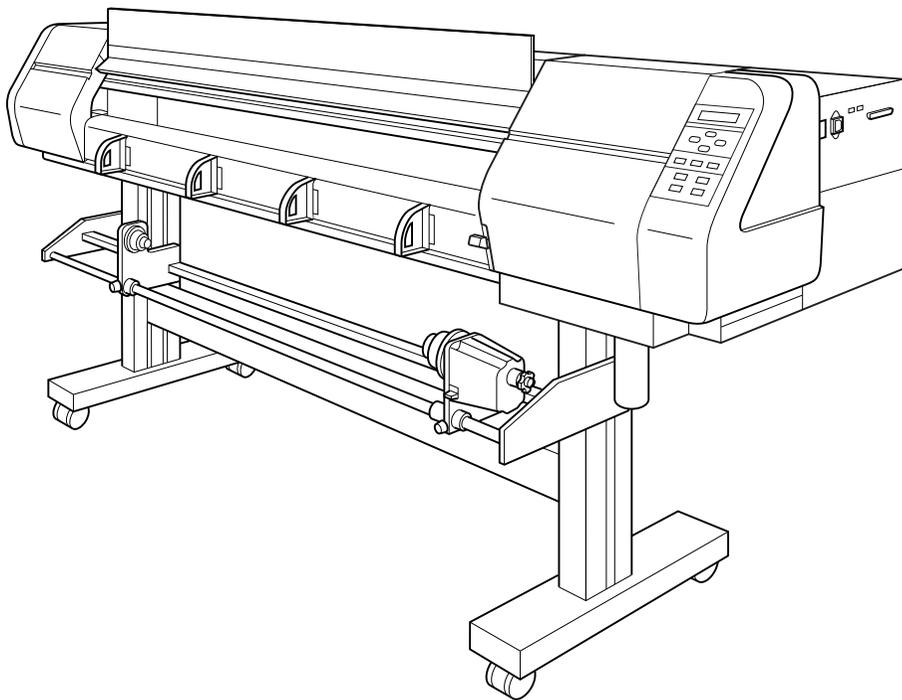


COLOR INKJET PLOTTER

JV4 Series

取扱説明書



ご注意

ご注意

株式会社ミマキエンジニアリングの保証規定に定めるものを除き、本製品の使用または使用不能から生ずるいかなる損害（逸失利益、間接損害、特別損害またはその他の金銭的損害を含み、これらに限定しない）に関して一切の責任を負わないものとします。

また、株式会社ミマキエンジニアリングに損害の可能性について知らされていた場合も同様とします。

一例として、本製品を使用してメディア（ワーク）等の損失やメディアを使用して作成された物によって生じた間接的な損失等の責任負担もしないものとします。本装置を使用したことによる金銭上の損害および逸失利益または第三者からのいかなる請求についても、当社は一切その責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。

おねがい

- この取扱説明書は、内容について十分注意しておりますが、万一ご不審な点などがありましたら、販売店または弊社営業所までご連絡ください。
- この取扱説明書は、改良のため予告なく変更する場合があります。



注意

★ 本書記載の名称は、一般に各社の商標または登録商標です。

本書の内容を無断で転載することは禁止されています。

© 株式会社ミマキエンジニアリング 2006.2

All Rights Reserved. Copyright ©2006.2 MIMAKI ENGINEERING Co., Ltd.

電波障害自主規制

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラス A 情報技術装置です。この装置を家庭で使用すると電波妨害を引き起こすことがあります。この場合には使用者が適切な対策を講ずるよう要求されることがあります。

本装置の接続に於いて、当社指定のケーブルを使用しない場合は、VCCI ルールの限度を超えることが考えられます。必ず、当社指定のケーブルを使用してください。

テレビ／ラジオの受信障害について

本書が解説する製品は、使用時に高周波が発生します。このため、本製品が不適切な条件下で設置または使用された場合、ラジオやテレビの受信障害が発生する可能性があります。したがって特殊なラジオ／テレビに対しては保証しておりません。

もしも、この製品がラジオ／テレビ受信の障害原因と思われれば、この製品の電源を切ることによりご確認いただけます。電源を切ることにより受信障害が解消されればこの製品が原因と考えられます。

もし障害の原因なら、次の手順のいずれか、あるいはいくつかを組み合わせることでお試しいたください。

- テレビやラジオのアンテナの向きを変え、受信障害の発生しない位置をさがしてください。
- この製品から離れた場所にテレビやラジオを設置してください。
- この製品とは別の電源供給路にあるコンセントにテレビやラジオを接続してください。

はじめに

この度は、カラーインクジェットプロッタ「JV4 Series」をお買いあげいただき、誠にありがとうございます。

「JV4 Series」は、高速6色で作図するカラーインクジェットプロッタです。

本取扱説明書をよくお読みになり、お客様のニーズに合わせた作図にお役立てください。



★「JV4 Series」は、高速ヘッド移動など危険を伴う場合があります。本装置の取り扱いには、怪我や破損を防止するために、必ず本取扱説明書をよくご理解いただいてから操作してください。

取扱説明書について

- 本書は、カラーインクジェットプロッタ「JV4 Series」（以後本装置と称します）の、操作やメンテナンスなどの取り扱いについて説明いたします。
- 本書をお読みになり、十分理解してからお使いください。また、本書をいつも手元に置いてお使いください。
- 本書は、本装置をお使いになる担当者のお手元に確実に届くようお取りはからいください。
- 本書は、内容について十分注意して作成していますが、万一不審な点がありましたら、販売店または弊社営業所までご連絡ください。
- 本書は、改良のため予告なく変更する場合があります。ご了承ください。
- 本書が焼失／破損などの理由により読めなくなった場合は、新しい取扱説明書を弊社営業所にてお買い求めください。

本装置のご紹介

本装置の持つ特長をご紹介します。本書で説明する操作方法と併せて作図のご理解にお役立てください。

1Way 高速プリントができます

より美しく、高速になった最新ピエゾ方式ヘッドを、前後2列にスタガ配列することにより、1Wayで6ヘッドの高精密、高速6色作図ができます。

2Way マルチプリントができます

2Wayで2種インクx3ヘッドの精密6色プリンタ2台分として使用できます。使用用途に合わせて、登載インクを任意可能としました。

新たに水性染料インク・分散染料インクを使用できます

ミマキ純正のインクを3種類用意しました。

水性顔料インク : 従来の顔料系のインクです。耐光性に優れた大型カラーサインディスプレイ（看板等）の、屋外用のプリントに最適です。

水性染料インク : 染料系インクです。発色性に優れ、ポスターなどの屋内用プリントに最適です。

分散染料インク : 分散染料系インクです。作図した画像を違うメディアに転写する用途に使用します。

高精細・高画質作図ができます

バリアブルドットモードを使用し、高精細な作図が可能です。

最高1440dpiの解像度による高画質な作図が可能です。

最高7mmの厚さのメディアに対応しています

ボードなどの厚みのあるメディアに対応したプリントが可能です。

0.1mm～7.0mmの厚みのメディアにプリントできます。

幅のあるメディアを使用した作図の左右端の浮きを防止します

「JV4-130」は最大1381mm幅のメディアを、「JV4-160」は最大1620mm幅のメディアを、および「JV4-180」は最大1910mm幅のメディアを使用できます。作図中のメディア左右端の浮きを防止する「カールストッパー」を使用して、メディアの反り返りによるヘッドとの接触を低減しました。

インク残量を表示します

使用中のインクの残量を表示して確認できますので、無駄なくインクやメディアを使用可能です。

見やすいディスプレイ

プロッタの設定メニューを表示する「ディスプレイ」が見やすい2行表示になりました。バックライトも付いて、暗い場所での表示認識が可能になりました。英語・スペイン語など6ヶ国の外国語表示が可能です。

作図の情報を確認します

作図中のプリント長をディスプレイに表示したり、作図条件の情報を作図して確認できます。

高速インターフェースを使用できます

高速インターフェース「IEEE1394」の使用により、コンピュータからのデータ受信を高速に行えます。

版下作図が可能

専用の版下フィルムを使用して、最高 1440 x 1440dpi の高解像度で版下を作成できます。

巻き取り装置による長尺作図ができます

本装置と連動した「巻き取り装置」が作図終了したメディアを巻き取るので、長尺作図が可能です。

メディア置き用のサポートバーが付きました

本装置の後ろ側に、メディアセット時のサポートバーを設置しました。幅広のロール紙など重量のあるメディアのセット時に、サポートとしてご使用ください。

オプションでメディアの繰り出し装置が付きました

「JV4-180」モデルに対応した、「メディアの繰り出し装置」がオプションで付きました。本体のロールホルダで使用できないメディアをセットして使えるようにできます。

安全にお使いいただくために

マーク表示について

本書では、マーク表示により操作上の注意内容を説明しています。注意内容により表示するマークは異なります。各マーク表示の持つ意味をご理解し、本装置を安全に正しくお使いください。

マーク表示の例 1

本書の説明文の中によく使用しているマークです。



★「警告」マークは、表示の指示を無視して誤った取り扱いをすると、人が死亡または傷害を負う可能性が想定される内容を示しています。



★「注意」マークは、表示の指示を無視して誤った取り扱いをすると、物的損害の発生が想定される内容を示しています。



●「ヒント」マークは、知っておくと便利なことが書かれています。操作の参考にしてください。

マーク表示の例 2



△マークは、注意（危険・警告を含む）を促す内容があることを告げるものです。△中に具体的な注意事項（左図の場合は感電注意）が書かれています。



⊘記号は、禁止の行為であることを告げるものです。図の中や近傍に具体的な禁止内容（左図の場合は分解禁止）が書かれています。



●記号は、行為を強制したり、指示する内容を告げるものです。図の中に具体的な指示内容（左図の場合は差し込みプラグをコンセントから抜いてください）が書かれています。

絶対にしないでください

 警告	
<p>組立時</p> <p> ★ 本装置は梱包総重量が200Kg程あります。組立作業は4人以上で行って下さい。</p>	<p>電源・電圧について</p> <p> ★ 表示された電源仕様で使用してください。 また、電源ケーブルのプラグは、必ずアース処理されたコンセントに差し込んでください。 火災・感電の原因になります。</p>
<p>分解・改造はしない</p> <p> ★ 本装置やインクカートリッジの分解・改造は、絶対にしないでください。 感電や故障の原因になります。</p>	<p>電源ケーブルの取り扱い</p> <p> ★ 電源ケーブルを傷つけたり、破損したり、加工しないでください。また、重い物をのせたり、加熱したり、引っ張ったりすると電源ケーブルが破損し、火災・感電の原因になります。</p>
<p>湿気が多い場所では使用しない</p> <p> ★ 湿気が多い場所での使用や、装置に水をかけないでください。 火災や感電、故障の原因になります。</p>	<p>インクカートリッジの取り扱い</p> <p> ★ インクカートリッジや廃インクタンクは、子供の手の届かない場所に保管してください。</p> <p> ★ インクが皮膚や衣服に付着した場合は、直ちに石けんや水で洗い流してください。 万一、インクが目に入った場合は、直ちに水で洗い流し医師の治療を受けてください。</p> <p> ★ インクカートリッジを強くたたいたり、激しく振り回さないでください。カートリッジからインクが漏れる場合があります。</p> <p> ★ インクカートリッジのインクの詰め替えはしないでください。 インクを詰め替えて使用したことによって生じた不具合について、弊社はいっさい責任を負いかねます。</p>
<p>異常事態の発生</p> <p> ★ 万一、煙が出ている、へんな臭いがするなどの異常事態のまま使用すると、火災・感電の原因になります。すぐに、電源スイッチをオフにして、その後必ずプラグをコンセントから抜いてください。煙が出なくなるのを確認してから、販売店または弊社営業所に修理をご依頼ください。 お客様による修理は危険ですから絶対におやめください。</p>	
<p>ロール紙について</p> <p> ★ ロール紙は重いので、落とさないよう注意してください。足などの上に落とすと、ケガをする恐れがあります。</p>	

使用上のご注意

注意

定期交換部品があります。



- ★ 本装置には、3000～5000時間で定期的に交換する部（インク供給、チューブ等）があります。保守契約をしていたり、ご依頼をいただくとお勧めいたします。

ホコリから守る



- ★ できるだけホコリの少ない部屋で利用してください。悪環境下では、リフレッシュレベルを2または3に設定してください。（⇒4章メンテナンス機能）
- ★ 作図しないときも必ずフロントカバーは閉めておいてください。ホコリがヘッドノズルに付着する原因になります。
- ★ 夜帰宅する際は、メディアをロールハンガーに掛けっぱなしにしないでください。メディアの上にホコリが付着してしまいます。
- ★ メディアは袋に入れて保管してください。メディアに付着したホコリを拭き取ると、静電気により逆効果になってしまいます。
- ★ キャッピングステーションの拭き掃除（ホコリ、紙粉）は、こまめに行ってください。また、毛羽だったワイパはホコリをこすりつけている事と同じですので、毛羽だったワイパは即交換してください。
- ★ 作図中に、突然インクの雫がヘッドからメディアに落ちるのもホコリが原因です。この場合は、ヘッドクリーニングを実行してください。（⇒4章メンテナンス機能）

フロントカバーとレバーについて



- ★ 作図中にフロントカバーを開けたり、レバーを上げたりしないでください。作図が終了してしまいます。

メディアについて



- ★ メディアは、JV4専用紙をお使いください。専用紙以外を使用して発生したトラブルについては、責任を負いかねます。

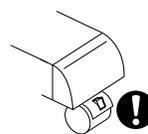


- ★ カールのきついいメディアは、カールを取り除いてから使用してください。カールがきついと、画質に影響を及ぼします。

キャストのロック



- ★ 必ず、キャストをロックしてから作図してください。ロックをしないで作図すると、装置が動きだす場合があります。



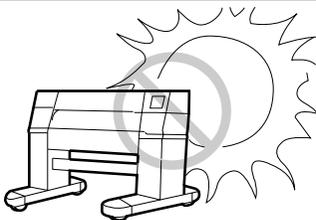
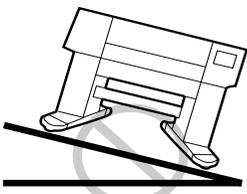
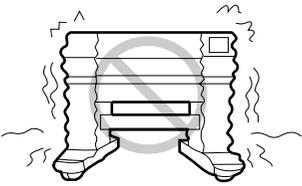
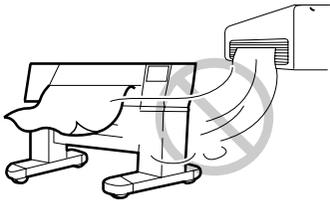
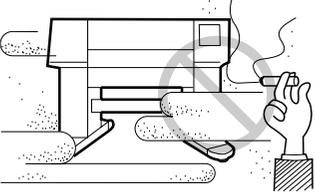
警告ラベルについて



- ★ 本装置には、2種類の警告ラベルが貼ってあります。警告ラベルの内容を十分理解してください。なお、警告ラベルが汚れて読めなくなったり剥がれた場合は、新しい警告ラベルを販売店、または弊社営業所にてお買い求めください。

⚠ 注意	
<p>インクカートリッジについて</p> <p>! ★ カートリッジを寒い所から暖かい所に移した場合は、3時間以上室温環境下に放置してから利用してください。</p> <p>! ★ カートリッジは、取付直前に開封してください。 開封した状態で長時間放置しておくと、正常に作図できない場合があります。</p> <p>! ★ カートリッジは、冷暗所で保存してください。</p>	<p>! ★ カートリッジは、開封してから6か月以内に使い切ってください。 開封後、長時間経過したものは、作図品質が低下します。</p> <p>! ★ 専用インク以外を使用すると、故障の原因になります。専用インク以外を使用して故障した場合の修理は、お客様の負担になりますのでご了承ください。</p> <p>! ★ カートリッジ内のインクを詰め替えないでください。</p>

設置上のご注意

⚠ 注意	
<p>直射日光が当たる場所</p> <p>⊘ </p>	<p>水平でない場所</p> <p>⊘ </p>
<p>温度や湿度の変化が激しい場所</p> <p>! 次の環境下でお使いください。 使用環境 : 15 ~ 30℃ 35 ~ 65% (Rh)</p>	<p>振動が発生する場所</p> <p>⊘ </p>
<p>エアコンなどの風が直接当たる場所</p> <p>⊘ </p>	<p>粉塵・タバコの煙が充満している場所</p> <p>⊘ </p>

目次

ご注意	i
電波障害自主規制	ii
テレビ／ラジオの受信障害について	ii
はじめに	iii
取扱説明書について	iii
本装置のご紹介	iv
安全にお使いいただくために	vi
マーク表示について	vi
絶対にしないでください	vii
使用上のご注意	viii
設置上のご注意	ix
本書の読み方について	xv
本書の読み方	xv
ディスプレイとキーの表記	xvi
本書の構成	xvii

第1章 セットアップ

設置場所について	1-2
付属品の確認をします	1-3
各部の名称とはたらきについて	1-5
組立完成図（前面）	1-5
組立完成図（背面）	1-6
フロントカバー内部の名称とはたらきについて	1-7
キャリッジについて	1-7
キャッピングステーションについて	1-8
ピンチローラーとフィードローラーについて	1-8
メディアセンサーについて	1-9
カッター刃とカッターラインについて	1-10
ヘッド高さ調整棒と調整ネジについて	1-11
開梱と組み立てをする	1-12
脚と本体の組み立てをする	1-12
巻き取り装置を取り付ける	1-14
メンテナンスカバーを締める	1-15
廃インクタンクの取り付け	1-15
ロールホルダーの取り付け	1-16
本装置の移動	1-17

ケーブルを接続する	1-18
インターフェースケーブルを接続する	1-18
電源ケーブルを接続する	1-19
電源をオン／オフする	1-20
電源のオン	1-20
電源のオフ	1-21
フロントカバーについて	1-22
フロントカバーの開閉について	1-22
操作中のご注意	1-22
インクカートリッジについて	1-23
インクステーションについて	1-23
インクの種類について	1-24
インクの取り扱い上のご注意	1-25
インクタイプの表示について	1-25
インクの初期充填をする	1-26
インクカートリッジを装填する	1-27
1Way 高速プリント用のセッティング	1-27
2Way マルチプリント用のマルチユースセッティング	1-28
インク残量が少なくなったら	1-30
使用可能なメディアについて	1-31
使用可能メディア	1-31
メディア取り扱い上の注意	1-32
ボードメディアの取り扱いについて	1-33
メディアをセットする前に	1-34
ヘッドの高さ調整をする[効効効効]	1-34
ヘッド高さ調整をする場合のポイント	1-36
メディアをセットする	1-37
ロール紙をセットする	1-37
リーフ紙をセットする	1-42
ボードをセットする	1-44
使用するメディアの作図範囲を設定する	1-46
余白（デッドスペース）の変更	1-46
作図原点を設定する	1-47
作図原点の初期値	1-47
作図原点の設定	1-48
その他のセッティングについて	1-49
メディアサポートを取り付ける	1-49
巻き取り装置のスイッチを切り替える	1-49
トルクリミッタを調節をする	1-49
紙管へのテープ止め	1-50

第2章 基本機能の使い方

操作について	2-2
操作パネル	2-2
メニュー・モード	2-3
メニューツリー	2-4
画像データを作図する	2-6
作図を開始する	2-6
作図を中止する	2-7
作図が終了したら	2-7
ヘッドのインク詰まりや線の抜けを確認する	2-8
テスト作図を実行する	2-8
ヘッドのインク詰まりや線の抜けがある場合は	2-9
クリーニングを実行する	2-9
普段のお手入れ	2-11
長期間使用しない場合は	2-11
お手入れ上のご注意	2-11
紙粉を除去する	2-11
ワイパをクリーニングする	2-11
スライダ下面の付着インクの洗浄	2-12
外装のお手入れ	2-12

第3章 応用機能の使い方

応用機能について	3-2
ファンクションメニュー	3-2
作図条件の設定の前に	3-3
メニューモードを確認する	3-3
表示言語を設定する	3-3
複数の作図条件をまとめて登録する (タイプの選択)	3-4
各作図方式を設定する	3-5
プロッタ側で作図方式を変更する	3-5
画質と作図スピードの関係について [サス`ヒツツ]	3-5
解像度を拡張して作図する [カクチャウ]	3-6
作図方向について [カクコウ]	3-7
インクの発色が悪い場合は [カクネリ]	3-8
インクの乾きが遅い場合は [カクソウ`カン]	3-9
作図後にメディアを自動的にカットする [オートカット]	3-10
コンピュータと本装置の設定の優先順位を決める [コソウ`ユウ]	3-11

メディア左右の余白を増減する[ミキマージン]・[ヒタリマージン]	3-13
ホコリが多い場所や湿度の低い場所で使用する場合は[リフレッシュ]	3-15
メディア検出方法を設定する[メディア ケンシュツ]	3-16
ボード検出方法を設定する[ホート]	3-17
出力画像に縦縞が発生する場合は[キューチャク]	3-18
表示する長さの単位を決める[ミリ/インチ]	3-19
使用するインクの種類を設定する[インクタイプ]	3-20
設定してある作図条件を出力する[モード スタンプ]	3-21
版下フィルムを使用する[アートワークモード]	3-22
自動的にクリーニングをする[オートクリーニング]	3-24
作図中自動的にクリーニングする[オートクリーニング ²]	3-25
インクの残量が少なくなっても作図を続けるには[リゾバクサス]	3-27
メディアの厚みによる送り量の狂いを補正する[メディア 枕イ]	3-28
作図中にメディアの送り量を補正する	3-29
タイプごとに設定をリセットする[セッテイ リセット]	3-30

4章 メンテナンス機能

メンテナンスについて	4-2
ファンクションメニュー[メンテナンス]	4-2
メンテナンスの前に	4-3
メニューモードを確認する	4-3
メンテナンス機能の導入について	4-3
メンテナンス機能について	4-4
設定状態を作図する[リスト]	4-4
作図コマンドをHEXコードで作図する[データスタンプ]	4-5
ヘッドの高さ調整をした後に補正をする[ドットイ枕イ]	4-6
ステーション内部の掃除のためにキャリッジを移動する[キャリッジアクト]	4-8
クリーニングを実行しても作図不良が直らない場合は	4-9
カッターの切れが悪くなった場合は	4-10
ワイパの定期的なお手入れ	4-11
ワイパ取り扱い上のご注意	4-11
ワイパ交換のメッセージを表示したら[ワイパ コカシ]	4-13
使用メディアの変更時にヘッドの高さを調整する[タカサヨウイ]	4-15
版下フィルムを使用する際に確認すること	4-16
版下フィルム使用時のヘッドのカスレや欠けが無いかを確認する [アートワークテスト]	4-16
版下フィルムの作図状態に隙間がないかを確認する[リツツツシ]	4-17
インク装填後の表示メニューについて[インク ヲケテ]	4-19

使用中のインクの種類と異なる種類のインクを装填する場合 [インクコカ]	4-19
片方のインクステーションで作図をする[ジョット]	4-21
ロールメディアの残量をカウントする[MEDIAガントリー]	4-22
廃インクタンクのインクが溜まったら	4-24

第5章 困ったときは

故障?と思う前に	5-2
電源が入らない	5-2
作図できない	5-2
紙づまりが起こる/メディアが汚れる	5-3
画質不良がでたときは	5-4
白いスジ/カスレ/色の濃いスジが発生する(ヘッド移動方向)	5-4
リスト(P.4-4)の文字が用紙送り方向に2重、3重にブレる	5-4
往復印字でズレが発生する	5-4
色ごとにインクが重ならない	5-4
作図中のメディア上に大きなインク滴が落ちる	5-4
メッセージを表示するトラブル	5-5
ワーニングエラー	5-5
エラーメッセージ	5-6

付録

基本仕様	付録-2
インク仕様	付録-4
メニュー構造	付録-5
警告ラベルについて	付録-6

索引

本書の読み方について

本書の読み方

章の中に「タイトル」を付けてあります。

操作の手順を説明します。

本装置や操作に関する注意やヒントを表記します。

作図後にメディアを自動的にカットする[オートカット]

作図終了後、メディアを自動でカットする設定をします。
自動カットしない場合は、送信したデータを作図後続けて次の画像データを作図します。
メディアはオートカットを設定していなくても、手動でカット可能です。(P.2-7「作図の終了」を参照)

ON : 作図終了後、メディアを自動的に切断します
OFF : 作図を終了しても、自動的にメディアを切断しません

操作手順

① タイプの選択をします。(P.3-4を参照)
ここでは[タイフ 1]を選択します。

タイフ 1
エンタク : タイフ 1

② [ENTER] キーを押します。

ENTER タイフ 1
タイフ 1
エンタク < ent >

③ ジョグキー [▲] [▼] を押して、自動切断 [オートカット]を選びます。

タイフ 1
オートカット < ent >

④ [ENTER] キーを押します。

ENTER タイフ 1
オートカット : OFF

⑤ ジョグキー [▲] [▼] を押して、自動切断の[OFF]-[ON]を選択します。
ここでは、[ON] を選択します。

タイフ 1
オートカット : ON

⑥ [ENTER] キーを押します。

ENTER タイフ 1
オートカット < ent >

 作図を終了してからオートカットを開始するまでの時間は、乾燥時間の設定 (P.3-9を参照) で設定可能です。

⑦ [END] キーを2回押すと、メニューが (ローカル) モードに戻ります。

END << 0-25 >>
R/N : 1272mm

設定メニューの選択項目を操作の前に説明します。

操作中にディスプレイに表示する内容です。

操作中に使用する【操作キー】を表示します。

3-10

章ごとにページを付けています。

ディスプレイとキーの表記

本取扱説明書では、操作手順と合わせて操作パネルの「ディスプレイ」(P.2-2を参照)に表示する文字や、使用する【キー】を説明しています。
使用中に確認しながら、操作を進めてください。

ディスプレイ表記

ディスプレイの表記は、右の図の様に四角い枠の中に、表示する内容を文字表記します。

操作手順の説明文に合わせて、確認しながら操作を進めます。

ディスプレイに表示する設定項目やメッセージを、文章中では[タイ°1]・[Pigcm]・[カフヨ]・[シバ°ラカマチク°サイ]の様に[カッコ]を使用して説明しています。

FUNCTION セッテイ	< ENT >
------------------	---------

セッテイ セントク	: タイフ°1
--------------	---------

操作キー

本取扱説明書では、操作キーを文章中で【カッコ】を使用して説明しています。

【▲】【▼】はジョグキーを意味します。

その他の操作キーは、【FUNCTION】の様に操作キーの名称を【カッコ】の中に表記します。

(P.2-2を参照)

本書の構成

本書は、5つの章に分けて本装置の取り扱いの説明をしています。

<p>はじめに</p> <p>本装置をご使用になる前に、ご理解していただきたいことや、本書の読み方を説明しています。</p>	<p>はじめに</p>
<p>1章 セットアップ</p> <p>本装置の開梱から組み立てまで、またロール紙のセットなど、本装置のセットアップについて説明します。</p>	<p>1</p>
<p>2章 基本機能の使い方</p> <p>作図開始から終了までの、基本操作について説明します。ここでの操作を覚えて、応用機能をご使用ください。</p>	<p>2</p>
<p>3章 応用機能の使い方</p> <p>作図条件の設定をするファンクションメニューなど、作図方法の応用機能について説明します。</p>	<p>3</p>
<p>4章 メンテナンス機能</p> <p>画質不良・画質劣化の対処や、ワイパやカッター刃などの消耗品の交換方法など、ステーション内部のメンテナンスについて説明します。</p>	<p>4</p>
<p>5章 困ったときは</p> <p>本装置になんらかの異常が発生した場合のトラブルの解消方法について説明します。</p>	<p>5</p>
<p>付録</p> <p>本装置の仕様、ファンクションメニュー構造表、出力サンプル、および別売品のご紹介について説明します。</p>	<p>付録</p>
<p>索引</p> <p>知りたい機能および項目を検索する時にご覧ください。</p>	<p>索引</p>



第1章

セットアップ

本装置の開梱から組立までと、インクやロール紙のセットなど本装置のセットアップについて説明します。

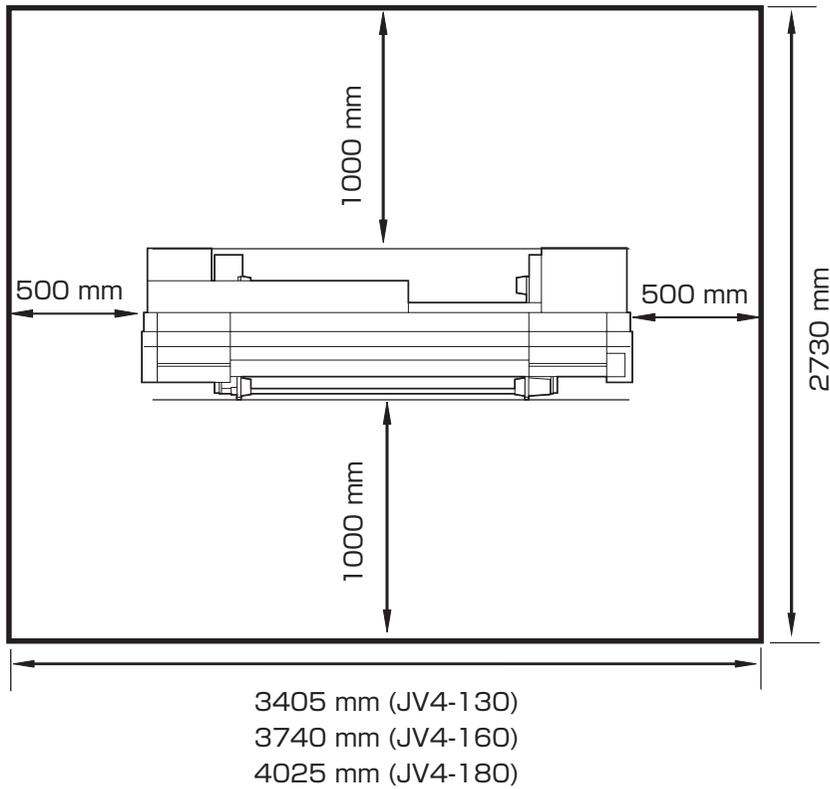
本章の内容

設置場所について.....	1-2
付属品の確認をします.....	1-3
各部の名称とはたらきについて.....	1-5
フロントカバー内部の名称とはたらきについて.....	1-7
開梱と組み立てをする.....	1-12
ケーブルを接続する.....	1-18
電源をオン/オフする.....	1-20
フロントカバーについて.....	1-22
インクカートリッジについて.....	1-23
インクの初期充填をする.....	1-26
インクカートリッジを装填する.....	1-27
インク残量が少なくなったら.....	1-30
使用可能なメディアについて.....	1-31
メディアをセットする前に.....	1-34
メディアをセットする.....	1-37
使用するメディアの作図範囲を設定する.....	1-46
作図原点を設定する.....	1-47
その他のセッティングについて.....	1-49

設置場所について

本装置を組み立てる前に、設置するスペースを確保してください。
本体の大きさと作図のために必要なスペースを考慮して設置します。

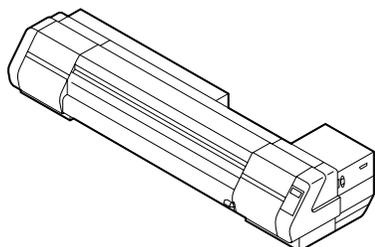
機種	横幅	縦幅	高さ	全体重量
JV4-130	2410 mm	730 mm	1205 mm	140 Kg 以上
JV4-160	2470 mm	730 mm	1205 mm	153 Kg 以上
JV4-180	3025 mm	730 mm	1205 mm	158 Kg 以上



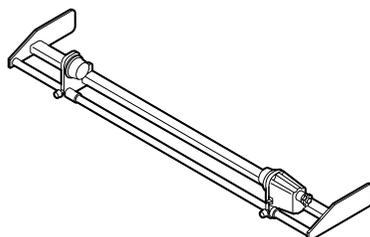
付属品の確認をします

梱包箱を開け、部品を確認してください。

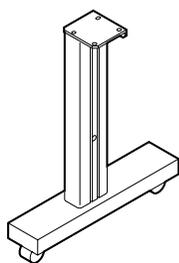
不足しているものがありましたら、お買い求めいただいた販売店または最寄りの販売店、もしくは弊社営業所にお問い合わせください。



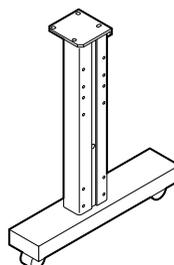
本体



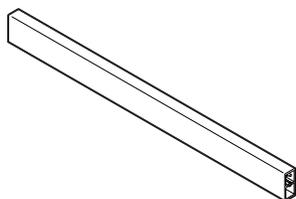
巻き取り装置



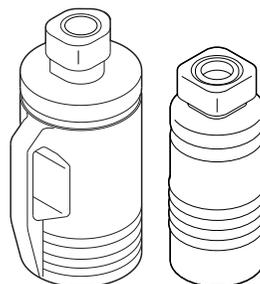
左脚



右脚



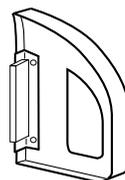
脚ステー



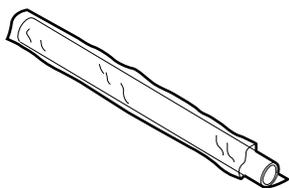
2リットルタンク 1本
1リットルタンク 1本
廃インクタンクボトル



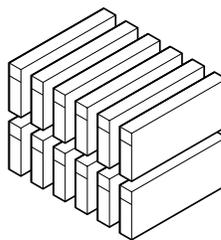
2P-3P変換アダプタ



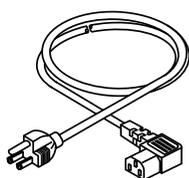
メディアサポート 4ヶ



作図フィルム (設置調整用)



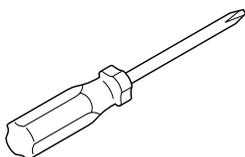
インクカートリッジ (6色 各2ヶ)



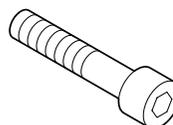
電源ケーブル



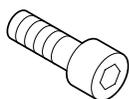
L型六角レンチ



プラスドライバー



ステー取り付け用 M8 キャップボルト長 2ヶ



本体取り付け用 M8 キャップボルト短 4ヶ
(JV4-180, 8ヶ)



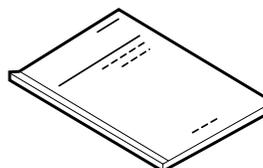
巻き取り装置取り付け用 M4 ネジ 4ヶ



IEEE1394 ドライバー
(Windows2000 専用)



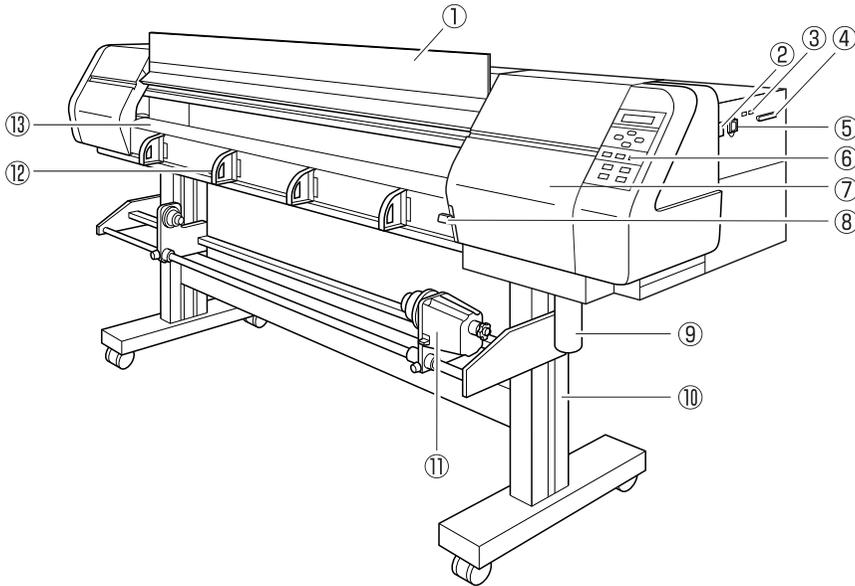
ブラシ



取扱説明書 (本書)

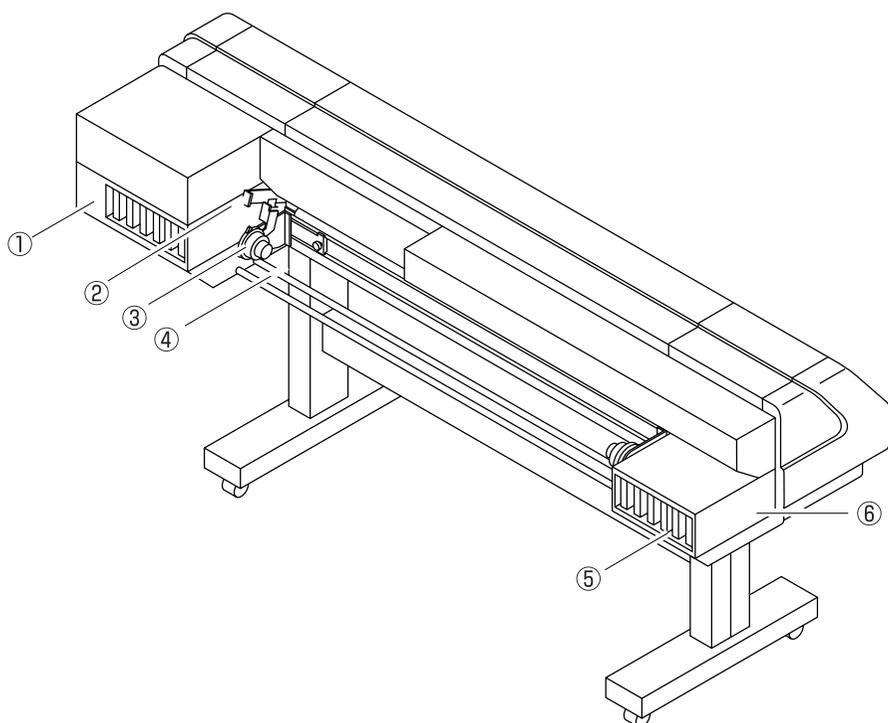
各部の名称とはたらきについて

組立完成図（前面）



	名称	はたらき
①	フロントカバー	用紙のセット、用紙詰まりの処置およびステーション内部のメンテナンス時に開けます。
②	電源スイッチ	本装置の電源をオン/オフします。
③	IEEE1394 コネクタ	400Mbps の IEEE1394 に準拠したインターフェースです。
④	パラレルコネクタ	双方向パラレルインターフェースコネクタです。(IEEE1284 準拠)
⑤	AC インレット	電源ケーブルを接続します。
⑥	操作パネル	本装置に必要な設定を行う操作キーや、操作項目を表示するディスプレイがあるパネルです。
⑦	メンテナンスカバー	キャリッジのカバーです。ステーションメンテ (P.4-8)の際に、ネジを緩めて開きます。
⑧	クランプレバー (前)	ピンチローラを上下して、メディアを保持 / 解放します。
⑨	廃インクタンク	廃インクを溜めるタンクです。本装置の左右 2 箇所に取り付けます。
⑩	脚	本体を支える部分です。本装置を移動するためのキャスタが付いています。
⑪	巻き取り装置	作図終了後のロール紙を自動で巻き取ります。
⑫	メディアサポート	キャンバス等の硬めのメディアの浮き上がりを防ぎます。
⑬	プラテン	プラテンに沿って、用紙を出力します。

組立完成図（背面）



	名称	はたらき
①	F列インクステーション	6色のインクカートリッジをセットします。
②	クランプレバー（後）	ピンチローラを上下して、メディアを保持／解放します。
③	ロールホルダー	ロール紙の紙管の左右に入れて、ロール紙を保持します。 2インチと3インチの紙管に対応しています。
④	メディア置きバー	ロール紙を取り付けるときに、ロール紙をのせてセットしやすくするためのバーです。
⑤	インクカートリッジ	各色のインクが入っています。
⑥	R列インクステーション	6色のインクカートリッジをセットします。

フロントカバー内部の名称とはたらきについて

フロントカバーの内部には、作図時に使用するキャリッジやキャッピングステーションなどがあります。フロントカバーの内側の機構について説明します。

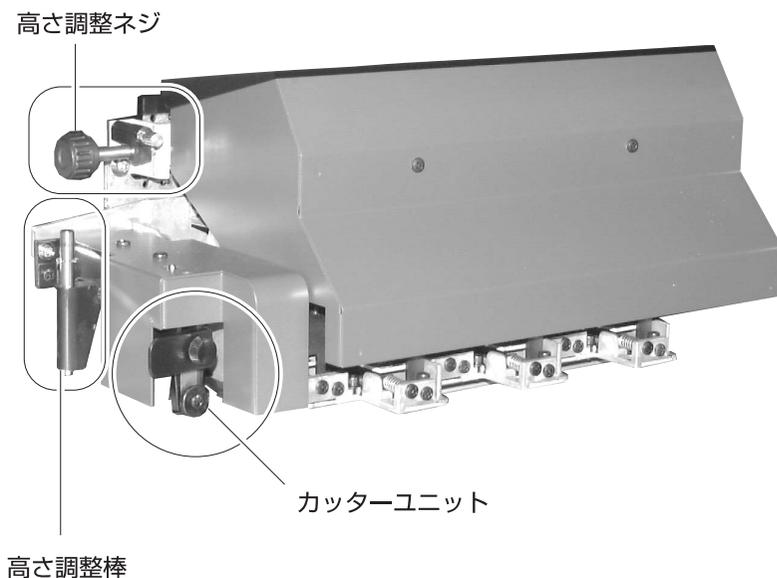
キャリッジについて

キャリッジには、作図用のインクヘッドや、メディアカット用のカッターユニットなどがあります。また、多様なメディア厚に合わせてヘッドの高さを調整するための高さ調整ネジが付いています。

キャリッジは作図やメディアのカット、メディア検出時に動きます。

キャッピングステーション内部のメンテナンス作業をする場合は、ステーションメンテを実行してキャリッジを移動します。

(P.4-8「ステーション内部の掃除のためにキャリッジを移動する[キャリッジアウト]をお読みください。)



注意

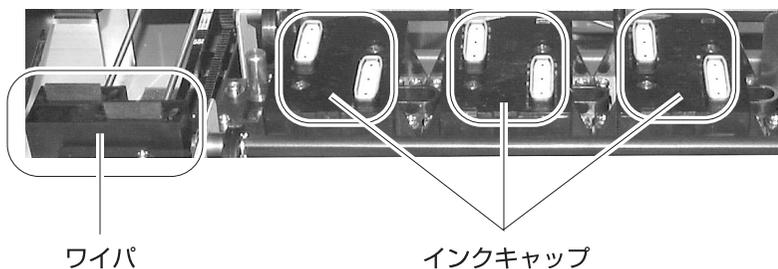
- ★ メディアをセットし作図を開始する際は、キャリッジの高さ調整を必ず設定してください。(P.1-34を参照)
- ★ 高さ調整をせずに作図を開始すると、メディアの破損のみならず本装置まで破損する恐れがあります。

キャッピングステーションについて

キャッピングステーションはインクキャップやヘッドのメンテナンスに必要なワイパなどで構成されています。

インクキャップは、インクヘッドのノズル乾きを防ぎます。

ワイパは、ヘッドのクリーニングに使用します。



ピンチローラーとフィードローラーについて

本装置では「ピンチローラー」と「フィードローラー」でメディアを保持し、作図時にメディアを前側に送り出します。



注意

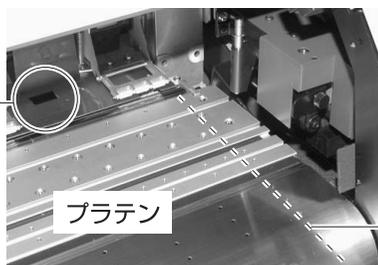
★ 本装置を使わない時は、ピンチローラーを上にした状態にして置いてください。

ピンチローラーを下げたまま長時間放置しておくと、ピンチローラーが変形し、メディアを確実に保持できなくなる場合があります。



- ★ リーフメディアを使用する場合、プラテン右端の穴（ガイド）より右側にメディアが出ないようにセットしてください。

メディアセンサー



プラテン

メディアガイド

メディアセンサーについて

メディアセンサーは、メディアの有無とメディア長の検出をします。
プラテン上にはメディアセンサーが1箇所あります。

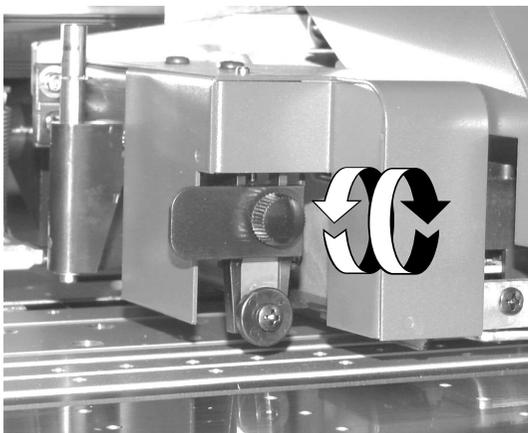


- ★ メディアは必ずプラテン後部側のメディアセンサーを覆い隠すようにセットしてください。センサー上にメディアがないと、メディア検出を実行できません。

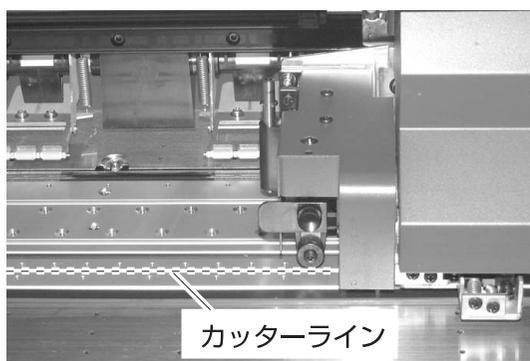
カッター刃とカッターラインについて

キャリッジにはメディアをカットするカッターユニットが付いています。
カッター刃でメディアをカットする場合の、カッターラインについて説明します。
メディアカットについては、手動裁断 (P.2-7を参照)、または自動裁断[オートカット](P.3-10を参照)
をお読みください。

カッター刃



カッターライン



ヘッド高さ調整棒と調整ネジについて

メディアを新しくセットする際や、厚みの異なるメディアをセットした場合は、ヘッドの高さを調整します。



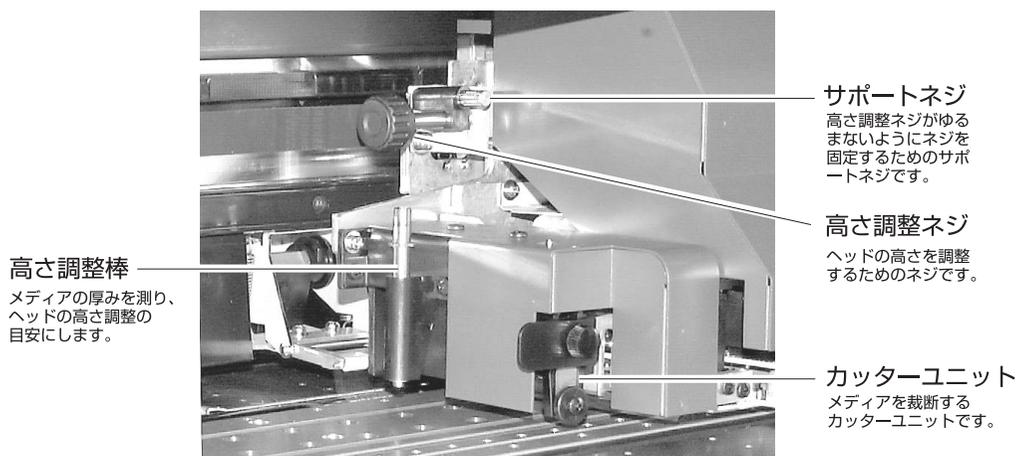
注意

- ★ メディアの再セット後、ヘッドの高さ調整をせずに動作するとヘッドがメディアにぶつかり破損する恐れがあります。



注意

- ★ ヘッドの高さ調整については、「第1章 セットアップ」高さ調整[外付け型] (P.1-34) をお読みください。



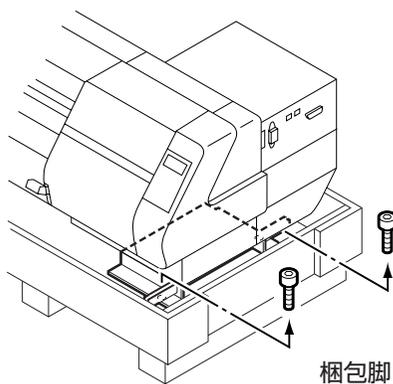
開梱と組み立てをする

脚と本体の組み立てをする

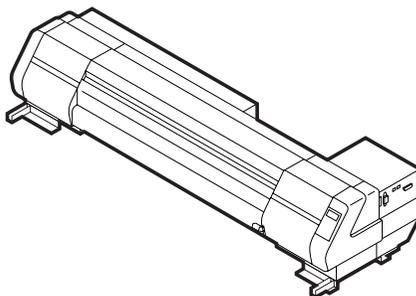


- ★ 本体の重量は、梱包総重量が 200 kg程あります。安全のため 4 人以上で組み立ててください。
- ★ 本体を足の上に落とさないように注意してください。

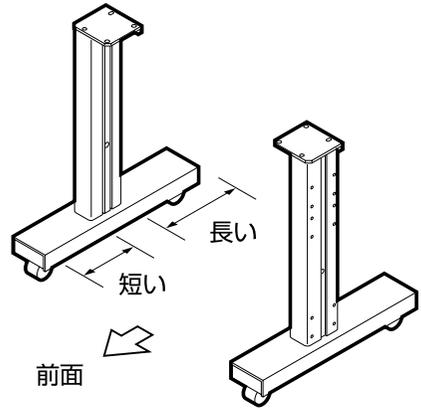
- ① 梱包脚と梱包パットを止めているボルト 4 ヶを外します。



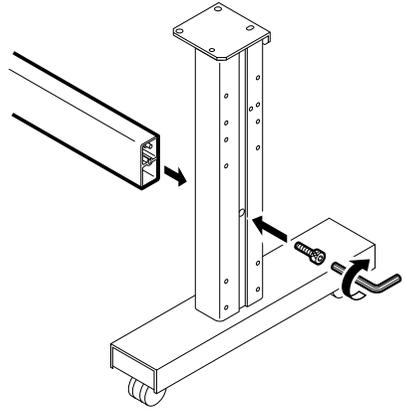
- ② 本体を梱包脚ごと梱包箱から取り出し、床に置きます。



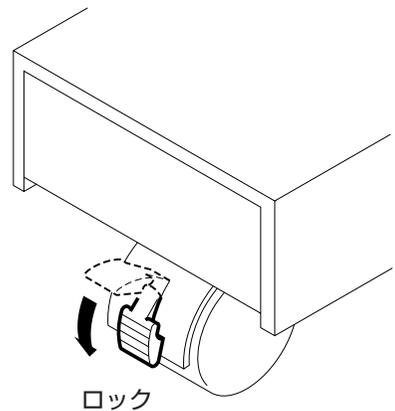
- ③ 梱包箱から脚を取り出します。
 ネジ取り付け用の丸い穴を、外側に向けてください。
 脚ステーを取り付けるために、2本の溝がある方が
 内側になります。



- ④ ステーを脚に止めます。
 ステーを脚に取り付けます。
 脚の溝に沿うように、ステーを脚に差し込み、付属
 のL型レンチを使用しネジで締めます。



- ⑤ 脚のストッパをロックします。
 足ASSYが動かないように、ストッパをロック
 します。



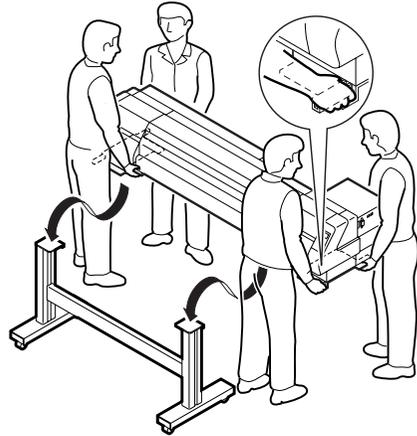
- ⑥ 4人で本体の両端を持ちます。
梱包脚の支え棒を持ってください。



- ⑦ 手を挟まないように注意しながら、本体を脚に
のせます。
本体のネジ穴が、脚トップのネジ穴と合う位置に
置いて下さい。
脚トップの下からネジで止めます。

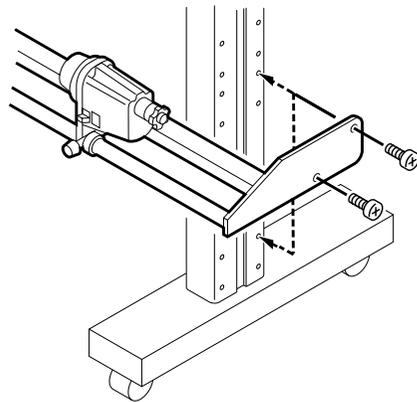


★ 本体は重量があるので落とすと
大変危険です。落とさない用に
注意してください。

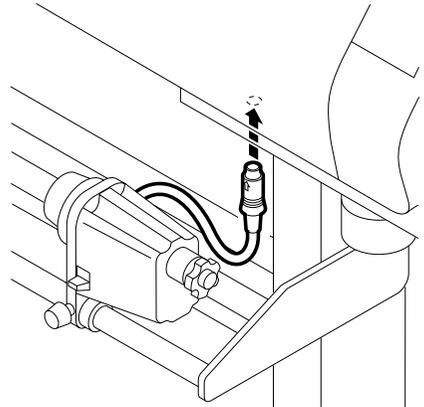


巻き取り装置を取り付ける

- ① 巻き取り装置を取り付けます。
巻き取り装置のネジ穴を、脚の外側のネジ穴に合わせ、
ネジで固定します。
巻き取り装置は、取り付ける高さを選択できます。
使いやすい高さのネジ穴に固定してください。



- ② 巻き取り装置のケーブルを、キャッピングステーションの底にあるコネクタ (右側) に差し込みます。



メンテナンスカバーを締める

- ① メンテナンスカバーを締めます。
- ② ネジでカバーを固定します。



注意

★ メンテナンスカバーはステーションメンテ (P.4-8 ~ 4-13) の際以外は、開けないでください。作図中にメンテナンスカバーを開けると、画像の作図が中断され、継続できなくなります。

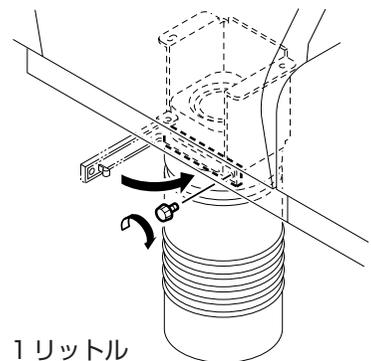


廃インクタンクの取り付け

廃インクタンクは、左右別々のタンクを取り付けます。プロッタの正面から見て右側に2リットル用の廃インクタンクを取り付けてください。

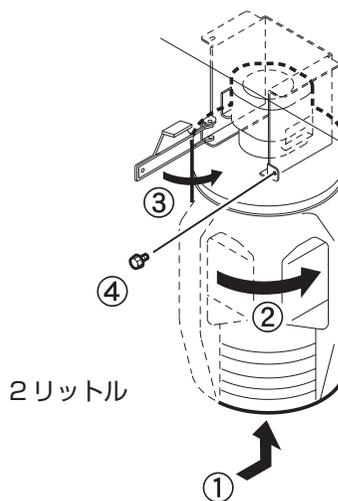
左側廃インクタンク

- ① 左側のブラケットに廃インクタンク ASSY を差し込みます。
- ② ブラケットを閉じ、止めネジで固定します。



右側廃インクタンク

- ① 右側のブラケットに廃インクタンク ASSY を差し込み、上に持ち上げます。
- ② 廃インクタンク ASSY を奥側へ 90° 回転させます。
- ③ ブラケットを閉じ、止めネジで固定します。



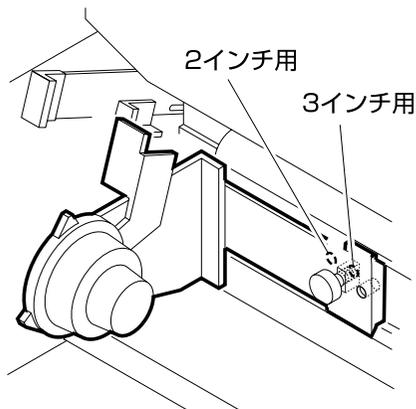
ロールホルダーの取り付け

- ① 左側のロールホルダーの固定位置を変更します。
左側のロールホルダーの固定位置は2ヶ所あります。
使用するメディアの紙管の太さに合わせて、左側のロールホルダーの固定位置を変更し、ネジで止めます。

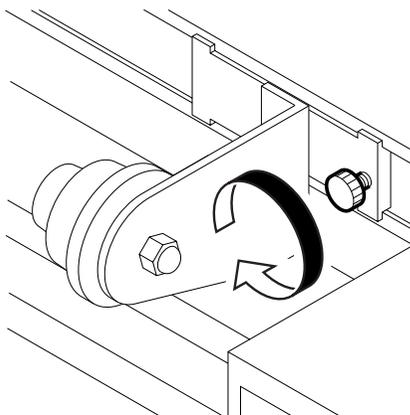
紙管 : 2インチ 外側の止め穴
紙管 : 3インチ 内側の止め穴



★ 出荷時は3インチ紙管用にセットしてあります。



- ② 右側のロールホルダーを付属のネジで固定します。
メディアの幅に合わせて調整して下さい。



本装置の移動

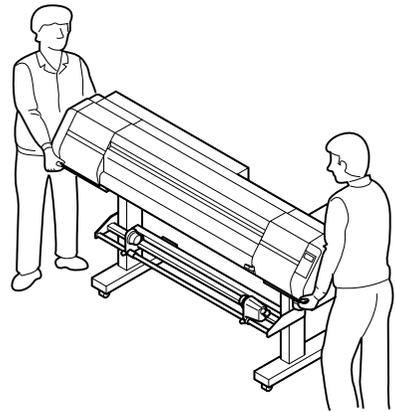
本装置を組み立て後、設置場所などへの移動方法について説明します。
移動するときは、キャストのストッパのロックを解除してください。



- ★ 移動する時は、大きな振動を与えないでください。
- ★ 移動後は、必ずキャストのストッパをロックしてください。

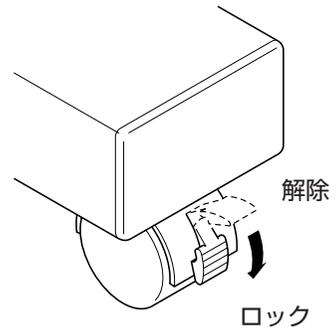
移動方法

本装置を移動するときは、2人以上で図のように
運んでください。
カバーを押すと割れる場合があります。



キャストのロック

装置を移動するときは、ストッパを上げてロック
を解除してください。
脚のキャストには、ストッパが付いています。
本装置を設置するときは、ストッパを下げてキャスト
をロックします。



ケーブルを接続する

インターフェースケーブルを接続する

コンピュータと本装置をインターフェースケーブルで接続します。
本装置は、2種類のインターフェースケーブルが使用可能です。ご使用のコンピュータや、出力ソフトに合わせて使用するケーブルと接続を選択してください。



★ インターフェースケーブルを接続するときは、本装置の電源スイッチオフにしてください。

Windows 2000 をご使用の場合は (IEEE1394)

ご使用のコンピュータが Windows 2000 の場合は、コンピュータと本装置を IEEE1394 のインターフェースケーブルで接続します。

コンピュータと本装置を IEEE1284 のインターフェースケーブルで接続することも可能ですが、IEEE1394 を使用したデータ送信より遅くなります。



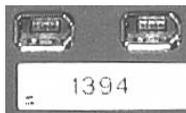
★ ご使用のアプリケーションが IEEE1394 インターフェースに対応している必要があります。



★ IEEE1394 の2つあるコネクタは、どちらでもご使用になれます。



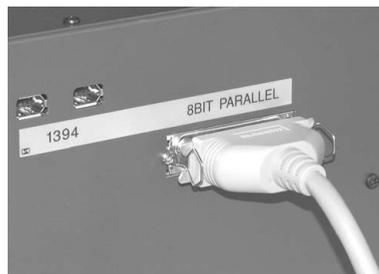
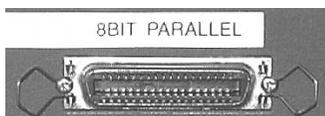
IEEE1394 コネクタ差し込み口の形状



Windows 2000 以外をご使用の場合は (IEEE1284)

Windows 2000 以外をご使用の場合は、コンピュータと本装置を IEEE1284 のインターフェースケーブルで接続します。

IEEE1284 コネクタ差し込み口の形状



★ Windows 2000 をご使用のお客様で、IEEE1394 のボードがコンピュータに付いてない場合は、お近くの RIP メーカーまたは弊社営業所までお問い合わせください。

電源ケーブルを接続する

電源ケーブルを接続します。

以下の仕様のコンセントに、電源ケーブルを接続してください。

- ・ 電圧 : AC100—240V ± 10%
- ・ 周波数 : 50/60Hz ± 1Hz
- ・ 容量 : 4A 以上 (400W 以上)

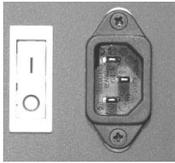


注意

- ★ 電源ケーブルは、アース処理されたコンセントに接続してください。感電および本装置が破損する恐れがあります。
- ★ 電源ケーブルを接続するときは、本装置の電源スイッチをオフにしてください。

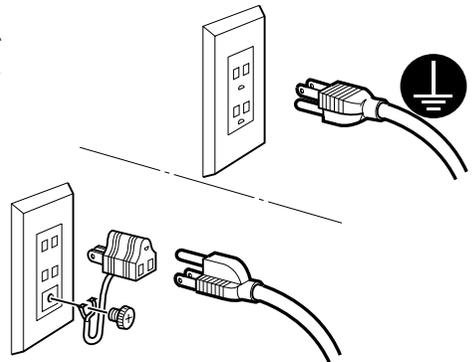
- ① AC インレットに電源ケーブルを接続します。

AC インレット差し込み口の形状



- ② 電源ケーブルを 3 極のコンセントに接続します。

2 極のコンセントの場合は、電源ケーブルのプラグに付属の接地アダプタを接続します。接地アダプタの緑色の線（アース線）を、アース処理してください。



電源をオン／オフする

本装置のセットアップが終了したら、以下の手順に従って電源のオン／オフを行ってください。

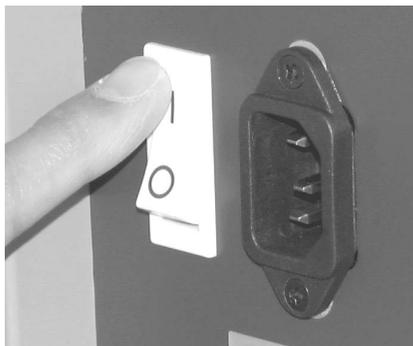
電源のオン

- ① 本装置の電源を入れます。
電源スイッチを「|」側に倒すと、電源がオンになります。



注意

- ★ このとき、フロントカバーは閉じておいてください。
開けておくと電源を入れてもキャリッジが動きません。



電源をオンにすると[BOOT]を表示し、続けてファームウェアのバージョンを表示します。

- ② [シバラオマチクガイ]の表示を点滅します。
- ③ ローカルモードになります。
- ④ 接続してあるコンピュータなどの電源をオンにします。

BOOT

Ver. *.*.*

シバラオマチクガイ

<< ローカル >>



注意

- ★ 初めて電源をオンにした場合は、インク充填用の表示をします。
インクを初期装填してください。
(P.1-26を参照)

インクタイプ

R : Pigcm

F : Dye



注意

- ★ メディアをセットしてある場合は、メディア選択の表示をします。
メディアを選択後、メディア検出をして (P.3-16を参照) ローカルモードに戻ります。

メディアセンタ
ロール < > リーフ

<< ローカル >>

サイズ : 1272mm

電源のオフ

電源をオフにするときは、データを受信していないか、未出力のデータが残っていないかを確認してください。

また、ヘッドがキャッピングステーションにあることを確認してください。



★ キャッピングしていないまま電源をオフした場合は、再度電源をオンにしてください。ヘッドがキャッピングステーションに戻り、ヘッドの乾燥を防ぎます。

作図中に電源をオフすると、ヘッドがキャッピングステーションに格納されない場合があります。キャッピングしていない状態で長時間放置するとノズル詰まりの原因になります。

- ① 接続してあるコンピュータなどの電源をオフにします。
- ② 本装置の電源を切ります。
電源スイッチを「○」側に倒します。



フロントカバーについて

フロントカバーの開閉について

作図中はフロントカバーを開けないでください。

作図中にフロントカバーを開けると、安全のためキャリッジを停止し、本装置の作図動作が止まります。

この場合、次の操作手順で本装置およびコンピュータを再起動してください。



★ 作図中にフロントカバーを開けないでください。作図中にフロントカバーを開けると、画像の作図が中断され、継続できなくなります。

操作中のご注意

操作手順

- ① 作図中にフロントカバーを開けると、メッセージを表示します。
作図を停止します。

カバーが閉まっています

- ② コンピュータからのデータ送信を停止します。

- ③ フロントカバーを閉めます。

<ENT>を押してください

- ④ 【ENTER】 キーを 1 回押します。

ENTER



カバーが閉まっています

- ⑤ キャリッジが動き始めます。
本装置の電源をオンにした時と同じ初期動作をします。(P.1-20 参照)

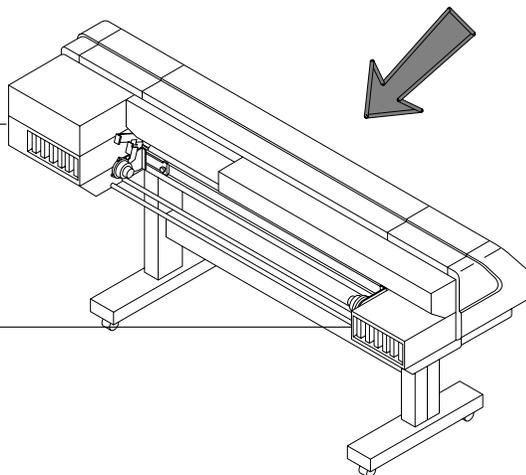
インクカートリッジについて

インクステーションについて

本装置を前から見て、左側にあるインクステーションを「R列インクステーション」と呼び、右側にあるインクステーションを「F列インクステーション」と呼びます。

F列インクステーション
カートリッジ6本装填可
キャッピングステーションの前側の列「F列」にインクを供給します。

R列インクステーション
カートリッジ6本装填可
キャッピングステーションの後ろ側の列「R列」にインクを供給します。



★ 上の図は本体を後ろから見た図です。



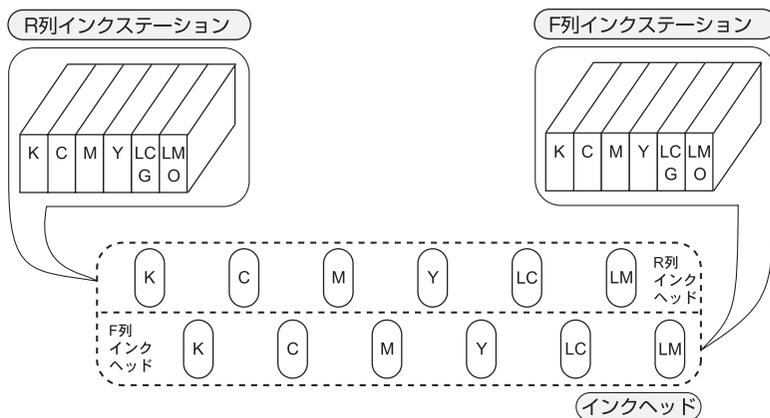
★ 1個のインクステーションには、6本同じインクタイプのインクカートリッジをセットします。各色の配置場所は決められていますので、正しい位置にインクカートリッジをセットしてください。

インクステーションとヘッド列の関係

「F列インクステーション」はヘッドの前側「F列」にインクを供給します。

「R列インクステーション」はヘッドの後ろ側「R列」にインクを供給します。

ヘッドのノズル詰まりのチェックやインクを充填する場合の対応関係にご使用ください。



インクの種類について

本装置では以下の4種類のインクが使用可能です。
インクの各種類の特長を説明します。



★ インクカートリッジは、ミマキ純正品をご使用ください。

水性顔料インク [PIGcm] : 耐候性に優れた顔料系インクです。大型カラーサインディスプレイ（看板等）の、屋外用プリントに最適です。
1セット（6色 x 220 cc）
6色セット[ブラック・シアン・マゼンタ・イエロー・ライトシアン・ライトマゼンタ]をご使用いただけます。

水性顔料インク [PIGOG] : 耐候性に優れた顔料系インクです。大型カラーサインディスプレイ（看板等）の、屋外用プリントに最適です。
1セット（6色 x 220 cc）
6色セット[ブラック・シアン・マゼンタ・イエロー・オレンジ・グリーン]をご使用いただけます。

水性染料インク [Dye] : 染料系インクです。ポスターなどの屋内用プリントに最適です。耐候性は顔料系インクに比べ劣ります。黒を版下作成モードで使用します。
1セット（6色 x 220 cc）
6色セット[ブラック・シアン・マゼンタ・イエロー・ライトシアン・ライトマゼンタ]をご使用いただけます。

分散染料インク [Sub] : 分散染料系のインクです。作図した画像をその他のメディアに転写する用途に使用できます。
1セット（6色 x 220 cc）
6色セット[ブラック・ブルー・マゼンタ・イエロー・ライトブルー・ライトマゼンタ]をご使用いただけます。

インクの取り扱い上のご注意



注意

- ★ インクカートリッジは、ミマキエンジニアリング純正のインクカートリッジをご使用下さい。
- ★ インクカートリッジは分解しないでください。
- ★ インクには毒性はありませんが、インクに直接ふれないようにしてください。誤ってインクを付けてしまったときは、石けんや水ですぐに洗い落としてください。万一、インクが目に入ったときは、大量の流水で洗い、医師に相談してください。
- ★ インクカートリッジを強く振らないでください。強く振ったり、振り回したりすると、カートリッジからインクがもれることがあります。
- ★ インクカートリッジのインクを詰め替えないでください。故障の原因になります。また、インクを詰め替えて使用したことによって生じた不具合について、弊社はいっさい責任を負いかねます。
- ★ 専用インク以外を使用すると、故障の原因になります。専用インク以外を使用して故障した場合の修理は、お客様の負担になりますのでご了承ください。
- ★ インクカートリッジを寒い所から暖かい所に移した場合は、3時間以上、室温環境下に放置してから使用してください。
- ★ インクカートリッジは開封してから6カ月以内に使い切ってください。開封後、長時間経過したものは作図品質が低下します。
- ★ インクカートリッジは冷暗所で保存してください。
- ★ インクカートリッジは、子供の手の届かない場所に保管してください。
- ★ 空になったインクカートリッジは、使用している地域の条例に従って処分してください。

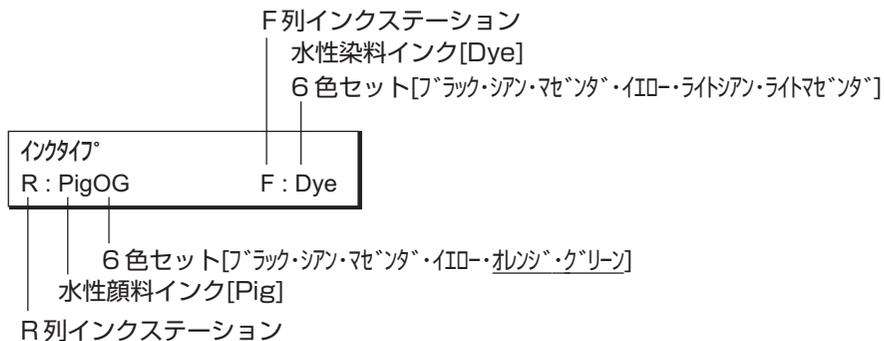
1

セ
ッ
ト
ア
ッ
プ

インクタイプの表示について

インクタイプは、インクを新しく装填する場合やタイプの異なるインクを装填する場合、あるいはすでに装填してあるインクについてどのタイプを使用するかを決定する際に表示します。

インクステーションの「R列」「F列」とインクのタイプ、およびインクのセット色（ライトシアン・ライトセシアンまたはブラック・シアン・マゼンタ・イエロー・ライトシアン・ライトセシアン）についての情報を表示します。



インクの初期充填をする

本装置を初めて使用する場合、本装置にインクカートリッジを取り付けてインクを充填する必要があります。

以下の操作手順にしたがって、インクカートリッジを取り付けてください。

操作手順

- ① 電源をオンにします。

初期動作後、各インクステーションに装填するインクタイプを表示します。

インクタイプ°
R : Pigcm F : Dye

- ② ジョグキー【▲】【▼】を押して、R列インクステーションに装填するインクの種類を設定します。

↑	インクタイプ°
○	R : Dye F : Dye
○	
▼	

[Pigcm] 水性顔料インク(ライトシア・ライトマゼンタ°)
[PigOG] 水性顔料インク(オレンジ・グリーン)
[Dye] 水性染料インク
[Sub] 分散染料インク

- ③ ジョグキー【◀】【▶】を押して、カーソルを移動します。

←	○	インクタイプ°
	○	R : Dye F : Dye

- ④ ジョグキー【▲】【▼】を押して、F列インクステーションに装填するインクの種類を設定します。

↑	○	インクタイプ°
	○	R : Dye F : Dye
▼		

- ⑤ 【ENTER】キーを押します。

ENTER	カートリッジ°リセットジテクタ°サイ
-------	--------------------

- ⑥ インクステーションに各インクカートリッジを差し込んでください。

インクカートリッジ底の2個の突起をインクステーションのレールに合わせて差し込みます。インクカートリッジを正規の位置まで差し込むと、音を鳴らしてお知らせします。

- ⑦ インクカートリッジをセットすると、自動的にインク充填が始まります。

ジ ュ テ ン チ ュ

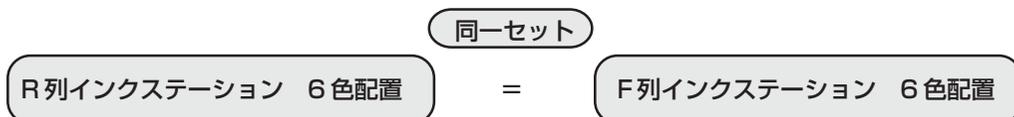
- ⑧ インク充填を終了すると、ローカルモードになります。

<< ローカル >>

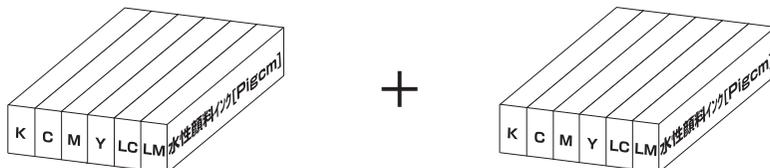
インクカートリッジを装填する

1Way 高速プリント用のセッティング

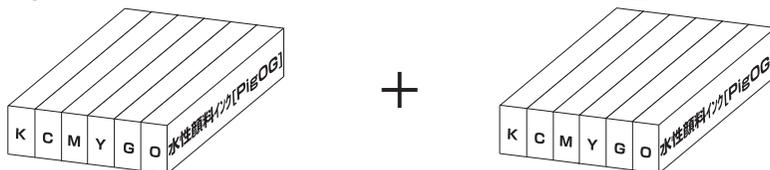
左右両方のインクステーションに同じタイプの同色インクをセットすると、高速作図ができます。



水性顔料(ライトセット) インクを使用した高速作図



水性顔料(オレンジ・グリーンセット) インクを使用した高速作図



水性染料インクを使用した高速作図



分散染料インクを使用した高速作図



- インクの初期充填またはインク交換の際に、各インクステーションごとにインクタイプを登録します。(P.1-26を参照)
登録したインクタイプは、作図情報の確認や使用ヘッドの切り替えに必要になります。



- 2個のインクステーションに同じ種類のインクを2セット装填した場合は、作図中に[イグニート]になっても、片側のインクセットだけを使用して、作図を中止せずに次のデータから連続して作図可能な[ソノタカス]機能を使用できます。(P.3-27を参照)

2Way マルチプリント用のマルチユースセッティング

異なるタイプのインクを2種類セットしておくことで、使用するインクを使い分けて作図できます。インクカートリッジの交換無しで、使用するインクタイプを選択するだけで使い分け作図ができます。

以下の6通りの組み合わせができます。



- 作図する前に使用するインクタイプを選択して使用します。(P.1-26を参照)



- 「R列インクステーション」「F列インクステーション」のどちらにセットしても使用する際にヘッドを選択して使用するのので、同様に作図します。

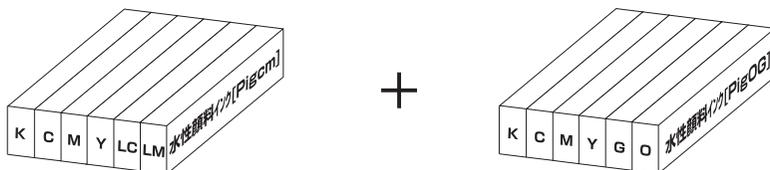
異なるセット

R列インクステーション 6色配置

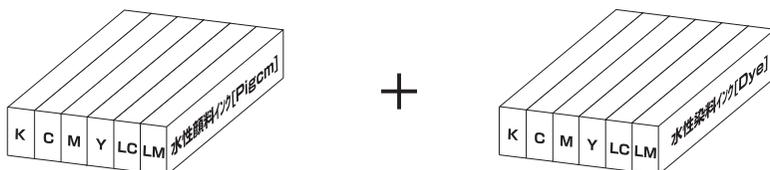
≠

F列インクステーション 6色配置

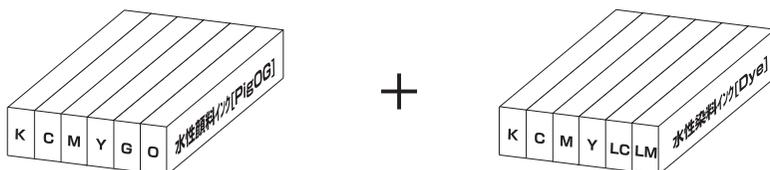
水性顔料 (ライトセット) インクと水性顔料 (オレンジ・グリーンセット) インクのセット



水性顔料 (ライトセット) インクと水性染料インクのセット



水性顔料 (オレンジ・グリーンセット) インクと水性染料インクのセット



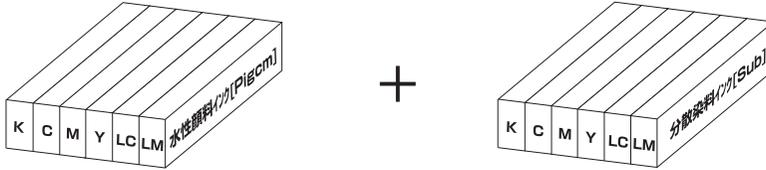
異なるセット

R列インクステーション 6色配置

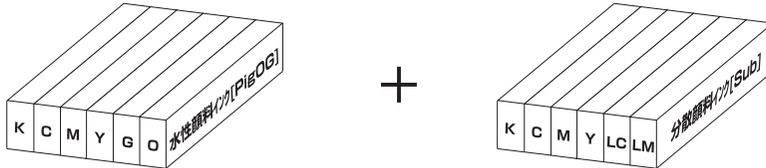
≠

F列インクステーション 6色配置

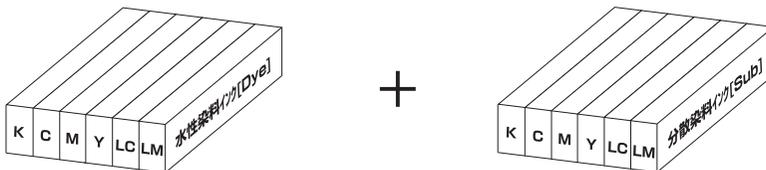
水性顔料（ライトセット）インクと分散染料インクのセット



水性顔料（オレンジ・グリーンセット）インクと分散染料インクのセット



水性染料インクと分散染料インクのセット



- インクの初期充填またはインク交換の際に、各インクステーションごとにインクタイプを登録します。（P.1-26を参照）
登録したインクタイプは、作図情報の確認や使用ヘッドの切り替えに必要になります。

インク残量が少なくなったら

同じ種類のインクの補充は、新しいインクカートリッジに交換して行います。インクカートリッジの交換をしないと、インク残量がなくなった場合に作図を中断します。インクニアエンドのメッセージを表示したら、速やかに新しいインクカートリッジを装填してください。

1. 使用中に、インク残量が少なくなった場合
インク色を文字表示したインクの残量が減っています。R列インクステーションにK（ブラック）の新しいインクカートリッジを装填してください。

```
<ローカル> ニアエンド  
K - - - - - K - - - - -
```

2. 使用中にインクの残量が全く無くなった場合
インク色を文字表示したインクの残量が無くなりました。F列インクステーションにC（シア）の新しいインクカートリッジを装填してください。

```
<ローカル> インクニア  
- - - - - - C - - - - -
```

操作手順

- ① 作図中に、上記のメッセージを表示します。
[ニアエンド]の表示では、1 データ作図終了ごとにローカルモードになり、動作を停止します。作図が終了したら、操作手順②に進んでください。
[インクニア]の表示では、作図の続行はできません。
- ② 新しいインクと交換します。
インク色を文字表示したインクカートリッジを引き抜いて、新しいインクカートリッジを装填します。
- ③ インクカートリッジ装填が終わったら、再作図可能です。



- 2個のインクステーションに同じ種類のインクを2セット装填した場合は、作図中に[インクニア]になっても、片側のインクセットだけを使用して、作図を中止せずに次のデータから連続して作図可能な[レゾクサク]機能を使用できます。(P.3-27を参照)

使用可能なメディアについて

使用可能なメディアの取り扱い方法と、メディアのセット方法について説明します。

使用可能メディア

使用可能メディアは、ロール紙とリーフ紙およびボードがあります。

本装置で使用可能なメディアの種類とサイズを説明します。

使用可能メディアの種類

光沢系メディア	:	白ペット光沢紙、フォトペーパー、塩ビ光沢紙
マット系メディア	:	合成紙、塩ビマット、ターポリン、電飾フィルム
クロス系メディア	:	防災クロス
その他	:	版下フィルム、キャンバス、ターポリン、オレフィン耐水フィルム、(ボード)

使用可能メディアサイズ

使用可能メディアサイズは、JV4の機種により異なります。

ご使用の機種について参照してください。

	メディアサイズ	JV4-130	JV4-160	JV4-180
ロール紙	最大幅	1381 mm	1620 mm	1910 mm
	最小幅	210 mm		
	最大作図範囲	1371 mm	1600 mm	1870 mm
	厚さ	1.0 mm 以下		
	ロール外形	φ 150 mm 以下		
	ロール重量	20 Kg 以下		
	紙管内径	2 インチまたは 3 インチ		
	作図面	ロール外側面		
	巻終わり処理	紙管にテープ止めまたは弱粘着		
リーフ紙	最大幅	1381 mm	1620 mm	1910 mm
	最小幅	210 mm		
	最大作図範囲	1371 mm	1600 mm	1870 mm
ボード	厚さ	7.0 mm 以下		
	たわみ、歪み	1.0 mm 以下		

メディア取り扱い上の注意

メディアの取り扱いについて、次の点にご注意ください。



- ★ 専用紙のご使用
メディアは本装置用の専用紙をお使いください。専用紙以外のメディアを使用し、トラブルが発生した場合は、責任を負いかねますのでご注意ください。
- ★ メディアの厚さ
メディアをセットする場合、必ずヘッドの高さを調整してください。メディアやヘッドを破損する恐れがあります。
- ★ メディアの伸縮
包装を開けて間もないメディアは、使用しないでください。室内の温度や湿度によって、メディアが伸縮する場合があります。包装を開けて30分以上、使用する場所の外気にさらす必要があります。
- ★ カールしたメディア
カールしたメディアは使用しないでください。紙づまりの原因になります。コーティングした定型サイズ紙をまるめて保管する場合は、コーティング面が外側になるようにしてください。
- ★ その他の注意点
 - ・ コート紙の表面に物を置かないでください。コート紙によっては変色する場合があります。
 - ・ 透明なメディアや裏面が黒いメディアは、正しく検出できない場合があります。
 - ・ 専用紙については、別紙「オプション/消耗品 カタログ」をご覧ください。

ボードメディアの取り扱いについて

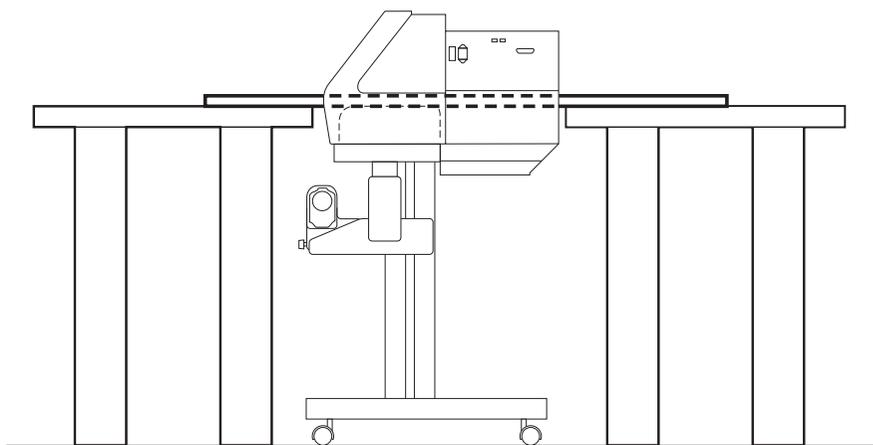


- ★ ボードメディアをお使いの場合には、ヘッド高さ調整を必ず行ってください。
ヘッド高さ調整を行わないと、ヘッドがボードに接触し、ヘッド部分が破損する危険性があります。
- ★ ボードメディアから薄いメディアお使いになる場合も、ヘッドの高さ調整を必ず行ってください。
- ★ 長さ 300mm 以上のボード、コシのないボードを使用する場合は、プラテン印字面とほぼ同じ高さの台をマシンの前後に置いてください。
台を使用せずにボードが傾いた状態で使用すると、ボード印字面がヘッドと接触したり、ボードが正常に送られないことがあります。
- ★ ボードの歪み、反りは 1mm 以内の物をお使いください。
反りの多いボードは正常に送られないことがあります。
- ★ ボードの裏面（印字面の反対側）に部分的な凸などがあるものは、使用しないでください。ボードが正常に送られなかったり、印字面にスジなどの印字不良が出る場合があります。

1

セットアップ

ボードの傾きを防止するために台をご用意ください



メディアをセットする前に

ヘッドの高さ調整をする[タカチョウセイ]

使用するメディアの厚みにより、ヘッドの高さを調整する必要があります。
メディア厚に適正なヘッド高さでない場合は、作図も適正に行われません。
また、ヘッド高さ調整をしないと作図品質の低下、またはメディアや本装置の破損になるなど大変危険です。前回使用したメディアと異なるメディアを使用する場合は、必ずヘッドの高さを確認してください。



注意

★ ヘッドの高さ調整はメディアセットする前に行ってください。
メディアをセットしたままの状態ですべての高さ調整を実行すると、キャリッジアウトの際に、メディアにキャリッジがぶつかり、ヘッドを破損するおそれがあります。

操作手順

- ① ファンクションモードにします。
(P.4-3 参照)

FUNCTION
メンテナンス < ENT >

- ② 【ENTER】 キーを押します。

ENTER
メンテナンス リスト < ent >

- ③ ジョグキー【▲】【▼】を押して、ヘッド高さ調整[タカチョウセイ]を選びます。

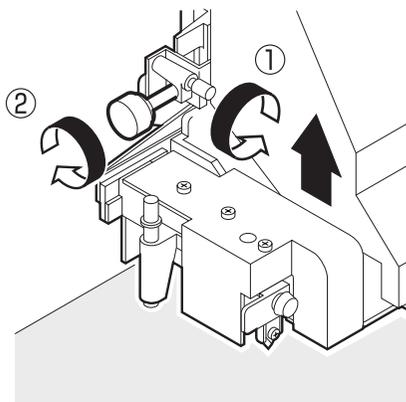
▲
メンテナンス タカチョウセイ < ent >
▼

- ④ 【ENTER】 キーを押します。
キャリッジが移動します。

ENTER
タカチョウセイ キャリッジアウト : ent

- ⑤ 使用するメディアをキャリッジの下に差し込みます。
キャリッジはインクステーションの外側に移動しています。

- ⑥ ヘッドの高さ調整をします。
1. サポートネジ①を緩め、高さ調整ネジ②を手前側にまわして、ヘッドを上に移します。

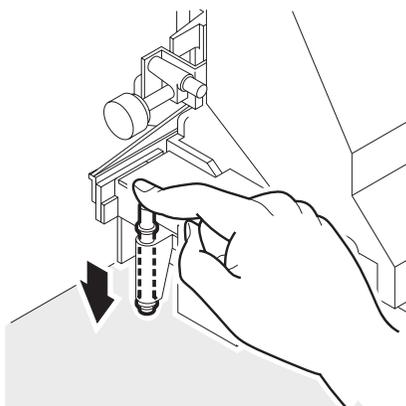


2. ヘッド高さ調整棒を、右手で上から押します。
ヘッド高さ調整棒を下に押ししても動かない位置まで押し込みます。

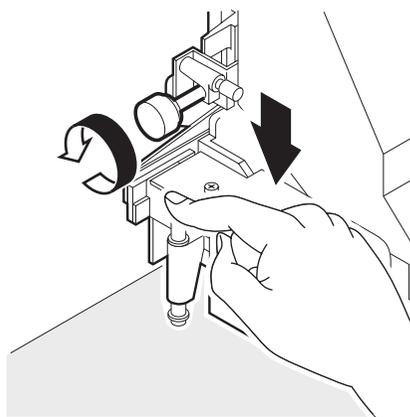
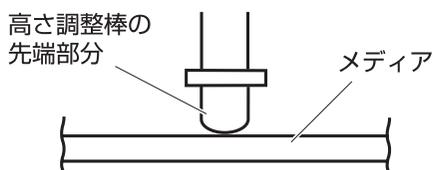


注意

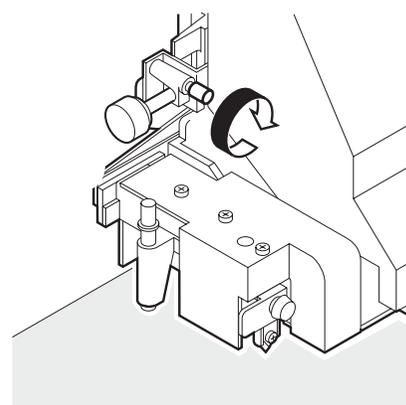
★ このときに、高さ調整棒の先端がメディア表面に着いてしまう場合は、前ページ操作手順⑥-1 を実行して、ヘッドをさらに上に上げてください。



3. ヘッド高さ調整ネジを奥側にまわして、ヘッドを下に移動します。
ヘッド高さ調整棒を押ししたままで、棒の先端が使用するメディアの表面に触れる高さまでヘッドを下げます。



4. ヘッド高さ調整が終わったら、サポートネジを締めます。



- ⑦ フロントカバーを締めます。
- ⑧ 【ENTER】 キーを押します。
キャリッジが動いて、ステーションに移動します。
- ⑨ ローカルモードに戻ります。



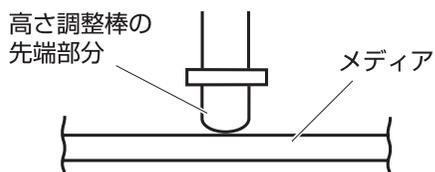
<< ローカル >>
ハバ : 1272mm

ヘッド高さ調整をする場合のポイント



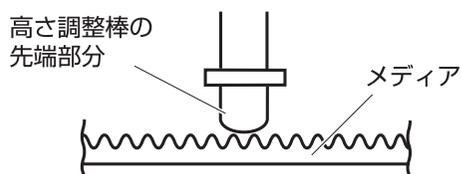
- ヘッド高さ調整は、高さ調整棒の先端がメディアの表面に触れる高さ
に調整すると、ヘッドとメディア印字面の距離が最適になります。
- ヘッドの高さを上げても、高さ調整棒の先端をメディア表面に触れる高
さで調整した場合は、メディア印字面とヘッドの距離は変わりません。
- メディア表面の毛羽立ちや、メディアエッジ部分のソリ、または作図中の
メディア凹凸をさけたい場合は、ヘッドとメディア印字面との距離を広げて
使用できます。
- ヘッドとメディア印字面の距離を広げた場合、印字品質は低下します。

適正位置



距離を広げた位置

毛羽立ちのあるメディアや、ソリや凹凸のあるメディアを使用する場合



- ★ ヘッドの高さを調整すると、作図点がずれます。ヘッド高さを調整した
際は、必ずドット位置補正を行ってください。(P.4-6を参照)

メディアをセットする

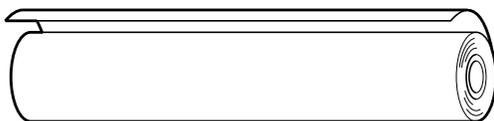
セット可能なメディアには、「ロール紙」、「リーフ紙」および「ボード」があります。
(P.1-31 を参照)

ロール紙をセットする

本装置にロール紙を取り付けます。ロール紙は、本装置の専用メディアを使用してください。
(P.1-31 を参照)

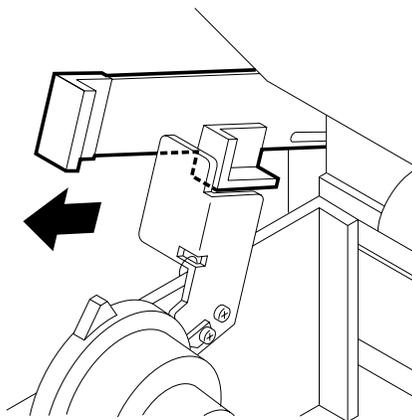


- ★ ロール紙は重いので、足などに落とさないように注意してください。
- ★ メディアをセットする際に、必ずヘッドの高さ調整の確認をしてください。
(P.1-34 を参照)



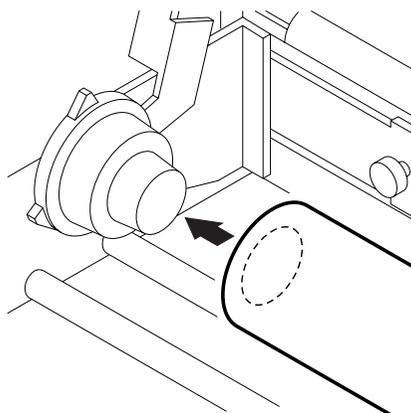
操作手順

- ① 後ろのクランプレバーを引き上げます。
ロールホルダーが本装置の前面方向にロックします。
後ろ方向はフリーに動きます。

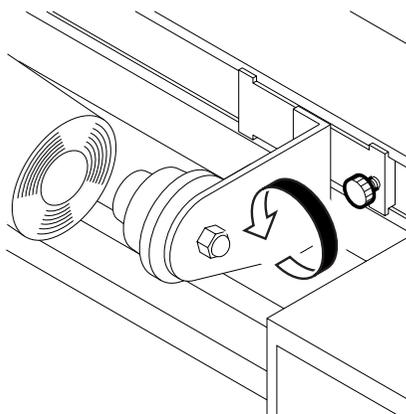


- ② 左側のホルダーに、ロール紙の紙管を差し込みます。
ロール紙の紙管が動かなくなるまで、奥に差し込んでください。

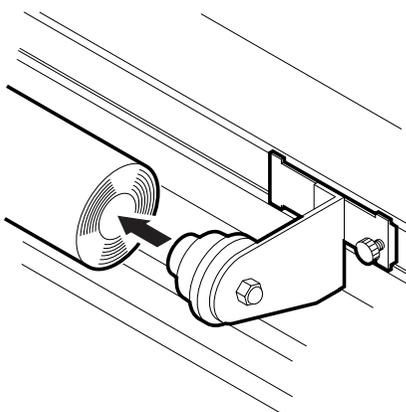
ロール紙の紙管の内径は、2インチと3インチの2種類の大きさがあります。
紙管の内径に合わせて、ロールホルダーに差し込んでください。(P.1-16 を参照)



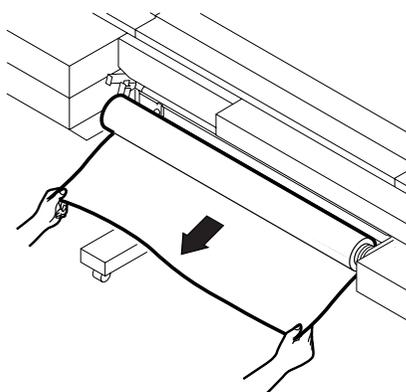
-
- ③ 右側のロールホルダーのネジを緩めます。
ロール紙の幅に合わせて、ロールホルダーの位置を調整します。
この際、ロール紙をメディア置きバーの上に置きながらセットすると、メディアの扱いが容易になります。



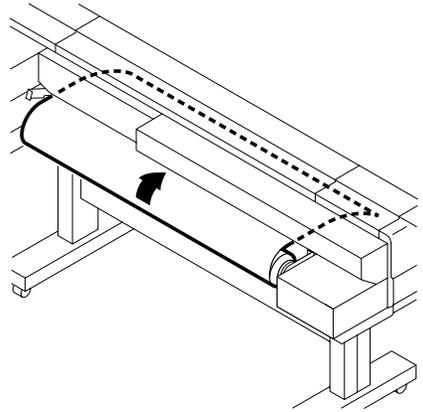
- ④ ロール紙の紙管に、右側のロールホルダーを入れます。
紙管の奥までロールホルダーを差し込んだら、ネジで固定します。



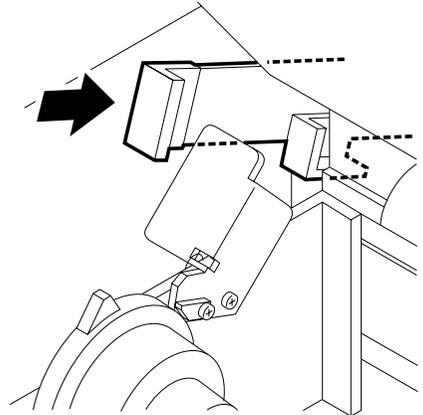
- ⑤ ロール紙を本装置の後ろ側から、50cmから60cmほど引き出します。



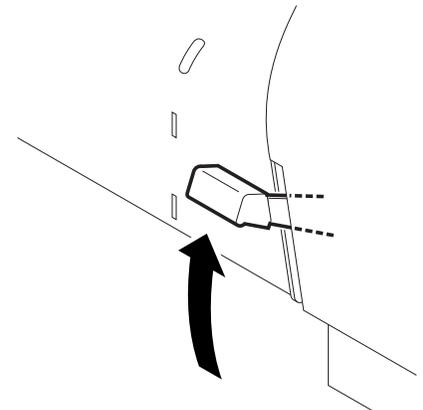
- ⑥ 引き出したロール紙を、プラテンとピンチローラーの間に差し込み、ロール紙を本装置の手前側に引き出します。



- ⑦ 後ろのクランプレバーを押します。ロール紙をピンチローラーで固定し、ずり落ちてこないようにします。

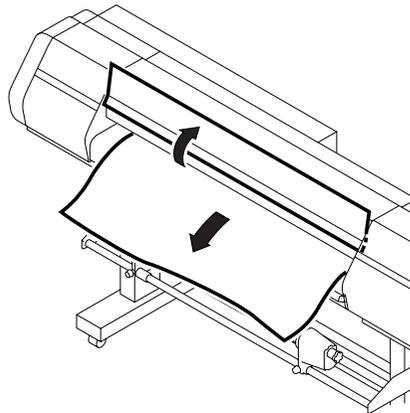


- ⑧ 本装置の前側のクランプレバーを引き上げます。ロールホルダーが再びフリーになり、ロール紙を動かせます。



⑨ フロントカバーを開けて、ロール紙を引き出します。

引き出す際に、ロール紙にしわがよらないように注意しながら引き出します。



⑩ 本装置前側のクランプレバーを下げます。

前側に引き出したロール紙を、ピンチローラーで固定します。

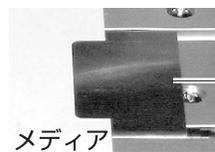
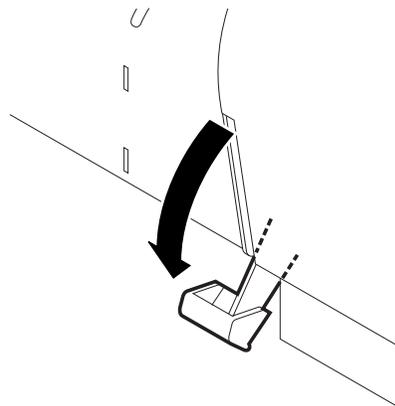


- ロールホルダーからプラテンに入るまでの間のロール紙に、不均一なテンションによるタワミ、シワが無いかを確認します。

ロール紙を左右均等に引っ張った状態で、クランプしてください。



- 使用するロール紙の幅が広いと、作図中にメディアの端が浮いてきます。「カールストッパー」を使用して、メディア端を押さえておくと、メディアの浮きを防止して、メディアがよれることなく作図できます。



カール
ストッパー

メディア

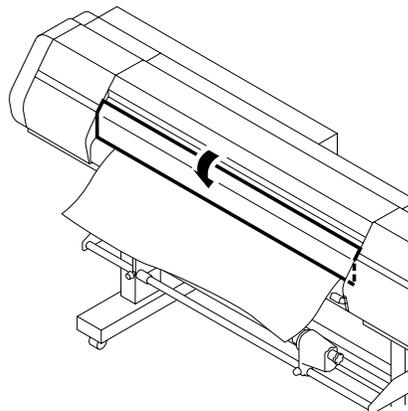


注意

- ★ 厚みのあるメディアを使用する場合は、「カールストッパー」をメディアから外して作図してください。

⑪ フロントカバーを閉じます。

作図は、フロントカバーを閉じた状態にしないと実行できません。



メディアをセットしたら

メディアをセットしてフロントカバーを閉じると、キャリッジが動いてメディア検出を行います。その後、ローカルモードになります。

<< ローカル >>
幅 : 1272mm

ディスプレイの表示

ロールメディアの残量カウント (P.4-22 参照) を ON にしている場合、セットしたメディアの長さ入力を行います。

- ① ジョグキー【▲】【▼】を押して、メディアの長さを入力します。

メディア ナガサ セット
50m

- ② 【ENTER】キーまたは【END】キーを押すと、ローカルモードになります。

<< ローカル >>
幅 : 1272mm



注意

- ★ 透明なメディアや、作図済みのメディアをセットすると、ディスプレイに次のメッセージを表示し、メディアを検出できない場合があります。

ERROR 50
メディア検出エラー



- メディア検出の設定方法については、本取扱説明書 P.3-16 をお読みください。
- 本装置の出荷時には、メディア検出は[検出]に設定してあります。セットしたメディアを選択して、メディア検出を実行します。
- メディアに直射日光が当たっていると、正しくメディア幅を検出できない場合があります。

メディアを交換する場合



注意

- ★ 使用するメディアを交換する場合は、必ずヘッドの高さ調整を確認してください。

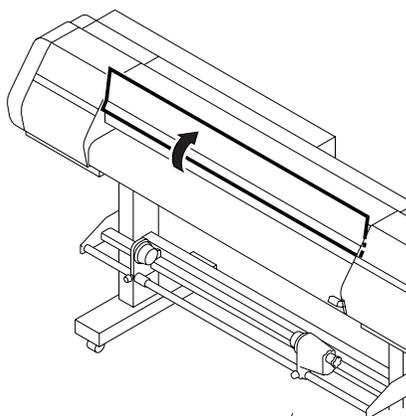
リーフ紙をセットする

リーフ紙はロール紙と異なり、メディアをロールホルダーに固定する必要はありません。
リーフ紙は本装置の前側からでも、後ろ側からでもメディアセットが可能です。



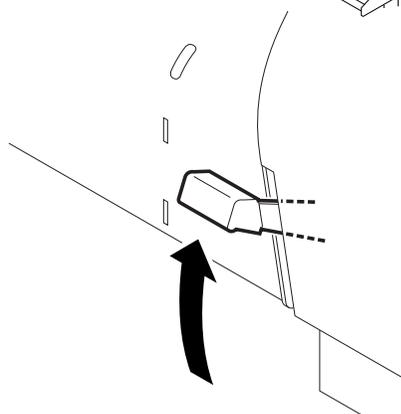
★ リーフ紙を使用する場合は、メディアが曲がってセットされないように注意してください。プラテン上のメディアガイドを目安にしてセットしてください。(P.1-9を参照)

- ① フロントカバーを開けます。



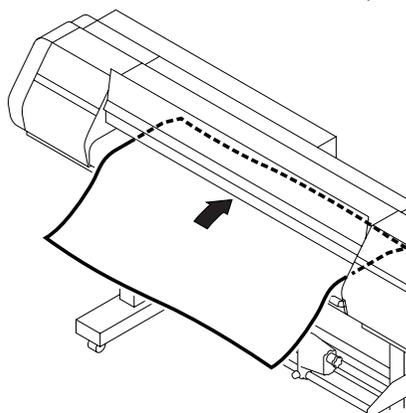
- ② クランプレバーを上げます。

本装置の前側からでも、後ろ側からでもクランプレバーを上げられます。

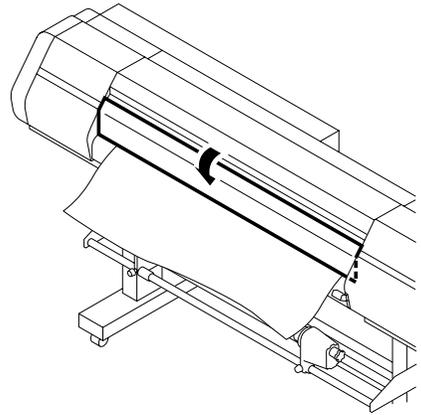


- ③ リーフ紙をピンチローラーとプラテンの間に差し込みます。

本装置の前側からでも、後ろ側からでもメディアセットが可能です。



- ④ フロントカバーを閉じます。

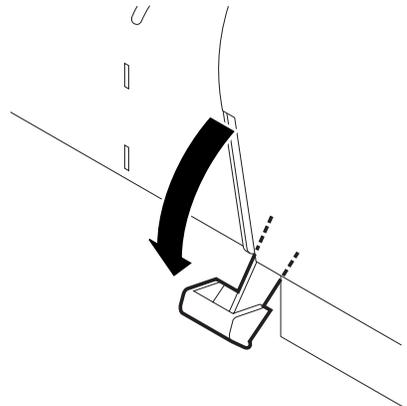


- ⑤ 【ENTER】 キーを押します。
初期動作後、ローカルモードに戻ります。
(P.1-20 を参照)



<ENT>ヲ オンタクサイ

- ⑥ クランプレバーを下げます。



- ⑦ ジョグキー 【▶】 を押します。
キャリッジが動いてメディア検出をします。
その後ローカルモードになります。



メディア センタク
ロール < > リーフ

<< ローカル >>
ハバ[°] : 1272mm

ボードをセットする

本装置にボードをセットします。

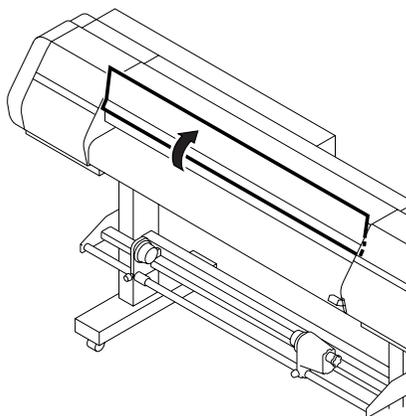
ボードは本装置の前側からでも、後ろ側からでもメディアセットが可能です。



- ★ ボードをセットする前に、必ずヘッドの高さ調整をしてください。
(P.1-34 を参照)
- ★ ボードメディアの傾きを防止するために、ボードを支持するための台をご用意ください。(P.1-33 を参照)
- ★ メディアの検出方法で、[ボード]の検出を[ON]にする必要があります。
(P.3-17 を参照)

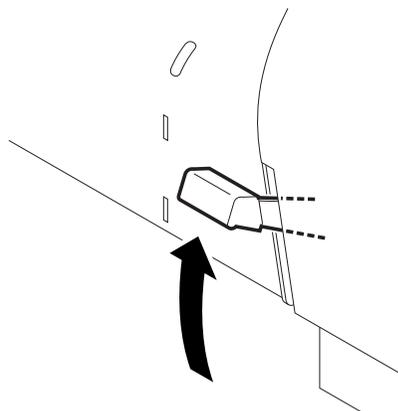
操作手順

- ① フロントカバーを開けます。

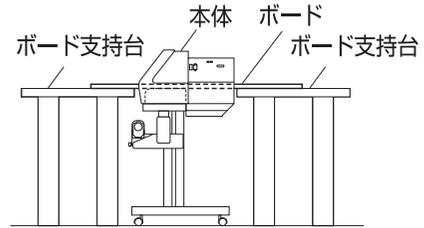


- ② クランプレバーを上げます。

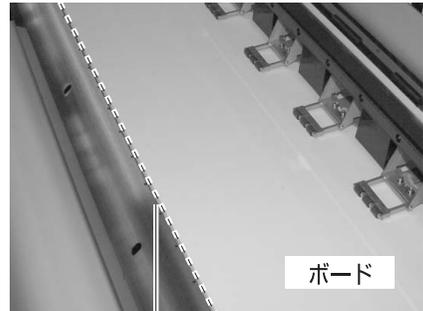
本装置の前側からでも、後ろ側からでもクランプレバーを上げられます。



- ③ ボードをピンチローラーとプラテンの間に差し込みます。
プラテンと同じ高さのボード支持用の台をご用意ください。



- ★ ボードの手前の端を、プラテン上の一番手前のガイド（吸着穴）に合わせてセットしてください。



ボード用ガイド

- ④ フロントカバーを閉じます。
⑤ **[ENTER]** キーを押します。
初期動作後、ローカルモードに戻ります。
(P.1-20 を参照)



メディアをセットしたら

メディアをセットしてクランプレバーを下げた後に、メディア検出が可能です。
メディア検出の[ホート]の設定を[ON]にしてから、ボードの検出をします。(P.3-17 を参照)

ディスプレイの表示



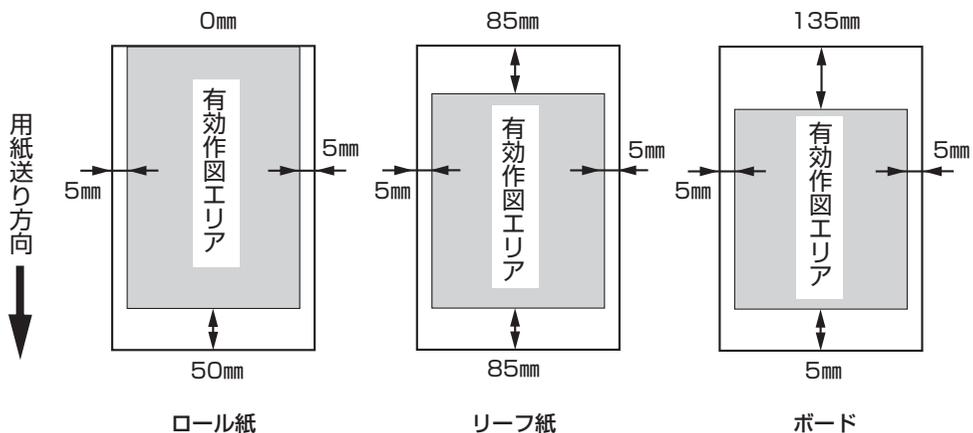
- ジョグキー **【▼】** を押して、ボードを検出します。
メディアの幅検出後、先端デッドスペースが5mm になる位置まで、ボードを戻します。



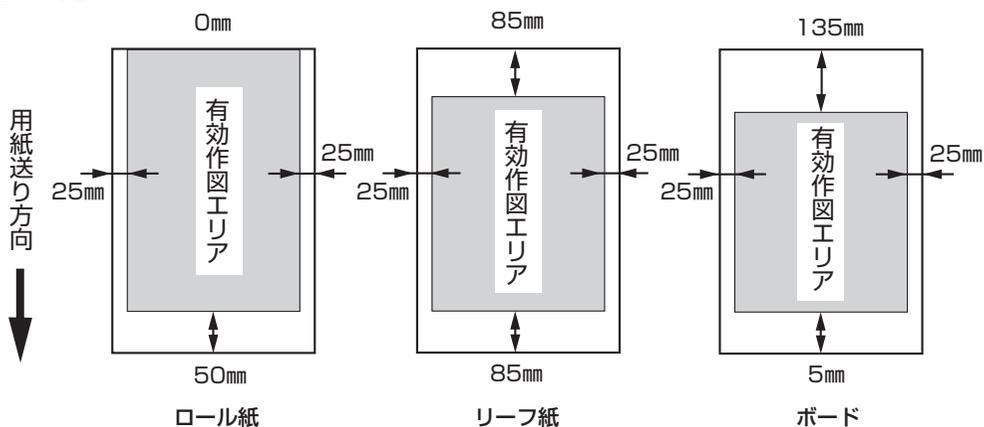
使用するメディアの作図範囲を設定する

本装置は、使用するメディアのサイズに関係なく、機構上作図できないエリアがあります。この作図不可のエリアを「デッドスペース」と呼びます。使用するメディアサイズから「デッドスペース」を差し引いた範囲を、メディアの「有効作図エリア」と呼びます。「デッドスペース」の最低値が機種により異なります。作図する際にご注意ください。

<JV4-130/160>



<JV4-180>

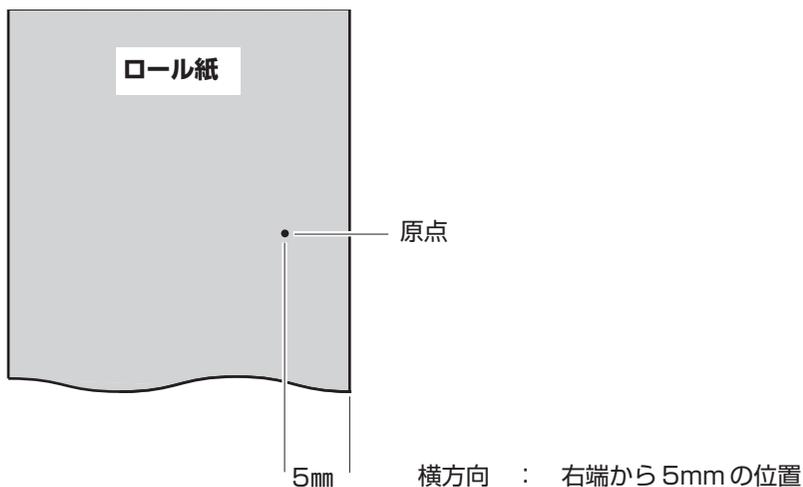


余白（デッドスペース）の変更

メディア左右のデッドスペースは、変更できます。デッドスペースを変更することにより、有効作図エリアを変更できます。デッドスペースの設定方法についてはP.3-13をお読みください。

作図原点を設定する

セットしたメディア上に、データの作図原点を設定します。
メディアをセットしメディア検出が終了した後に、本装置では下図の作図原点を自動的に指定します。



作図原点の初期値

作図原点の原点位置は、使用ヘッドや動作モードに対応する初期値が設定してあります。
新しく作図原点を設定するまで、下表の原点位置を作図原点として指定します。

X方向（用紙送り方向）の原点位置

下表の数値は、作図原点とカッターラインとの距離を示します。

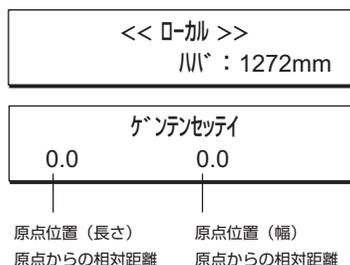
使用ヘッド	テストサクズ	リモート
ALL	手前 7mm	奥 17mm
REAR	手前 7mm	奥 17mm
FRONT	手前 7mm	奥 7mm

作図原点の設定

作図エリアが広く、指定された原点以外の場所で作図する場合は、原点を再設定する必要があります。

操作手順

- ① メディア検出の終了後、ジョグキー【▲】【▼】【◀】【▶】を押し、作図原点を設定する位置までキャリッジを動かします。
キャリッジに合わせて原点が変わります。キャリッジ移動による作図原点をディスプレイに表示します。



- ② 作図原点を決定したら、【ENTER】キーを押します。
作図原点を変更しました。
作図可能エリアを表示し、ローカルモードになります。
ロール紙を使用している場合は、Xの長さは検出されないため、表示しません。
次回作図を開始する場合は、今回設定した位置を作図原点として作図を開始します。



その他のセッティングについて

メディアサポートを取り付ける

メディアサポートを取り付けると、キャンバス等の硬めのメディアの浮き上がりを防止することができます。

メディアサポートは、本装置に4個取り付けが可能です。

メディアサポートのフックをブラテンの穴に掛けます。

使用するメディアの幅に応じて、取り付け位置と個数を変更してください。



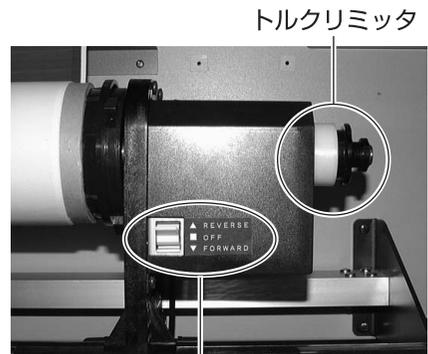
巻き取り装置のスイッチを切り替える

巻き取り装置には、メディアの巻き取り方向や巻き取りのオフを設定するスイッチがあります。

REVERSE : 作図面を内側にして巻き取ります。

OFF : 巻き取りを行いません。

FORWARD : 作図面を外側にして巻き取ります。



トルクリミッタ

スイッチ

トルクリミッタを調節をする

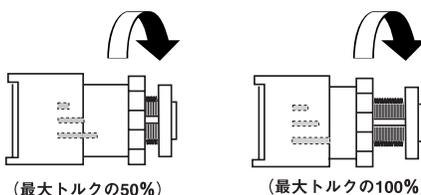
巻き取り装置には、トルクリミッタがあります。

トルクリミッタを調整して、巻き取りの強さを変更することができます。

ロール紙が重く、テンションが張りにくい時に、トルクリミッタの調節を強めてください。

● 時計回り：強くなる

使用メディア：ターボリン等の厚いメディア

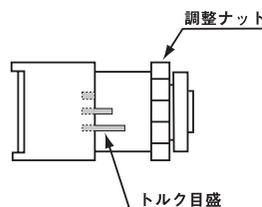


(最大トルクの50%)

(最大トルクの100%)

● 反時計回り：弱くなる

(0ポイント,minトルク) 使用メディア：軽いメディア



トルク目盛

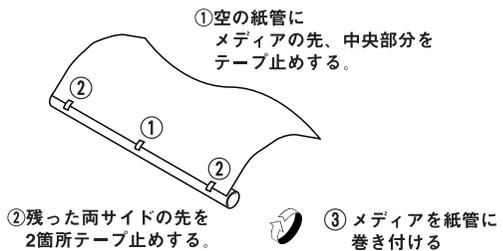


★ トルクリミッタの調節が弱すぎると、メディアを確実に巻き取ることができません。またトルクリミッタの調節が強すぎると、メディアがたるみ、画質に影響する場合があります。

紙管へのテープ止め

幅の広いメディアを使用すると、紙管にメディアが付きにくくなる場合があります。

右図を参照し、メディアを巻き取り装置の紙管に固定してください。



第2章

基本機能の使い方

作図の開始から終了までの基本操作を説明します。
応用機能を使用する前に、操作パネルのキー操作やディスプレイ
に表示するメニューのモードを確認して、基本機能の使い方を
覚えましょう。

本章の内容

操作について	2-2
画像データを作図する	2-6
ヘッドのインク詰まりや線の抜けを確認する	2-8
ヘッドのインク詰まりや線の抜けがある場合は	2-9
普段のお手入れ	2-11

操作について

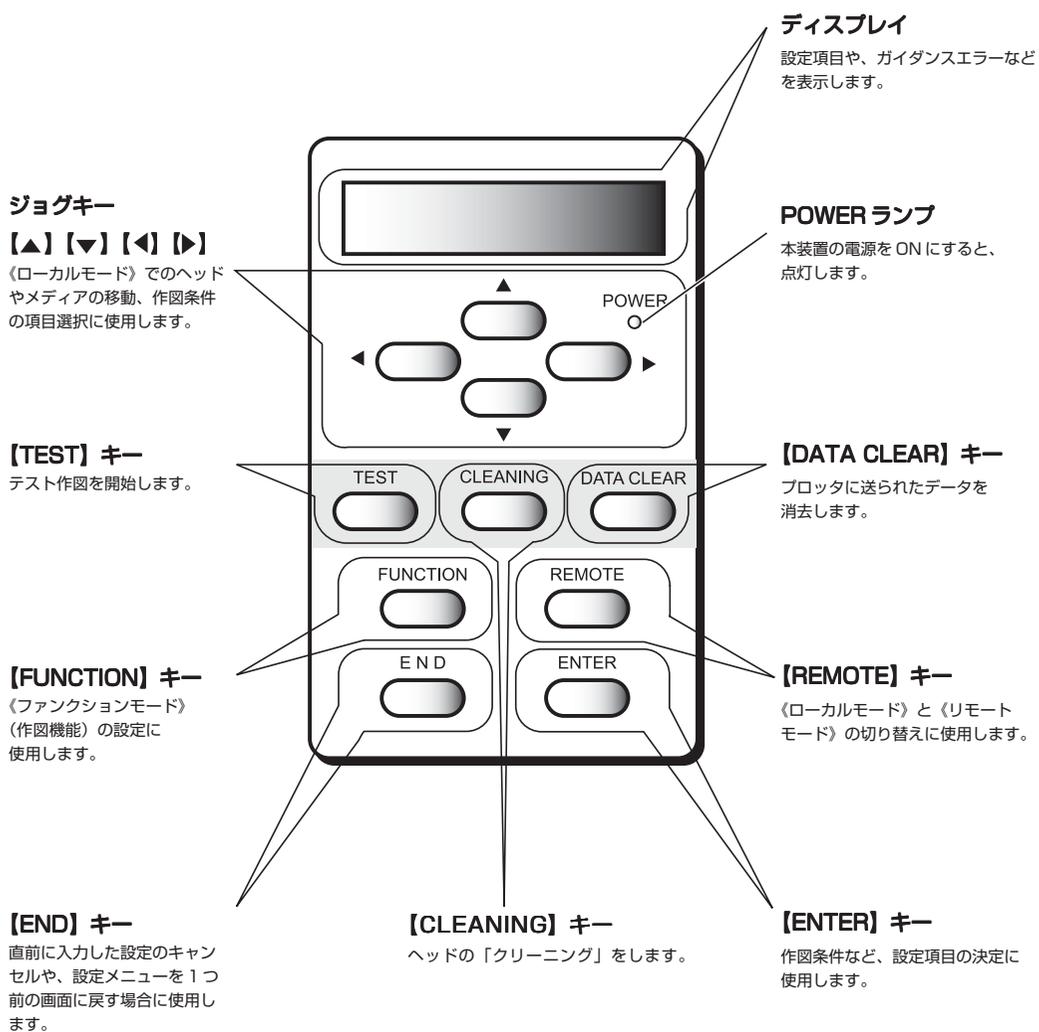
本装置の操作に使用する「操作パネル」や設定する項目のメニューについて説明します。

操作パネル

操作パネルは、作画方法や作画後のメンテナンス方法などを設定します。

プロッタを操作する場合は、必ず操作パネルを使用します。

操作パネルの使い方を覚えましょう。



ジョグキーのはたらき

ジョグキーは、使用するタイミングにより機能が異なります。

ジョグキーのはたらきについて説明します。

	シート検出前	シート検出後	機能選択時	設定の選択時
	メディア幅とメディア長を検出します。	キャリッジを左へ移動します。		
	メディア幅とメディア長を検出します。	キャリッジを右へ移動します。		
		メディアを奥へ移動します。	1つ前の機能に戻ります。	次の値を選択します。
		メディアを手前へ移動します。	次の機能に移ります。	1つ前の値を選択します。

メニュー・モード

ディスプレイに表示する設定項目のことを、メニューと呼びます。

操作パネルで設定する操作は、下記の3つのモードでディスプレイに表示します。

各メニューモードについて説明します。

《ローカルモード》

ローカルモードは、作図準備状態のモードです。

電源スイッチをONにして、メディア検出を終了するとローカルモードになります。

(P.1-20を参照) ローカルモードでは以下の操作が可能です。

1. ジョグキーを押してメディア検出や原点の設定をします。
2. 【TEST】キーを押して「テスト作図」をします。
3. 【CLEANING】キーを押して「ヘッドクリーニング」をします。
4. 【DATA CLEAR】キーを押して、受信した作図データを消去します。
5. 【FUNCTION】キーを押して、作図条件の各設定をします。



- ★ ローカルモードのままでは、コンピュータから受信したデータの作図はできません。
【REMOTE】キーを押して、リモートモードに変更してから作図します。

《リモートモード》

プロッタを動作し、コンピュータから受信したデータを作図するモードです。

ローカルモード時は、【REMOTE】キーを押してリモートモードにします。

《ファンクションモード》

ファンクションモードとは、作図方法に関する機能の設定をするモードです。

ローカルモード時に【FUNCTION】キーを押してファンクションモード（作図機能設定モード）にしてから、作図条件の設定をします。

メニューツリー

プロッタの操作と作図条件の設定は、実行する[操作キー]を押した後に[設定項目]を選択して[詳細設定]をする構造になっています。

メニューツリーの多枝がどのように広がってゆくのかを理解して、操作を覚えましょう。
(P. 付録-5 参照)

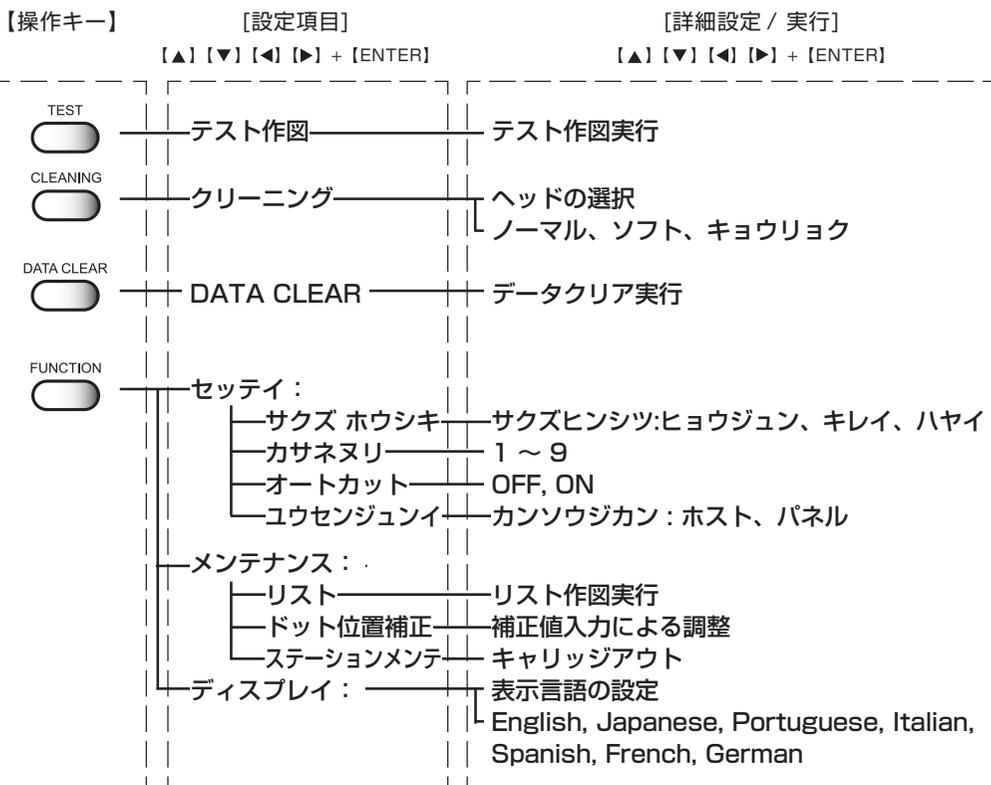
操作パネルの 操作キー と設定の関係を、下記のメニューツリーを見ながら理解しましょう。



注意

★ 操作を実行するためには、本装置のモードが《ローカルモード》になっていることが必要です。

- ① **POWER ON** 電源をオンにします。(P.1-20 参照)
- ② **<< ローカル >>** ディスプレイにローカルモードを表示します。
- ③ 操作パネルを使用した機能設定は、下記の手順で設定します。
 1. 操作パネルから【操作キー】を選択して押します。
 2. 設定項目を選択します。
 3. 詳細設定、または設定項目の実行をします。



注意

★ このメニューツリーは、メニュー全てを記載していません。
正しくは、P. 付録-5の「メニュー構造」を参照してください。

画像データを作図する

作図を開始する

作図の基本操作の説明をします。

作図条件の設定はプロッタ側で可能ですが、ここではコンピュータ側で設定してあるデータをプロッタに送信して作図する方法について説明します。

プロッタ側での作図の設定は、「3章応用機能の使い方」をお読みください。

操作手順

① プロッタの電源をオンにします。

(P.1-20を参照)

② メディアをセットします。

(P.1-37を参照)

③ ローカルモードになります。

<< ローカル >>
用紙 : 1272mm

④ 【REMOTE】 キーを押します。

リモートモードになります。

現在選択している作図条件のタイプを確認できます。

(P.3-4を参照)

REMOTE



< リモート >
タイプ * 0.0m

⑤ コンピュータからデータを受信します。

作図データの作図設定を表示します。

データの送信方法については、出力ソフトウェアの取扱説明書をお読みください。

⑥ 作図を開始します。

作図を開始すると、作図した分のメディア長を表示します。

< リモート > 360 x 360
STD / 4P / U / 0.0m

⑦ 作図が終了したら、【REMOTE】 キーを押してローカルモードに戻します。

REMOTE



<< ローカル >>
用紙 : 1272mm

ディスプレイに表示する作図データ情報

< リモート > 360 x 360
STD / 4P / U / 0.0m

解像度 360/540/720/1440 DPI

作図終了したメディア長、または残りのメディア長さ(P.4-22参照)

作図方向 U:単方向 B:双方向

分割方式 2P : 2パス ~ 32P : 32パス

作図品質

STD : 標準品質

FINE : 画質優先品質 SPD : 速度優先品質

HOST : コンピュータ側で作図設定を行った場合

作図を中止する

作図を途中で中止する場合、作図動作を止めて受信したデータを本装置から消去します。

操作手順

- ① **【REMOTE】**キーを押して、作図を中止します。


<< ローカル >> ハバ : 1272mm

- ② コンピュータからデータを送信している場合、データ送信を止めます。
- ③ **【DATA CLEAR】** キーを押します。
 受信したデータを消去します。


データクリア < ENT >

- ④ **【ENTER】** キーを押します。
 ローカルモードに戻ります。


<< ローカル >> ハバ : 1272mm

作図が終了したら

作図を終了した後の処理操作（メディアのカットと電源のオフ）を説明します。



- ★ 自動でメディアカットをしない設定にしてある場合（P.3-10を参照）は、以下の手順でメディアをカットします。
- ★ ヘッドの高さが3mm以上ある場合は、カットできません。

操作手順

- ① **ローカルモード**にします。
 【REMOTE】キーを押して、ローカルモードに戻します。


<< ローカル >> ハバ : 1272mm

- ② **ジョグキー**を押し、**【ゲンセンセツイ】**を選択します。
 ジョグキーは、いずれのキーも使用可能です。


ゲンセンセツイ 0.0 -----

- ③ **【FUNCTION】** キーを押します。


メディアカット < ENT >

- ④ **【ENTER】** キーを押します。
 メディアをカットします。


メディアカットチュウ シバラク オマチクダサイ

- ⑤ **ローカルモード**に戻ります。
 作図前の状態に戻ります。

<< ローカル >> ハバ : 1272mm

- ⑥ **電源をオフ**にします。
 (P.1-21を参照)

ヘッドのインク詰まりや線の抜けを確認する

テスト作図を実行する

テスト作図は、作図する前にヘッドのインク詰まりによる作図不良（テストパターンにカスレや抜け）がないか確認する機能です。



注意

- ★ テスト作図でカスレや線の抜けがある場合は、クリーニング機能（P.2-9を参照）を実行します。
- ★ テストパターンをリーフ紙に作図する場合、A4サイズの横置き以上のサイズのメディアを使用してください。

操作手順

① ローカルモードにします。

【REMOTE】キーを押して、ローカルモードに戻します。

REMOTE



<< ローカル >>

画面 : 1272mm

② 【TEST】キーを押します。

TEST



テスト サズ*

< ENT >

③ 【ENTER】キーを押します。

テスト作図を開始します。

ENTER



** テスト サズ* **

④ ローカルモードに戻ります。

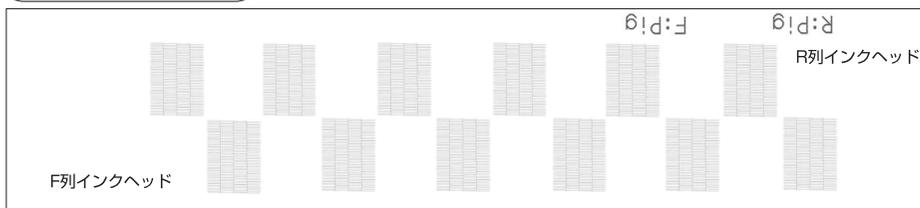
<< ローカル >>

画面 : 1272mm

テスト作図パターンの確認をする

テストパターンは、各インクのヘッドごとに作図します。テスト作図パターンを見て、クリーニングが必要なインクヘッドを確認します。

テスト作図パターン



出力方向 ↓

テスト作図パターンの拡大図



横線が全く作図されていない
(線の抜け)

線が等間隔でない、または薄い
(線の曲がり)

ヘッドのインク詰まりや線の抜けがある場合は

クリーニングを実行する

テスト作図で作図不良がある場合は、クリーニング機能を実行してインクヘッドのクリーニングをします。

また、作図不良が発生したヘッドに対してのみクリーニングを行うことにより、インクの消費を抑えることができます。(ただし1、2番ヘッドについてはR列、F列ともにセットでの選択となる)

クリーニング後テスト作図を実行しても作図不良が直らない場合は、再度クリーニングをしてください。クリーニングはテスト作図パターンが正常に作図するまで実行します。

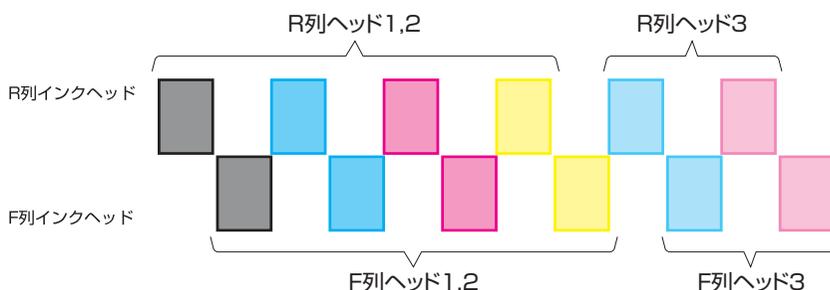


注意

- ★ 何度クリーニング機能を実行しても作図不良が改善されない場合は、ワイパの清掃およびステーション内部のクリーニングをしてください。(P.4-8, 4-11 参照)
- ★ 強力クリーニングは、ヘッドの消耗を早めるため常用しないでください。

テスト作図の結果を見て、クリーニングするヘッドを選ぶ

テストサクズにおける対応ヘッド



テストサクズで出力したパターンに対応してヘッドが配置されています。
テストサクズで不良のあったヘッドを選択してクリーニングしてください。

クリーニング方法

- ノーマル** : 線の抜けがある時に使用します。
- ソフト** : 線の曲がりがある時に使用します。
- キョウリョク** : ノーマル、ソフトのいずれかのクリーニングを実行しても作図不良が直らない時に使用します。ヘッド面のホコリや汚れを除去します。

2

基本機能の使い方

操作手順

① ローカルモードにします。

<< ローカル >>
 画面 : 1272mm

② 【CLEANING】 キーを押します。

CLEANING



クリーニング : R>12.3
 センタク : F>12.3

③ ジョグキー【◀】【▶】を押して、ヘッドを選択します。



クリーニング : R>12.3
 センタク : F>12.3

ジョグキー【▲】【▼】を押して、クリーニングの実行を選択します。

クリーニングを実行しない場合は、ジョグキー【▲】【▼】を押して、「-」を表示させます。



クリーニング : R>12.3
 センタク : F>-12.3

ディスプレイ表示の説明

ヘッド列を表します ヘッドの番号を表します。
 R : R列 F : F列

クリーニング : R>12.3
 センタク : F>12.3

クリーニングの実行について

実行するときは：
 ヘッド番号が表示されます。

実行しないときは：
 ヘッド番号のところに[-]が表示されます。

④ 【ENTER】 キーを押します。

ENTER



クリーニング
 タイプ : ノーマル

⑤ ジョグキー【▲】【▼】を押して、クリーニングの方法を選択します。



クリーニング
 タイプ : ソフト

クリーニング
 タイプ : キョウリョク

⑥ 【ENTER】 キーを押します。

クリーニングを開始します。動作の進行状況を2行目に*表示で知らせます。

ENTER



クリーニングチュウ
 * * * * - - - - -

⑦ ローカルモードに戻ります。

<< ローカル >>
 画面 : 1272mm

普段のお手入れ

本装置の精度を保ちながら末永くお使いいただけるよう、使用頻度に応じて、または定期的にお手入れをしてください。

長期間使用しない場合は



- ★ 電源を必ず切ってください。(P.1-21 を参照)
- ★ セットしてあるメディアを取り除いてください。
- ★ クランプレバーを上げた状態にしてください。

お手入れ上のご注意



- ★ 本装置を、絶対に分解しないでください。感電および破損する原因になります。
- ★ 本装置の内部に水気が入らないようにしてください。内部が濡れると、感電および破損する原因になります。
- ★ お手入れは、電源スイッチをオフにし、電源ケーブルを抜いてから行ってください。思わぬ事故が発生する原因になります。
- ★ ベンジン、シンナーや研磨剤の入った薬品は使用しないでください。カバーの表面が変質・変形する恐れがあります。
- ★ 本装置の内部に潤滑油などを注油しないでください。プロッタ機構が故障する恐れがあります。

紙粉を除去する



- ★ メディアをカットすると、ヘッドの移動部分やメディアセンサーの表面、およびカッターラインの溝に紙粉がたまります。この場合、柔らかい毛のハケで取り除いてください。

ワイパをクリーニングする



- ★ ワイパには、インク、ホコリおよび紙粉がたまります。定期的にワイパをクリーニングしてください。(P.4-11 を参照)
- ★ ホコリが多量に付着したワイパを使用してヘッドクリーニングを実行しないでください。ワイパに付着したホコリは、ヘッドを傷つける原因になります。ヘッドが傷つくと、作図中のメディアにヘッドからインクが滴り落ちるなど、作図不良の原因になります。

スライダ下面の付着インクの洗浄

本装置を長期間で使用になると、ゲル状になったインクがスライダ下面に溜まってくることがあります。このインク滴が大きくなると、メディアを汚す原因になります。定期的にヘッド下部のインク滴を付属のブラシに水などをつけて、こすり落としてください。

(P.4-14 操作手順①を参照してください。)



- ★ ヘッドのノズル部分をブラシでこすらないように注意して洗浄を行ってください。ヘッドのノズル部分を傷つけると、インクの吐出不良の原因になります。

外装のお手入れ

本体の外装が汚れた場合は、柔らかい布に水または水で薄めた中性洗剤を含ませ、堅くしぼってから拭き取ってください。

第3章

応用機能の使い方

「2章 基本機能の使い方」の操作を覚えたら、プロッタ側で作図条件を設定してプリントする「応用機能の使い方」を覚えましょう。応用機能を使用し、作図データに合わせた作図条件を設定しましょう。

本章の内容

応用機能について.....	3-2
作図条件の設定の前に.....	3-3
各作図方式を設定する.....	3-5
作図中にメディアの送り量を補正する.....	3-29

応用機能について

応用機能は、コンピュータから画像データをそのままの設定通りに出力せずに、作図条件を設定して応用的な出力をする機能です。応用機能は【FUNCTION】キーを使用して設定します。

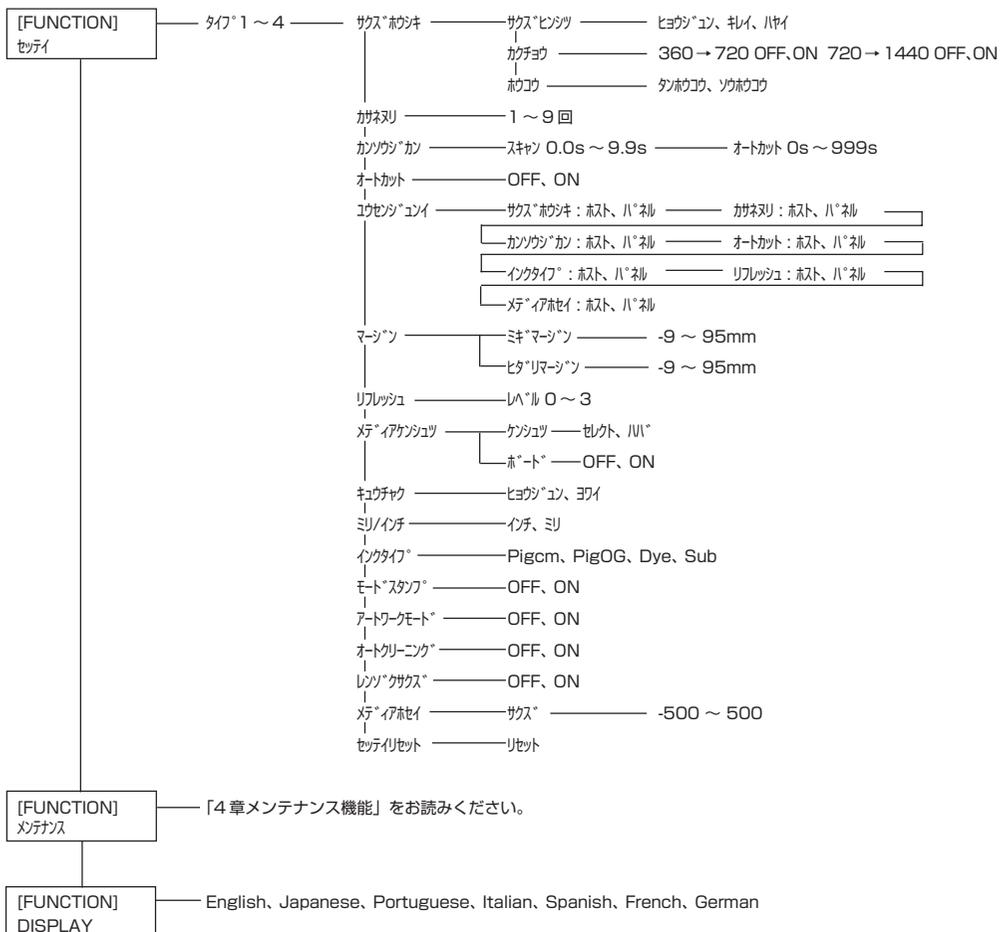
ファンクションメニュー

ファンクションメニューとは、本装置の作図条件を設定するメニューのうち、ファンクション（作図機能）について設定する項目のことを言います。ファンクションメニューの構造と操作を覚えて、作図条件を設定しましょう。ファンクションメニューの項目には、[セッテイ]、[メンテナンス]、および[ディスプレイ]の3種類があります。この章では、ファンクションメニューの[セッテイ]と[ディスプレイ]について説明します。

(ファンクションメニューの[メンテナンス]については、「4章メンテナンス機能」をお読みください。)

[セッテイ]・[ディスプレイ]

下の表は、ファンクションメニューのメニューツリーです。キー操作の流れを覚えて、作図の応用機能を使いましょう。ファンクションメニューの設定は、一連の作図設定をまとめて使用可能にするために、まず最初に設定する作図方法をタイプ1から4に割り当ててから、各詳細設定を行います。



作図条件の設定の前に

作図条件の各設定をする前に、ファンクションメニューの基本操作について説明します。
以下の3点を確認してから、ファンクションメニューの作図条件の各設定をします。

1. メニューモードが《ローカル》モードになっているかを確認します。
2. ディスプレイに表示する言語が選択してあるか確認します。
3. 作図条件の一連の設定を記憶する[タイプ]を選択します。

ファンクションメニュー設定の前に基本操作の確認をして、各作図条件を設定します。

メニューモードを確認する

ファンクションメニューの設定をする前に、メニューモードを確認します。
メニューモードは、ローカルモードまたはファンクションモードから開始します。
ディスプレイが、《ローカル》または《FUNCTION》になっているかを確認します。
(P.2-3 参照)

表示言語を設定する

LCD表示パネルに表示する言語と単位を設定します。プロッタの初期値は [English] に設定してあります。表示言語を日本語にしてみましょう。

操作手順

- ① プロッタの設定モードが、ローカルモードになっていることを確認します。

<< LOCAL >>
width : 1272mm

- ② 【FUNCTION】キーを押します。

FUNCTION
FUNCTION
SET UP < ENT >

- ③ ジョグキー【▼】を2回押します。

FUNCTION
▼
FUNCTION
DISPLAY < ENT >

- ④ 【ENTER】キーを押します。
表示言語選択メニューを表示します。

ENTER
DISPLAY
English < ent >

- ⑤ ジョグキー【▲】【▼】を押して、表示する言語を選択します。

選択可能な言語は、7種類あります。
[English], [Japanese], [Portuguese],
[Italian], [Spanish], [French], [German]

▲
▼
DISPLAY
Japanese < ent >

- ⑥ 表示する言語を選んで【ENTER】キーを押します。

ENTER
DISPLAY
Japanese < ent >

- ⑦ ローカルモードに戻ります。

<< ローカル >>
mm : 1272mm

複数の作図条件をまとめて登録する（タイプの選択）

作図条件をファンクションモードで設定した場合に、その一連の作図条件をまとめてプロッタに登録します。一連の作図条件は、タイプ 1 から 4 までの 4 種類を登録し、次回使用する場合に[タイプ]ごとの作図条件を使用可能です。使用するメディアや、作図方法に合わせて作図条件をタイプごとに設定しておく并使用する際に便利です。

ここでは、作図条件をどのタイプに割り当てて登録するかを説明します。

選択可能なタイプは 4 種類あります。

[タイプ 1] [タイプ 3]
[タイプ 2] [タイプ 4]

操作手順

- ① プロッタの設定モードが、ローカルモードになっていることを確認します。

<< ローカル >>
ハバ° : 1272mm

- ② 【FUNCTION】 キーを押します。

FUNCTION
FUNCTION
セッテイ < ENT >

- ③ 【ENTER】 キーを押します。

ENTER
セッテイ
センタク : タイプ 1

- ④ ジョグキー【▲】【▼】を押して、タイプ 1 から 4 を選び設定します。

▲
ENTER
セッテイ
センタク : タイプ 1
▼

- ⑤ 【ENTER】 キーを押します。
各作図条件の設定をします。
(P.3-5 から P.3-28 参照)

ENTER
タイプ 1
サクス ホウキ < ent >

タイプの変更

既にタイプ 1 から 4 の各作図条件を登録してある場合は、タイプを選択するだけで、作図に合わせた設定を切り替えて使用できます。

- ① 上記操作手順①から⑤を実行します。
使用するタイプを選択します。

- ② 【END】 キーを押します。
各作図条件の設定をせず、すぐ作図できます。
(P.2-6 を参照)

END
END

各作図方式を設定する

プロッタ側で作図方式を変更する

プロッタ側で作図画質を決定する作図方式を設定します。

作図方式の設定項目は、「画質[サクス・ヒンツ]」、「解像度の拡張[カチョウ]」および「印刷方向[ホウコウ]」の3種類があります。

画質と作図スピードの関係について[サクス・ヒンツ]

作図品質の設定項目は、「ヒョウジュン」、「キレイ」および「ハヤイ」の3種類があります。

ヒョウジュン	:	標準的な作図品質
キレイ	:	高品質・低スピード
ハヤイ	:	高スピード・やや劣る品質

操作手順

- ① タイプの選択をします。(P.3-4 参照)

ここでは[タイプ 1]を選択します。

セツテイ	
センタク	: タイプ 1

- ② 【ENTER】 キーを押します。

ENTER	タイプ 1	
	サクス・ヒンツ	< ent >

- ③ 【ENTER】 キーを押します。

ENTER	タイプ 1	ホウコウ
	サクス・ヒンツ	< ent >

- ④ 【ENTER】 キーを押します。

ENTER	タイプ 1	ホウコウ
	サクス・ヒンツ	: ヒョウジュン

- ⑤ ジョグキー【▲】【▼】を押して、作図品質を選びます。

選択可能な「品質」は3種類あります。

[ヒョウジュン]、[キレイ]、[ハヤイ]

▲	タイプ 1	ホウコウ
	サクス・ヒンツ	: キレイ
▼		

- ⑥ 【ENTER】 キーを押します。

ENTER	タイプ 1	ホウコウ
	サクス・ヒンツ	< ent >

- ⑦ 【END】 キーを3回押すと、メニューが《ローカル》モードまで戻ります。

END	<< ローカル >>
	ハバ: 1272mm

解像度を拡張して作図する[かちょう]

- ON : 拡張作図を行います。
 360dpi → 720dpi、720dpi → 1440dpi
- ・ 360 → 720 : 360dpi のデータを用紙送り方向にデータ拡張して 720dpi で作図します。
 インク量が多くなり、濃度が上がります。
 - ・ 720 → 1440 : 720dpi のデータをキャリッジ移動方向に解像度を拡張して 1440dpi 相当の解像度で作図します。
- OFF : 解像度を拡張しません。設定した解像度そのまま作図します。

操作手順

- ① タイプの選択をします。(P.3-4 参照)
 ここでは[タイプ 1]を選択します。

セッテイ	センタク	: タイプ 1
------	------	---------
- ② 【ENTER】 キーを押します。

ENTER	タイプ 1	サクス 杓ヅ	< ent >
-------	-------	--------	---------
- ③ もう一度 【ENTER】 キーを押します。

ENTER	タイプ 1	杓ヅ	< ent >
ENTER	サクス ヒンツツ	< ent >	
- ④ ジョグキー 【▲】 【▼】 を押して、解像度の拡張[かちょう]を選びます。

▲	タイプ 1	杓ヅ	< ent >
▼	タイプ 1	かちょう	< ent >
- ⑤ 【ENTER】 キーを押します。

ENTER	タイプ 1	杓ヅ	< ent >
ENTER	360 -> 720	: ON	
- ⑥ ジョグキー 【▲】 【▼】 を押して、360dpi 拡張機能の[ON]・[OFF]を選びます。
 ここでは,[ON]を選びます。

▲	タイプ 1	杓ヅ	< ent >
▼	720 -> 1440	: ON	
- ⑦ 【ENTER】 キーを押します。

ENTER	タイプ 1	杓ヅ	< ent >
ENTER	かちょう	< ent >	
- ⑧ ジョグキー 【▲】 【▼】 を押して、720dpi 拡張機能の [ON]・[OFF]を選びます。
 ここでは,[ON]を選びます。

▲	タイプ 1	杓ヅ	< ent >
▼	720 -> 1440	: ON	
- ⑨ 【ENTER】 キーを押します。

ENTER	タイプ 1	杓ヅ	< ent >
ENTER	かちょう	< ent >	
- ⑩ 【END】 キーを 3 回押すと、メニューが《ローカル》モードまで戻ります。

END	<< ローカル >>	サイズ : 1272mm
-----	------------	--------------

作図方向について[枠コウ]

作図する方向を選択します。

作図する際にプロッタはキャリッジを左右に動かして作図しますが、作図方向を設定することにより画質と印刷スピードの調整が可能です。

- 単方向 : キャリッジ移動時の1方向のみ作図します。
画質は双方向に比べて良質です。
- 双方向 : キャリッジ移動時の往復の2方向作図をします。
速度重視のため画質はやや劣ります。

操作手順

- ① タイプの選択をします。(P.3-4 参照)
ここでは[タイプ 1]を選択します。

セツテイ	
センタク	: タイプ 1
- ② 【ENTER】キーを押します。

ENTER	タイプ 1	
	サク ^レ ホウシキ	< ent >
- ③ もう一度【ENTER】キーを押します。

ENTER	タイプ 1	ホウシキ
	サク ^レ ヒンシツ	< ent >
- ④ ジョグキー【▲】【▼】を押して、作図方向[枠コウ]を選びます。

▲	タイプ 1	ホウシキ
	枠コウ	< ent >
▼		
- ⑤ 【ENTER】キーを押します。

ENTER	タイプ 1	ホウシキ
	枠コウ	: タンホウコウ
- ⑥ ジョグキー【▲】【▼】を押して、作図方向[タンホウコウ]・[ソウホウコウ]を選びます。
ここでは、[タンホウコウ]を選びます。

▲	タイプ 1	ホウシキ
	枠コウ	: タンホウコウ
▼		
- ⑦ 【ENTER】キーを押します。

ENTER	タイプ 1	ホウシキ
	枠コウ	< ent >
- ⑧ 【END】キーを3回押すと、メニューが《ローカル》モードまで戻ります。

END	<< ローカル >>
	画面 : 1272mm

インクの発色が悪い場合は[かネリ]

重ね塗りはインクを複数回吹き付けて、発色性を上げます。
キャンバスなどのメディアを使用する場合は、インクの発色が悪い場合がありますので、重ね塗りを実行します。



★ 防災クロスのメディアを使用する場合は、重ね塗りを実行しないでください。
重ね塗りを実行すると、メディアが伸縮する原因になります。

重ね塗りの回数 : 1回から9回まで選択可能です。

操作手順

- ① タイプの選択をします。(P.3-4 参照)
ここでは[タイプ 1]を選択します。

セッテイ	
センタク	: タイプ 1

- ② 【ENTER】 キーを押します。

ENTER	タイプ 1	
	サクス 枚シキ	< ent >

- ③ ジョグキー【▲】【▼】を押して、重ね塗り
[かネリ]を選びます。

▲	タイプ 1	
	かネリ	< ent >
▼		

- ④ 【ENTER】 キーを押します。

ENTER	タイプ 1	
	かネリ	: 1かい

- ⑤ ジョグキー【▲】【▼】を押して、重ね塗りする
回数を選びます。
ここでは、[3かい]を選択します。

▲	タイプ 1	
	かネリ	: 3かい
▼		

- ⑥ 【ENTER】 キーを押します。

ENTER	タイプ 1	
	かネリ	< ent >

- ⑦ 【END】 キーを2回押すと、メニューが
《ローカル》モードまで戻ります。

END	<< ローカル >>	
	画面 : 1272mm	

インクの乾きが遅い場合は[かんソウジかん]

インクの乾燥時間を設定します。乾燥時間は、スキャンごとの待ち時間と作図終了後のメディアカットするまでの時間を設定します。

乾燥時間は、作図の印字密度およびメディアの種類により設定します。



★ メディアを自動的にカットする場合、自動裁断の設定[オートカット]を[ON]にする必要があります。(P.3-10を参照)

スキャン : キャリッジがキャッピングステーションに戻ってから再び作図のためにキャリッジが動くまでの乾燥時間です。0.0秒から9.9秒まで設定可能です。

オートカット : 作図後からオートカット開始までの時間は、0秒から999秒まで設定可能です。

操作手順

- ① タイプの選択をします。(P.3-4参照)

ここでは[タイプ 1]を選択します。

セッテイ
センタク : タイプ 1

- ② 【ENTER】キーを押します。

ENTER
タイプ 1
サクス 棒ソジ < ent >

- ③ ジョグキー【▲】【▼】を押して、乾燥時間[かんソウジかん]を選びます。

▲
タイプ 1
かんソウジかん < ent >
▼

- ④ 【ENTER】キーを押します。

ENTER
タイプ 1
スキャン : 0.0S

- ⑤ ジョグキー【▲】【▼】を押して、スキャン後の乾燥時間を設定します。
[ここでは、[1.0]を選択します。]

▲
タイプ 1
かんソウジかん : 1.0S
▼

- ⑥ 【ENTER】キーを押します。

ENTER
タイプ 1
オートカット : 0S

- ⑦ ジョグキー【▲】【▼】を押して、作図後からオートカット開始までの乾燥時間を設定します。
ここでは、[180]秒を選択します。

▲
タイプ 1
オートカット : 180S
▼

- ⑧ 【ENTER】キーを押します。

ENTER
タイプ 1
かんソウジかん < ent >

- ⑨ 【END】キーを2回押すと、メニューが《ローカル》モードまで戻ります。

END
<< ローカル >>
ババ : 1272mm

作図後にメディアを自動的にカットする[オートカット]

作図終了後、メディアを自動でカットする設定をします。

自動裁断しない場合は、送信したデータを作図後続けて次の画像データを作図します。

メディアはオートカットを設定していなくても、手動でカット可能です。

(P.2-7「作図の終了」を参照)



★ ヘッド高さが3mm以上の場合は、オートカットできません。

ON : 作図終了後、メディアを自動的に裁断します。

OFF : 作図を終了しても、自動的にメディアを裁断しません。

操作手順

- ① タイプの選択をします。(P.3-4を参照)

ここでは[タイプ 1]を選択します。

セッテイ
センタク : タイプ 1

- ② [ENTER] キーを押します。

ENTER
タイプ 1
サクズ ホウジキ < ent >

- ③ ジョグキー [▲] [▼] を押して、自動裁断
[オートカット]を選びます。

▲
タイプ 1
オート カット < ent >

- ④ [ENTER] キーを押します。

ENTER
タイプ 1
オート カット : OFF

- ⑤ ジョグキー [▲] [▼] を押して、自動裁断の
[OFF]・[ON]を選択します。

ここでは、[ON] を選択します。

▲
タイプ 1
オート カット : ON

- ⑥ [ENTER] キーを押します。

ENTER
タイプ 1
オート カット < ent >



- 作図を終了してからオートカットを開始するまでの時間は、乾燥時間の設定 (P.3-9を参照) にて設定可能です。

- ⑦ [END] キーを2回押すと、メニューが
《ローカル》モードまで戻ります。

END
<< ローカル >>
ハバ : 1272mm

コンピュータと本装置の設定の優先順位を決める[ウセツェ ユニ]

作図条件を、本装置とコンピュータのどちらの設定を優先するかを設定します。

作図条件は、本装置と出力ソフトを使用したコンピュータからの送信データ上で設定可能です。

これらの作図条件が異なる場合、作図する時点でどちらの作図条件を優先するかを決定します。

- ホスト : コンピュータ（出力ソフト）の設定を優先して作図します。
- パネル : プロッタ（本装置）の設定を優先して作図します。

優先順位は次の7項目について決定します。

- ・作図方式
- ・メディア厚補正
- ・重ね塗り
- ・インクタイプ
- ・乾燥時間
- ・リフレッシュ
- ・自動裁断

操作手順

- ① タイプの選択をします。(P.3-4 参照)

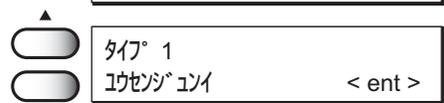
ここでは[タイプ 1]を選択します。



- ② [ENTER] キーを押します。



- ③ ジョグキー [▲] [▼] を押して、優先順位 [ウセツェ ユニ] を選びます。



- ④ [ENTER] キーを押します。



- ⑤ ジョグキー [▲] [▼] を押して、優先順位 [ホスト]・[パネル] を選択します。

ここでは、[パネル]を選択します。



- ⑥ [ENTER] キーを押します。

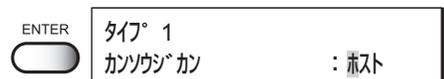


- ⑦ ジョグキー [▲] [▼] を押して、優先順位 [ホスト]・[パネル] を選択します。

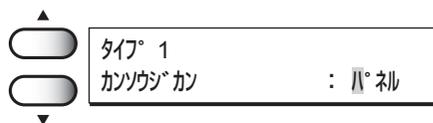
ここでは、[パネル]を選択します。



- ⑧ [ENTER] キーを押します。



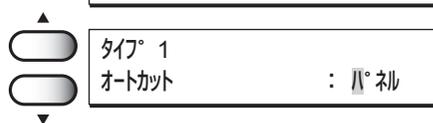
- ⑨ ジョグキー【▲】【▼】を押して、優先順位
[ホスト]・[ハ°ネ]を選択します。
ここでは、[ハ°ネ]を選択します。



- ⑩ 【ENTER】キーを押します。



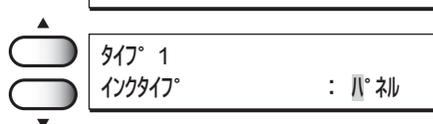
- ⑪ ジョグキー【▲】【▼】を押して、優先順位
[ホスト]・[ハ°ネ]を選択します。
ここでは、[ハ°ネ]を選択します。



- ⑫ 【ENTER】キーを押します。



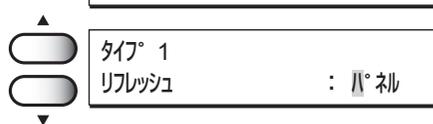
- ⑬ ジョグキー【▲】【▼】を押して、優先順位
[ホスト]・[ハ°ネ]を選択します。
ここでは、[ハ°ネ]を選択します。



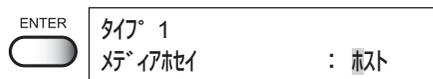
- ⑭ 【ENTER】キーを押します。



- ⑮ ジョグキー【▲】【▼】を押して、優先順位
[ホスト]・[ハ°ネ]を選択します。
ここでは、[ハ°ネ]を選択します。



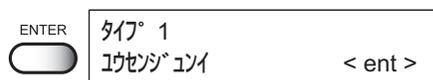
- ⑯ 【ENTER】キーを押します。



- ⑰ ジョグキー【▲】【▼】を押して、優先順位
[ホスト]・[ハ°ネ]を選択します。
ここでは、[ハ°ネ]を選択します。



- ⑱ 【ENTER】キーを押します。



- ⑲ 【END】キーを2回押すと、メニューが
《ローカル》モードまで戻ります。



メディア左右の余白を増減する[ミギマージン]・[ヒタリマージン]

メディア左右の余白を増減するために、デッドスペースの設定をします。
 メディアの端面部分の余白を「デッドスペース」と呼びます。(P.1-46 参照)
 綴じ代など余白が必要な場合に、本機能を使用してデッドスペースを設定します。
 デッドスペースは、メディアの左右にそれぞれ設定可能です。

デッドスペース

JV4-130/160 : -9mm から 95mm までの 1mm 単位での設定が可能です。
 JV4-180 : -29mm から 75mm までの 1mm 単位での設定が可能です。

[ミギマージン]の設定

操作手順

- ① タイプの選択をします。(P.3-4 参照)
 ここでは[タイプ 1]を選択します。
- ② 【ENTER】キーを押します。
- ③ ジョグキー【▲】【▼】を押して、デッドスペース [マージン]を選びます。
- ④ 【ENTER】キーを押します。
- ⑤ 【ENTER】キーを押します。
- ⑥ ジョグキー【▲】【▼】を押して、デッドスペースを設定します。
 ここでは、[10mm]に設定します。
- ⑦ 【ENTER】キーを押します。
- ⑧ 次の操作を選択します。
 左マージンの設定をする場合は、続けて【ENTER】キーを押した後ジョグキー【▲】【▼】を押して、「デッドスペース[ヒタリマージン]」を選びます。
 (P.3-14 操作手順⑤を参照)
 【END】キーを2回押すと、メニューが《ローカル》モードまで戻ります

	セッテイ セツタ	: タイプ 1
ENTER	タイプ 1 サクス ホウジキ	< ent >
▲	タイプ 1 マージン	< ent >
▼	タイプ 1 ミギ マージン	< ent >
ENTER	タイプ 1 ミギ マージン	: 0mm
▲	タイプ 1 ミギ マージン	: 10mm
▼	タイプ 1 ヒタリ マージン	< ent >
END	<< ローカル >> ハイ : 1272mm	

[ヒタリマージン]の設定

操作手順

- ① タイプの選択をします。(P.3-4 参照)
ここでは[タイプ 1]を選択します。

セッテイ	
センタク	: タイプ 1

- ② [ENTER] キーを押します。

ENTER	タイプ 1	
	サクス [°] ホウシキ	< ent >

- ③ ジョグキー [▲] [▼] を押して、デッドスペース [マージン]を選びます。

▲	タイプ 1	
▼	マージン	< ent >

- ④ [ENTER] キーを押します。

ENTER	タイプ 1	
	ミギマージン	< ent >

- ⑤ ジョグキー [▲] [▼] を押して、左デッドスペース[ヒタリマージン]を選びます。

▲	タイプ 1	
▼	ヒタリマージン	< ent >

- ⑥ [ENTER] キーを押します。

ENTER	タイプ 1	
	ヒタリマージン	: 0mm

- ⑦ ジョグキー [▲] [▼] を押して、デッドスペースを設定します。
ここでは、[10mm]に設定します。

▲	タイプ 1	
▼	ヒタリマージン	: 10mm

- ⑧ [ENTER] キーを押します。

ENTER	タイプ 1	
	マージン	< ent >

- ⑨ [END] キーを 2 回押すと、メニューが《ローカル》モードまで戻ります。

END	<< ローカル >>	
	バハ [°] : 1272mm	

ホコリが多い場所や湿度の低い場所で使用する場合は[リフレッシュ]

インクヘッドの詰まりを無くすため、作図中にインクヘッドのリフレッシュをします。
ホコリが多い場所や、湿度が低い場所で本装置を使用すると、作図の安定性が低下します。
リフレッシュを実行してインクヘッドからインクが適切に噴出するようにします。
リフレッシュの設定では、どのくらいの頻度でインクノズルのリフレッシュをするか、
[レベル0から3]を選択して設定します。

- レベル0 : リフレッシュの回数は少ない
- レベル1 : リフレッシュの回数は普通
- レベル2 : リフレッシュの回数はやや多い
- レベル3 : リフレッシュの回数が多い

操作手順

- ① タイプの選択をします。(P.3-4 参照)
ここでは[タイプ 1]を選択します。

セッテイ	
センタク	: タイプ 1
- ② 【ENTER】 キーを押します。

ENTER	タイプ 1	
	サクス 木ウシ	< ent >
- ③ ジョグキー【▲】【▼】を押して、リフレッシュ [リフレッシュ] を選びます。

▲	タイプ 1	
	リフレッシュ	< ent >
▼		
- ④ 【ENTER】 キーを押します。
リフレッシュレベル設定メニューを表示します。

ENTER	タイプ 1	
	リフレッシュ	: レベル 1
- ⑤ ジョグキー【▲】【▼】を押して、リフレッシュ レベルを設定します。
リフレッシュレベルは、4種類選択可能です。
[レベル0]、[レベル1]、[レベル2]、[レベル3]
ここでは、[レベル 2]に設定します。

▲	タイプ 1	
	リフレッシュ	: レベル 2
▼		
- ⑥ 【ENTER】 キーを押します。

ENTER	タイプ 1	
	リフレッシュ	< ent >
- ⑦ 【END】 キーを2回押すと、メニューが《ローカル》モードまで戻ります。

END	<< ローカル >>	
	幅 : 1272mm	

メディア検出方法を設定する[メディア ケンシュツ]

メディアの検出方法を設定します。

メディア検出の方法は、以下の2種類選択可能です。

- セレクト** : リーフ紙を使用する場合に設定します。
初期動作でロール紙とリーフ紙を選択するメニューを表示します。
ロール紙を選択すると、メディアの「幅」を検出します。
リーフ紙を選択すると、メディアの「幅」と「長さ」を検出します。
- ハバ** : ロール紙を使用する場合に設定します。
電源を入れると自動的にメディアの「幅」のみを検出します。

操作手順

- ① タイプの選択をします。(P.3-4 参照)

ここでは[タイプ 1]を選択します。

セッテイ
センタク : タイプ 1

- ② 【ENTER】 キーを押します。

ENTER
タイプ 1
サクス 柵洋 < ent >

- ③ ジョグキー【▲】【▼】を押して、メディア検出
[メディア ケンシュツ]を選びます。

▲
タイプ 1
メディア ケンシュツ < ent >
▼

- ④ 【ENTER】 キーを押します。

ENTER

- ⑤ ジョグキー【▲】【▼】を押して、メディア検出
[ケンシュツ]を選びます。

▲
タイプ 1
ケンシュツ < ent >
▼

- ⑥ 【ENTER】 キーを押します。

ENTER

- ⑦ ジョグキー【▲】【▼】を押して、メディア検出
方法[セレクト]・[ハバ]を選択します。
ここでは、[ハバ]を選択します。

▲
タイプ 1
ケンシュツ : セレクト
▼

- ⑧ 【ENTER】 キーを押します。

ENTER
タイプ 1
ケンシュツ : ハバ

- ⑨ 【END】 キーを3回押すと、メニューが
《ローカル》モードまで戻ります。

END
<< ローカル >>
ハバ : 1272mm

ボード検出方法を設定する[ボード]

ボードの検出の有無を設定します。

ボードを使用する場合は、ボード検出を ON に設定します。

- ON : メディア検出時にボードの選択が可能になります。
 OFF : メディア検出時にボードの検出を選択できません。

操作手順

- ① タイプの選択をします。(P.3-4 参照)
 ここでは[タイプ 1]を選択します。

セッテイ	
センタク	: タイプ 1
- ② [ENTER] キーを押します。

ENTER	タイプ 1	
	サクス ホウジ	< ent >
- ③ ジョグキー [▲] [▼] を押して、メディア検出 [メディア ケンシュツ] を選びます。

▲	タイプ 1	
	メディア ケンシュツ	< ent >
▼		
- ④ [ENTER] キーを押します。

ENTER		
		
- ⑤ ジョグキー [▲] [▼] を押して、ボード検出 [ボード] を選択します。

▲	タイプ 1	
	ボード	< ent >
▼		
- ⑥ [ENTER] キーを押します。

ENTER	タイプ 1	
	ボード	: OFF
- ⑦ ジョグキー [▲] [▼] を押して、ボード検出の設定 [ON], [OFF] を選択します。
 ここでは [ON] を選択します。

▲	タイプ 1	
	ボード	: ON
▼		
- ⑧ [ENTER] キーを押します。

ENTER	タイプ 1	
	ボード	< ent >
- ⑨ [END] キーを 3 回押すと、メニューが 《ローカル》 モードまで戻ります。

END	<< ローカル >>	
	ハバ : 1272mm	

出力画像に縦縞が発生する場合は[キュウチャク]

防災クロスのようなメディアを使用するときは、吸着力を[371]に設定します。[ヒョウジユ]で作図すると、吸着穴からインクを吸い取ってしまい、出力画像に縦縞が発生する原因になります。

- 標準 : 標準の吸着力で作図します。
弱い : 標準より弱い吸着力で作図します。(防災クロス使用時)

操作手順

- ① タイプの選択をします。(P.3-4 参照)
ここでは[タイプ 1]を選択します。

セツイ	
セツク	: タイプ 1

- ② 【ENTER】 キーを押します。

ENTER	タイプ 1	
	サクス ホウシキ	< ent >

- ③ ジョグキー【▲】【▼】を押して、吸着
[キュウチャク]を選びます。

▲	タイプ 1	
	キュウチャク	< ent >

- ④ 【ENTER】 キーを押します。

ENTER	タイプ 1	
	キュウチャク	: ヒョウジユン

- ⑤ ジョグキー【▲】【▼】を押して、吸着力
[ヒョウジユ]・[371]を選びます。
ここでは、[371]を選択します。

▲	タイプ 1	
	キュウチャク	: 371

- ⑥ 【ENTER】 キーを押します。

ENTER	タイプ 1	
	キュウチャク	< ent >

- ⑦ 【END】 キーを2回押すと、メニューが
《 ローカル 》モードまで戻ります。

END	<< ローカル >>
	ルバ : 1272mm

表示する長さの単位を決める[ミリ/インチ]

ディスプレイに表示する設定値の単位を設定します。

原点設定やメディア検出後のメディアの「幅」や「長さ」を表示する場合に使用します。

表示単位は出荷時には[ミリ]に設定してあります。

- ミリ : 設定値の単位をミリで表示します。
 インチ : 設定値の単位をインチで表示します。

操作手順

- ① タイプの選択をします。(P.3-4 参照)

ここでは[タイプ 1]を選択します。

セッテイ
 センタク : タイプ 1

- ② 【ENTER】 キーを押します。

ENTER
 タイプ 1
 サクス 軸寸 < ent >

- ③ ジョグキー 【▲】 【▼】 を押して、表示単位 [ミリ/インチ] を選びます。

▲
 ▼
 タイプ 1
 ミリ/インチ < ent >

- ④ 【ENTER】 キーを押します。

表示単位選択メニューを表示します。

ENTER
 タイプ 1
 ミリ/インチ : ミリ

- ⑤ ジョグキー 【▲】 【▼】 を押して、表示単位 [インチ] または [ミリ] を選びます。

ここでは、[ミリ] を選択します。

▲
 ▼
 タイプ 1
 ミリ/インチ : ミリ

- ⑥ 【ENTER】 キーを押します。

ENTER
 タイプ 1
 ミリ/インチ < ent >

- ⑦ 【END】 キーを2回押すと、メニューが

《ローカル》モードまで戻ります。

END
 << ローカル >>
 幅 : 1272mm

使用するインクの種類を設定する[インクタイプ]

装填したインクから、使用するインクのタイプを選択します。

本装置は2種類のインクを装填可能ですが、作図する際には1種類のインクを選択して使用します。作図データとメディアに合わせて、使用するインクを選択してから作図してください。

本機能は、異なる種類のインク混載時に設定可能です。

使用設定可能なインクは、装填しているインクタイプから選択します。

Pigcm : 水性顔料インク(ライトセット)
PigOG : 水性顔料インク(オレンジ・グリーンセット)
Dye : 水性染料インク
Sub : 分散染料インク (昇華転写用)



★ 左右2つのインクステーションに同じタイプのインクがセットしてある場合は、[インクタイプ]の設定は表示されないため設定できません。

操作手順

- ① タイプの選択をします。(P.3-4 参照)

ここでは[タイプ 1]を選択します。

セット
センタック : タイプ 1

- ② [ENTER] キーを押します。

ENTER
タイプ 1
サクス 軸シキ < ent >

- ③ ジョグキー [▲] [▼] を押して、インクタイプ [インクタイプ] を選びます。

▲
タイプ 1
インクタイプ < ent >
▼

- ④ [ENTER] キーを押します。

インクタイプ設定メニューを表示します。

ENTER
タイプ 1
インクタイプ : Pigcm

- ⑤ ジョグキー [▲] [▼] を押して、インクタイプを選択します。

ここでは、インクタイプ[Dye]を選択します。

▲
タイプ 1
インクタイプ : Dye
▼

- ⑥ [ENTER] キーを押します。

ENTER
タイプ 1
インクタイプ < ent >

- ⑦ [END] キーを2回押すと、メニューが

《ローカル》モードまで戻ります。

END
<< ローカル >>
幅 : 1272mm

設定してある作図条件を出力する[モード スタンプ]

ファンクションメニューや出力ソフトで設定した作図条件を、画像データ出力後に作図する設定です。

作図条件を出力すると、出力画像のデータ比較や作図データの記録になりますので、次回使用する場合に便利です。

- ON : 作図条件を画像データ作図の後に作図します。
- OFF : 作図条件を作図しません。

操作手順

- ① タイプの選択をします。(P.3-4 参照)
ここでは[タイプ 1]を選択します。

セッテイ	
センタク	: タイプ 1
- ② 【ENTER】 キーを押します。

ENTER	タイプ 1	
	サク* ホウシキ	< ent >
- ③ ジョグキー 【▲】 【▼】 を押して、作図設定の出力[モード スタンプ]を選びます。

▲	タイプ 1	
	モード スタンプ	< ent >
▼		
- ④ 【ENTER】 キーを押します。

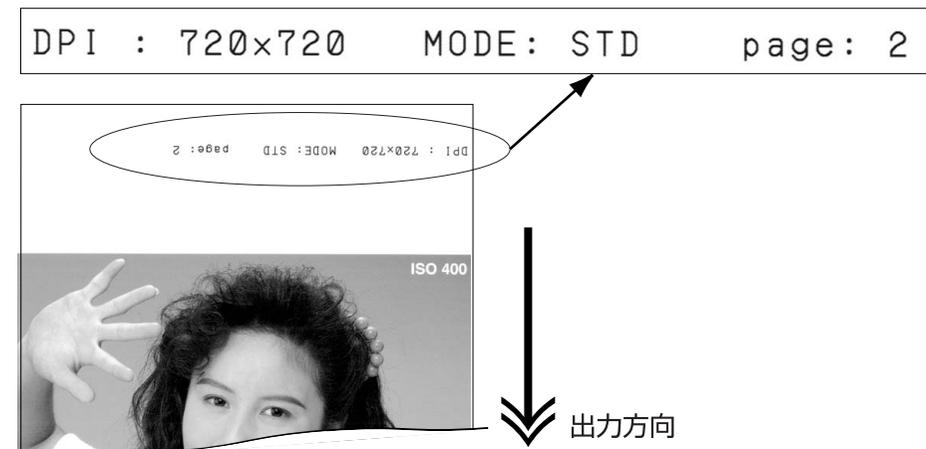
ENTER	タイプ 1	
	モード スタンプ	: OFF
- ⑤ ジョグキー 【▲】 【▼】 を押して、作図条件の出力[OFF]・[ON]を選択します。
ここでは、[ON]を選択します。

▲	タイプ 1	
	モード スタンプ	: ON
▼		
- ⑥ 【ENTER】 キーを押します。

ENTER	タイプ 1	
	モード スタンプ	< ent >
- ⑦ 【END】 キーを2回押すと、メニューが《ローカル》モードまで戻ります。

END	<< ローカル >>
	バウ : 1272mm

モードスタンプ



版下フィルムを使用する[アートワークモード]

版下フィルムを使用して版下を作成する場合に設定します。

アートワークモードを[ON]にすると、版下フィルムに水性染料黒の 1 色のインクで作図します。

ON : 版下フィルム対応の水性染料、黒[K]のみで印刷します。

OFF : セットしてあるインク全てを使用した印刷が可能です。



★ インクステーションの定位置に水性染料、黒[K]のインクをあらかじめセットしておいてください。インクステーションのセッティングについては、「インクステーションについて」(P.1-23)をお読みください。

アートワークモードは、次の 2 点について設定します。

アートワークモードの作図品質を設定します。

STANDARD : 1 から 3 の順に品質がよくなります。

QUALITY : STANDARD よりも全体的に高品質です。

1 から 3 の順に品質が高くなります。

下の表は、データ解像度別に作図品質を設定した時の作図方式を示しています。

データ解像度	作図品質	分割数	使用インクステーション	データ拡張
720 x 720	STANDARD1	4Pass	F 列および R 列	する(1440x720)
	STANDARD2			_____
	STANDARD3		F 列または R 列	_____
	QUALITY1	8Pass	F 列および R 列	する(1440x720)
	QUALITY2			_____
	QUALITY3		F 列または R 列	_____
1440 x 1440	STANDARD1	16Pass	F 列および R 列	_____
	STANDARD2			_____
	STANDARD3		F 列または R 列	_____
	QUALITY1	32Pass	F 列および R 列	_____
	QUALITY2			_____
	QUALITY3		F 列または R 列	_____

アートワークモードの作図濃度を設定します。

作図濃度はインクの量をにじみが出ないように設定します。

ノーマル : 標準的な濃度で作図します。

ウスイ : インクのにじみを少なくします。

操作手順

- ① タイプの選択をします。(P.3-4 参照)
ここでは[タイプ 1]を選択します。

セッテイ	
センタク	: タイプ 1
- ② [ENTER] キーを押します。

ENTER	タイプ 1 サクス 柵ウシ < ent >
-------	--------------------------
- ③ ジョグキー [▲] [▼] を押して、版下フィルム [アートワークモード] を選びます。

▲	タイプ 1 アートワークモード < ent >
▼	タイプ 1 アートワークモード < ent >
- ④ [ENTER] キーを押します。

ENTER	タイプ 1 アートワークモード : OFF
-------	--------------------------
- ⑤ ジョグキー [▲] [▼] を押して、
[OFF]・[ON]を選択します。
[OFF] : 操作手順⑩に進みます。
[ON] : 作図品質・作図濃度の設定をします。
ここでは、[ON]を選択します。

▲	タイプ 1 アートワークモード : ON
▼	タイプ 1 アートワークモード : ON
- ⑥ [ENTER] キーを押します。

ENTER	タイプ 1 サクス : STANDARD1
-------	--------------------------
- ⑦ ジョグキー [▲] [▼] を押して、作図品質を
選択します。
[STANDARD1 から 3]、
[QUALITY1 から 3]
ここでは、[STANDARD1]を選択します。

▲	タイプ 1 サクス : STANDARD1
▼	タイプ 1 サクス : STANDARD1
- ⑧ [ENTER] キーを押します。

ENTER	タイプ 1 ノット : ノーマル
-------	---------------------
- ⑨ ジョグキー [▲] [▼] を押して、作図濃度を
選択します。
[ノーマル]、[ウスイ]
ここでは、[ウスイ]を選択します。

▲	タイプ 1 ノット : ウスイ
▼	タイプ 1 ノット : ウスイ
- ⑩ [ENTER] キーを押します。

ENTER	タイプ 1 アートワークモード < ent >
-------	----------------------------
- ⑪ [END] キーを 2 回押すと、メニューが
《 ローカル 》モードまで戻ります。

END	<< ローカル >> 画面 : 1272mm
-----	---------------------------

自動的にクリーニングをする[オートクリーニング]

オートクリーニングを設定します。ほこりの多い場所や、湿度の低い場所では作図不良が目立ちやすくなります。

クリーニングを作図ごとに実行して、作図不良を防止します。

- ON : 自動的にヘッドをクリーニングします。
OFF : 自動的にクリーニングをしません。

操作手順

- ① タイプの選択をします。(P.3-4 参照)
ここでは[タイプ 1]を選択します。

セッテイ	
セツク	: タイプ 1

- ② 【ENTER】 キーを押します。

ENTER	タイプ 1	
	サズ ホウキ	< ent >

- ③ ジョグキー【▲】【▼】を押して、自動クリーニングの設定[オートクリーニング]を選びます。

▲	タイプ 1	
	オートクリーニング	< ent >
▼		

- ④ 【ENTER】 キーを押します。

ENTER	タイプ 1	
	オートクリーニング	: OFF

- ⑤ ジョグキー【▲】【▼】を押して、オートクリーニングの設定[OFF]・[ON]を選択します。
ここでは、[ON]を選択します。

▲	タイプ 1	
	オートクリーニング	: ON
▼		

- ⑥ 【ENTER】 キーを押します。

ENTER	タイプ 1	
	オートクリーニング	< ent >

- ⑦ 【END】 キーを2回押すと、メニューが《ローカル》モードまで戻ります。

END	<< ローカル >>	
	ルバ : 1272mm	

作図中自動的にクリーニングする[オートクリーニング 2]

作図中のオートクリーニングを設定します。

作図中にヘッドのクリーニングを自動的に実行し、作図不良を未然に防ぎます。

ON : 作図中、自動的にヘッドのクリーニングを行います。

OFF : 作図中にヘッドのクリーニングは行いません。

[ON]に設定すると、クリーニング方法と、自動的にクリーニングを行うまでの間隔を設定できます。

クリーニング方法 : ソフト・ノーマル・キョウリョク (P2-9を参照)

実行間隔 : 0.1m ~ 100.0m (0.1m単位で設定)



- ★ インクニアエンドが発生している場合は、本機能は動作しません。
- ★ ヘッド等の状態によっては、本機能を実行しても作図不良が復旧しない場合があります。

操作手順

- ① タイプの選択をします。(P.3-4 参照)

ここでは[タイプ 1]を選択します。

セッテイ	
センタク	:タイプ 1

- ② [ENTER] キーを押します。

ENTER	タイプ 1	
	サクズ ホウシキ	<ent>

- ③ ジョグキー [▲] [▼] を押して、[オートクリーニング 2] を選びます。

▲	タイプ 1	
	オートクリーニング 2	<ent>
▼		

- ④ [ENTER] キーを押します。

ENTER	タイプ 1	
	オートクリーニング 2	: OFF

- ⑤ ジョグキー [▲] [▼] を押して、[OFF] または [ON] を選びます。

ここでは [ON] を選んでください。

▲	タイプ 1	
	オートクリーニング 2	: ON
▼		

- ⑥ [ENTER] キーを押します。

手順 5 で [OFF] を選んだ場合は、手順 11 へ進みます。

ENTER	タイプ 1	
	CLタイプ	: ソフト

- ⑦ ジョグキー [▲] [▼] を押して、クリーニング方法を選びます。

クリーニング方法には [ソフト] [ノーマル]

[キョウリョク] の 3 種類があります。

ここでは、[ノーマル] を選びます。

▲	タイプ 1	
	CLタイプ	: ノーマル
▼		

⑧ [ENTER] キーを押します。

ENTER
タイプ 1
ジッコウカンカク = 1.0m

⑨ ジョグキー [▲] [▼] を押して、クリーニングの実行間隔を選びます。

▲
タイプ 1
ジッコウカンカク = 10.0m
▼

⑩ [ENTER] キーを押します。

ENTER
タイプ 1
オートクリーニング 2 <ent>

⑪ [END] キーを2回押すと、ローカルモードに戻ります。

END
2回
<< ローカル >>
ハバ : 1272mm

インクの残量が少なくなっても作図を続けるには[レンゾクサクス]

[インクアラート]になっても、次のデータからインクが残っているインクステーションだけを使用して作図を続けることができます。

- ON : [インクアラート]を表示していないもう一方のインクステーションを使用して作図を続けます。(1 ページ作図終了ごとにローカルモードにならずに作図を続けます。)
- OFF : [インクアラート]を表示すると、1 ページ作図終了ごとにローカルモードになり、作図を停止します。



★ 2つのインクステーションに異なるタイプのインクがセットしてある場合は、[レンゾクサクス]は表示されないため設定できません。

操作手順

- ① タイプの選択をします。(P.3-4 参照)

ここでは[タイプ 1]を選択します。

セッテイ
センタク : タイプ 1

- ② [ENTER] キーを押します。

ENTER
タイプ 1
サクス ホウ汁 < ent >

- ③ ジョグキー [▲] [▼] を押して、連続作図 [レンゾクサクス] を選びます。

▲
タイプ 1
レンゾクサクス < ent >

- ④ [ENTER] キーを押します。

ENTER
タイプ 1
レンゾクサクス : OFF

- ⑤ ジョグキー [▲] [▼] を押して、連続作図 [OFF]・[ON] を選択します。

ここでは、[ON]を選択します。

▲
タイプ 1
レンゾクサクス : ON
▼

- ⑥ [ENTER] キーを押します。

ENTER
タイプ 1
レンゾクサクス < ent >

- ⑦ [END] キーを2回押すと、メニューが《ローカル》モードまで戻ります。

END
<< ローカル >>
画面 : 1272mm



★ 一方のインクステーションのみを使用して作図する場合は、作図時間が長くなります。

★ 作図中に[インクアラート]を表示した場合は、その時点で作図を中止します。

メディアの厚みによる送り量の狂いを補正する[メディア补偿]

本装置は、メディアを前面に少しずつ送り出しながら作画します。メディアの厚みが変わると送り出し量の適正値も変わり、作図した画像に縞などが入るなど綺麗に作図できない場合があります。テスト作図をして、このようなメディアの厚みによるメディア送り量の狂いを補正します。

操作手順

- ① タイプの選択をします。(P.3-4 参照)

ここでは[タイプ 1]を選択します。

セッテイ
セツク : タイプ 1

- ② 【ENTER】 キーを押します。

ENTER
タイプ 1
サクス ホンキ < ent >

- ③ ジョグキー【▲】【▼】を押して、メディア厚補正[メディア补偿]を選びます。

▲
タイプ 1
メディア 补偿 < ent >
▼

- ④ 【ENTER】 キーを押します。

ENTER
タイプ 1
サクス カイシ : ent

- ⑤ 【ENTER】 キーを押します。

メディア補正作図を開始します。

ENTER
サクス チュウ
シバラクオマチクダサイ

- ⑥ 出力パターンの補正値を入力します。

ジョグキー【▲】【▼】を押して、補正値を入力します。

作図結果が隙間のある場合：補正値を減らす。

作図結果が重なっている場合：補正値を増やす。

▲
タイプ 1
补偿値 = 0
▼

適正パターン

隙間があるパターン

重なっているパターン



- [补偿値]を15変更すると、約0.1mmパターンが移動します。この移動量を参考にして、補正量を決定してください。

- ⑦ 【ENTER】 キーを押します。

ENTER
タイプ 1
サクス カイシ : ent

- ⑧ 【END】 キーを3回押すと、メニューが《ローカル》モードまで戻ります。

END
<< ローカル >>
画面 : 1272mm

作図中にメディアの送り量を補正する

「メディアホセイ」では、ローカルモード中に作業を行いましたが、ここではリモートモード、または画像データ作図中にメディア送り量を補正する方法を説明します。

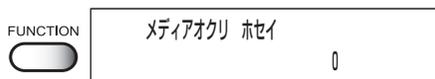
操作手順

- ① 【REMOTE】 キーを押します。



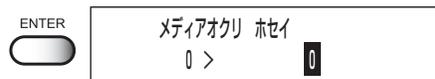
- ② 【FUNCTION】 キーを押すと、現在の補正値を確認できます。

補正値が適正な場合や操作を中止する場合、【END】 キーを押すとリモート表示に戻ります。



- ③ 【ENTER】 キーを押します。

補正値の変更状態になります。



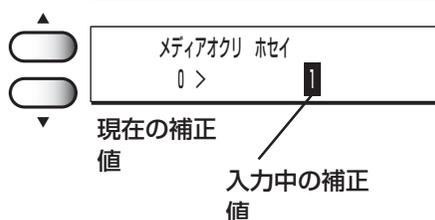
- ④ ジョグキー【▲】または【▼】を押して、補正値を変更します。



● 画像データ作図中の場合、補正値を変更した時点で数値が反映されるため、作図をみながら微調整することができます。

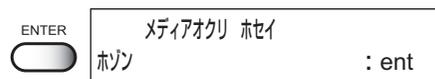


● 補正値の単位はローカルモード時の「メディアホセイ」と同じです。



- ⑤ 【ENTER】 キーを押します。

補正値の保存確認になります。
【END】 キーを押すとリモート表示に戻ります。
変更した補正値は無効になり、変更前の値になります。



- ⑥ 【ENTER】 キーを押すと、リモート表示に戻ります。

補正値を保存し、次回の電源投入時にも有効になります。
本操作で設定を変更した場合、タイプ番号の後に“+”を表示します。



【END】 キーを押すと一時的に補正値を保存します。
次回の電源投入時やメディア検出で無効になります。

タイプごとに設定をリセットする[セッテイ リセット]

設定した印刷条件を工場出荷時の設定値に戻します。

リセットは、作図条件を設定したタイプごとに実行します。

操作手順

- ① リセットするタイプの選択をします。

(P.3-4を参照)

ここでは[タイプ 1]を選択します。

セッテイ センタク	: タイプ 1
--------------	---------

- ② 【ENTER】 キーを押します。

ENTER	タイプ 1 サクス 木シキ	< ent >
-------	------------------	---------

- ③ ジョグキー【▲】【▼】を押して、リセット
[セッテイ リセット]を選びます。

▲	タイプ 1 セッテイ リセット	< ent >
---	--------------------	---------

- ④ 【ENTER】 キーを押します。

ENTER	タイプ 1 リセット	: ent
-------	---------------	-------

- ⑤ 【ENTER】 キーを押します。

工場出荷時の設定に戻ります。

ENTER	タイプ 1 セッテイ リセット	< ent >
-------	--------------------	---------

- ⑥ 【END】 キーを2回押すと、メニューが
《ローカル》モードまで戻ります。

END	<< ローカル >> 加工 : 1272mm
-----	---------------------------

4章

メンテナンス機能

本装置を適正にお使いいただくよう、メンテナンスをしましょう。
作画品質の悪化の解決や、廃インクタンク・裁断用カッター刃
の交換方法に関する機能を説明します。

本装置の維持や、使用を一定期間停止する場合にメンテナンス
を実行してください。

本章の内容

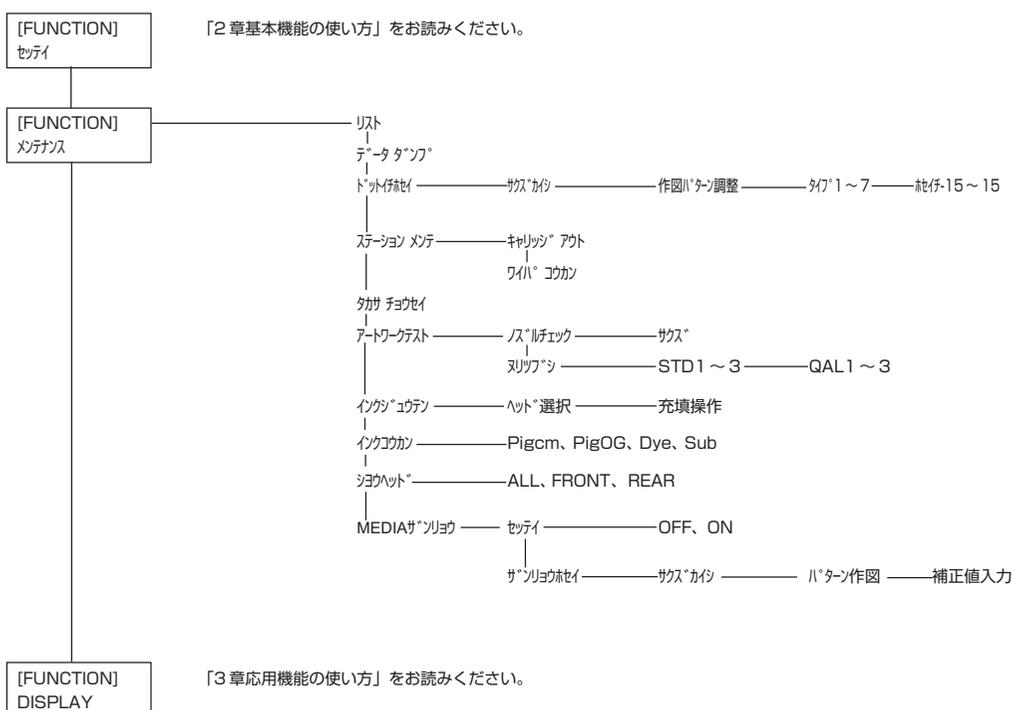
メンテナンスについて	4-2
メンテナンスの前に	4-3
メンテナンス機能について	4-4
廃インクタンクのインクが溜まったら	4-24

メンテナンスについて

メンテナンスは、本装置を適正にお使いいただくためのお手入れに関する操作をいいます。メンテナンスは、ファンクションメニューの[メンテナンス]を選択し、各詳細設定をしてから実行します。

ファンクションメニュー[メンテナンス]

下の表は、ファンクションメニュー[メンテナンス]のメニューツリーです。ディスプレイ表示の流れを覚えて、メンテナンス機能を使いましょう。



メンテナンスの前に

メニューモードを確認する

メンテナンス機能の実行の前に、メニューモードを確認します。

メンテナンスは、メニューモードがローカルモードまたはファンクションモードから開始します。ディスプレイが《ローカル》または《FUNCTION》になっているかを確認しましょう。

メンテナンス機能の導入について

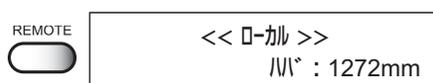
メンテナンス機能を実行する場合、操作パネル上で以下の操作が必要です。

メンテナンス機能への導入操作を覚え、各メンテナンスを実行します。

操作手順

① ローカルモードにします。

リモートモードの場合、【REMOTE】キーを1回押して、ローカルモードにします。
ファンクションモードになっている場合は、そのまま操作手順②から始めます。



② 【FUNCTION】キーを1回押します。



③ ジョグキー【▲】【▼】を押して、メンテナンスを選びます。



④ 【ENTER】キーを押します。



⑤ 次の操作を選択します。

各メンテナンス機能の設定（P.4-4 から P.4-22 を参照）をして、メンテナンスを実行します。

メンテナンス機能について

[FUNCTION] キーを押して、メンテナンス機能を設定しメンテナンスをします。

設定状態を作図する[リスト]

本装置の設定状態を出力します。
メンテナンスの参考にしてください。

1. ファンクション機能の設定[セッテ]に関する情報
2. メンテナンス機能のドット位置補正[ドット仔セ] の情報
3. 各インクカートリッジの交換回数
4. 本装置で使用中のファームウェアのバージョン情報
5. 保守（サービスマン用）に必要な各設定値

操作手順

- ① ファンクションモードにします。

(P.4-3 を参照)

FUNCTION	
メンテナンス	< ENT >

- ② [ENTER] キーを押します。

ENTER	
メンテナンス	
リスト	< ent >

- ③ [ENTER] キーを押します。

リストの作図を開始します。

ENTER	
メンテナンス	
サクスチュウ	

- ④ ローカルモードに戻ります。

<< ローカル >>
ハバ : 1272mm

```

LIST (System Ver2.30) (1/F Ver1.40)
(1) セッテイ < タイフ°1 > タイフ°2 タイフ°3 タイフ°4
サクス ネットキ ヒョウジ ユン :ハ°ネル ヒョウジ ユン :ハ°ネル ヒョウジ ユン :ハ°ネル ヒョウジ ユン :ハ°ネル
ネウコウ タンネウコウ タンネウコウ タンネウコウ
360→720 OFF OFF OFF OFF
720→1440 OFF OFF OFF OFF
カサネズリ 1 :ハ°ネル 1 :ハ°ネル 1 :ハ°ネル 1 :ハ°ネル
カンソウ シカク 0.0s 0s:ハ°ネル 0.0s 0s:ハ°ネル 0.0s 0s:ハ°ネル 0.0s 0s:ハ°ネル
オート カット OFF :ハ°ネル OFF :ハ°ネル OFF :ハ°ネル OFF :ハ°ネル
ミキ マージン 0mm 0mm 0mm 0mm
ヒタリマージン 0mm 0mm 0mm 0mm
リフレッシュ レハ°ル3 :ハ°ネル レハ°ル3 :ハ°ネル レハ°ル3 :ハ°ネル レハ°ル3 :ハ°ネル
メテア クンシュツ セレクト :ハ°ネル セレクト :ハ°ネル セレクト :ハ°ネル セレクト :ハ°ネル
ホート OFF OFF OFF OFF
キュウチャク ヒョウジ ユン ヒョウジ ユン ヒョウジ ユン ヒョウジ ユン
ミリインチ ミリ ミリ ミリ ミリ
モード スタンプ OFF OFF OFF OFF
アートワークモード OFF OFF OFF OFF
サクス STANDARD1 STANDARD1 STANDARD1 STANDARD1
ノット ノーマル ノーマル ノーマル ノーマル
オートクリーニング OFF OFF OFF OFF
レンツクサクス OFF OFF OFF OFF
メテア ホセイ 0 :ハ°ネル 0 :ハ°ネル 0 :ハ°ネル 0 :ハ°ネル
(2) DISPLAY Japanese
(3) トット イチ ホセイ ハ°ターン1 ハ°ターン2 ハ°ターン3 ハ°ターン4
0.0 0.0 0.0 0.0
ハ°ターン5 ハ°ターン6 ハ°ターン7
0.0 0.0
(4) ランニングメーター
カートリッジ 1: 9 2: 7 3: 9 4: 7 5: 7 6: 7
7: 7 8: 6 9: 6 10:8 11:8 12:8
インクサマシヨウ 1: 90% 2: 62% 3: 59% 4: 61% 5: 54% 6: 56%
7: 92% 8: 62% 9: 60% 10:62% 11:54% 12:87%
インク タイフ F: Pig R: Pig
スキャン カイス Pig : 2 Dye : 0 Sub : 0 (x10000)
    
```


ヘッドの高さ調整をした後に補正をする[ドット仔杓イ]

作図の往路と復路のインク落下点の位置を補正します。

ドット位置補正はヘッドの高さ調整をした後に必ず実行してください。

ヘッドの高さ調整は手作業で行いますので、適正位置（P.1-36を参照）とは微妙にズレが生じます。ドット位置補正を実行して、適正な作図結果を得られるようにします。

ドット位置補正は、7パターンのテスト作図の「往路」と「復路」のインク落下点を比較して補正します。

操作手順

- ① ファンクションモードにします。
(P.4-3を参照)



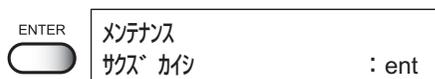
- ② 【ENTER】 キーを1回押します。



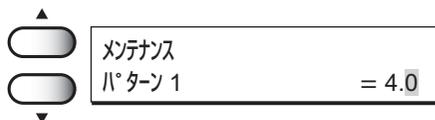
- ③ ジョグキー【▲】【▼】を押して、ドット位置補正[ドット仔杓イ]を選びます。



- ④ 【ENTER】 キーを押します。
ドット位置補正のテストパターン作図を開始します。
テストパターンは7種類作図します。



- ⑤ ジョグキー【▲】【▼】を押して、パターン1のドット位置補正をします。
出力した7パターンは、作図した順にパターン1から7と呼びます。



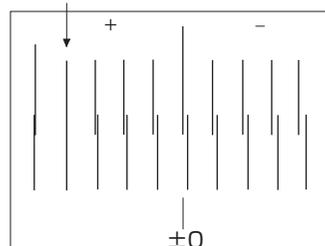
パターン1の適正なドット位置をジョグキーで選択します。
テストパターンの往路と復路が、1本の直線になっている位置を選びます。

プラス方向に0位置から4本目が直線で表示しています。この場合のドット位置補正值は4.0です。



★ 直線のパターンの補正值が、-15から+15の中にある場合は、ヘッドの高さ調整をしてから、もう一度、ドット位置補正を実行してください。

出力方向
↓



- ⑥ 【ENTER】 キーを押します。

ENTER 

メンテナンス パターン 2	= 0.0
------------------	-------

- ⑦ 手順⑤・⑥の操作を再実行し、続けてパターン
2 から 7 のドット位置補正をします。
各パターンの適正ドット位置を選択します。
パターン 7 までドット位置補正值を入力し、ドット
位置補正を終了します。

メンテナンス パターン 3	= 0.0
------------------	-------

メンテナンス パターン 4	= 0.0
------------------	-------

メンテナンス パターン 5	= 0.0
------------------	-------

メンテナンス パターン 6	= 0.0
------------------	-------

メンテナンス パターン 7	= 0.0
------------------	-------

メンテナンス ドット 仔 補正	< ent >
--------------------	---------

- ⑧ 【END】 キーを 2 回押すと、メニューが《ローカル》
モードまで戻ります。

END 

<< ローカル >> パターン : 1272mm

ステーション内部の掃除のためにキャリッジを移動する[キャリッジアウト]

キャリッジを動かし、インクステーションのメンテナンスをします。
クリーニング機能 (P.2-9 を参照) を実行しても、テスト作図のカスレが直らない場合や、
消耗品の交換など長期のお手入れとしてステーション内部のメンテナンスをします。



- ★ キャリッジを手でキャッピングステーションから出さないでください。
キャリッジは操作キーを使用して動かします。

操作手順

- ① ファンクションモードにします。
(P.4-3 参照)
- ② 【ENTER】 キーを 1 回押します。
- ③ ジョグキー【▲】【▼】を押して、ステーション
メンテ [ステーションメンテ] を選びます。
- ④ 【ENTER】 キーを押します。
- ⑤ 【ENTER】 キーを押します。
キャリッジが動いて、ステーション上から移動し
ます。
- ⑥ メンテナンスカバーを開けて、ステーション
内部の以下のメンテナンスをします。

FUNCTION メンテナンス	< ENT >
--------------------	---------

ENTER	メンテナンス リスト	< ent >
-------	---------------	---------

▲	メンテナンス ステーションメンテ	< ent >
---	---------------------	---------

▼	ENTER	メンテナンス メンテ	: キャリッジ アウト
---	-------	---------------	-------------

ENTER	メンテナンス シュウリョウ	: ent
-------	------------------	-------



- ★ ステーションメンテの各方法について
は P.4-9 から P.4-13 を参照してくだ
さい。

1. インクキャップのクリーニング (P.4-9 を参照)
ステーション内部のインクキャップの周りを
クリーニングします。
2. 裁断用カッター刃の交換 (P.4-10 を参照)
カッター刃は消耗品です。切れが悪くなったら新しい
カッター刃に交換してください。
3. ワイパのクリーニングと交換
(P.4-11 から 13 を参照)
ワイパのクリーニングまたは交換をします。



- ワイパ交換の時期を本装置はお知らせ
します。ワイパ交換のメッセージを表示
したら、ワイパを交換してください。

- ⑦ メンテナンスカバーを閉じて、[ENTER] キーを押します。



シヨキカチユ
シバラクオマチクダサイ

- ⑧ ローカルモードに戻ります。

<< ローカル >>

クリーニングを実行しても作図不良が直らない場合は

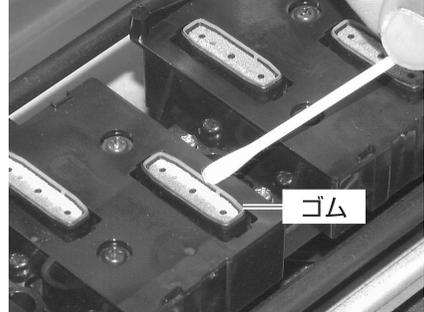
インクキャップのクリーニング

ステーション内部のインクキャップの周りをクリーニングします。

画質不良が出た場合やクリーニング機能を実行してもノズル詰まりが直らない場合、および長期間使用しない場合にキャップをクリーニングします。

操作手順

- ① キャリッジを移動します。
ステーションメンテ[キャッピングアウト]を実行します。
(P.4-8 操作手順①から⑥を参照)
- ② キャッピングステーション内のキャッピング周りのゴムをクリーニングします。
- ③ ステーションメンテ[キャッピングアウト]の操作手順⑦から⑧（本ページ）を実行します。



カッターの切れが悪くなった場合は

裁断用カッター刃の交換

カッター刃は消耗品です。切れ方が悪くなってきたら新しいカッター刃に交換してください。

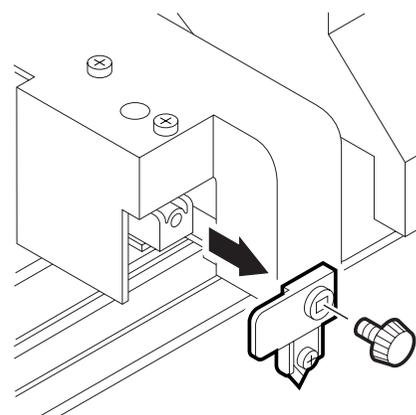
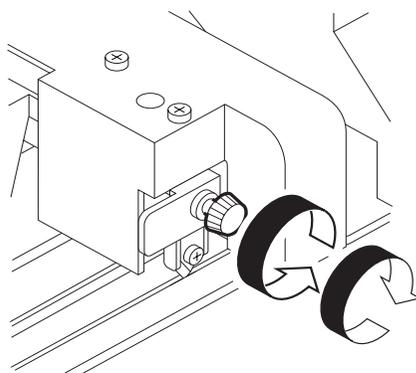


注意

- ★ 刃先は鋭利です。ケガをしないよう注意してください。
- ★ カッター刃は、子供の手の届かないところに保管してください。
また、使用済みのカッター刃は、地域の条例に従い廃棄してください。

操作手順

- ① キャリッジを移動します。
ステーションメンテ[キャリッジアウト]を実行します。
(P.4-8 操作手順①から⑥を参照)
- ② フロントカバーを開けます。
- ③ キャリッジ横のカッターユニットを交換します。
 1. カッターユニットのネジを緩めます。
 2. カッターユニットを取り外します。
 3. 新しいカッターユニットを取り付けます。
 4. カッターユニットのネジを締めて、カッターユニットを固定します。
- ④ ステーションメンテ[キャリッジアウト]の操作手順⑦から⑧ (P.4-9) を実行します。



注意

- ★ 刃先でケガをしないよう注意してください。



- カッター刃の下に用紙を敷いておくと、刃先が落ちたときに拾いやすくなります。

ワイパの定期的なお手入れ

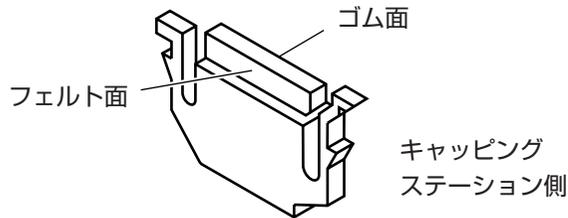
ワイパのクリーニング

ワイパは、ヘッドクリーニングに使用します。使用しているとインクとゴミで汚れてきます。この場合、ワイパをクリーニングしてください。

ワイパ取り扱い上のご注意

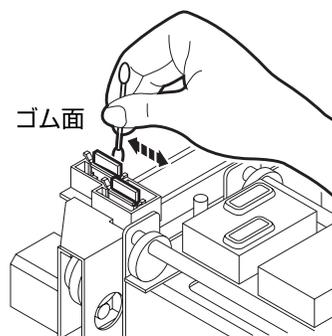
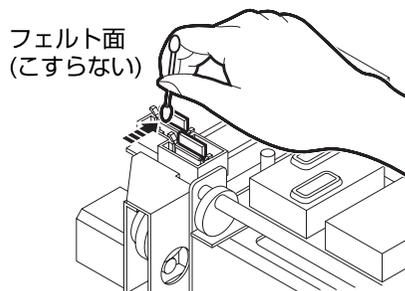


- ★ 新しいワイパのゴム部分には触れないでください。ノズル詰まりの原因になります。
- ★ ワイパは、2個同時にクリーニングして下さい。
- ★ ワイパは、前側面がフェルトで、後側面がゴムになっています。フェルト面は、綿棒でこすらないで押し当てるようにしてゴミを取り除いてください。フェルト面をこすると、毛羽だってノズル詰まりの原因になります。ゴム面は、綿棒でインクを拭き取ってください。
- ★ 本機能を実行するとキャリッジがキャッピングステーションから出てきます。そのままの状態でも長時間放置しておくとノズル詰まりの原因になります。ワイパ交換、キャップのクリーニングが終了したら、速やかに【ENTER】キーを押してキャリッジをキャッピングステーションに戻してください。



操作手順

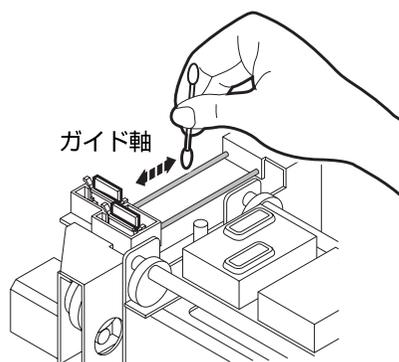
- ① キャリッジを移動します。
ステーションメンテ[キャリッジアウト]を実行します。
(P.4-8 操作手順①から⑥を参照)
- ② メンテナンスカバーを開けて、キャッピング
ステーション内のワイパをクリーニングします。



- ③ ワイパのガイド軸を綿棒、または布等でク
リーニングします。
(汚れが落ちにくい場合は、綿棒または布等を水で
湿らせてクリーニングします。)



★ ワイパのガイド軸が極度に汚れていると、
ワイパの動作不良によりエラーを表示
する場合があります。



- ④ ステーションメンテ[キャリッジアウト]の操作手順⑦
から⑧ (P.4-9) を実行します。

ワイパ交換のメッセージを表示したら[ワイパ コウカン]

ワイパ交換をします。

ワイパは消耗品です。ヘッドクリーニングを使用しているとワイパがインクやゴミで汚れてきます。ワイパ交換の表示が出たら、速やかにワイパ交換をしてください。

同時にスライダ下面に付着したインクをクリーニングします。



- クリーニングワイパは、別売品です。お近くの販売店または弊社営業所でお求めください。



- ★ ワイパを交換する以外は、[ワイパ コウカン]を選択しないでください。本装置内部で管理しているワイパ使用回数がリセットしてしまいます。

ワイパ交換のメッセージ

本装置ではクリーニングした回数をカウントし、ワイパ交換時期をお知らせします。ワイパ交換のメッセージを表示したらワイパを交換してください。

ワイパ交換のメッセージは、作図などの操作中や電源を入れた際に表示します。

ワイパ交換のメッセージ表示は、2種類あります。右のいずれかのメッセージを表示したら、新しいワイパと交換してください。

<< 0-カ >>
ワイパ コウカンシテクダサイ

<< 0-カ >> RUB
ワイパ コウカンシテクダサイ

操作手順

- ① ファンクションモードにします。
(P.4-3 参照)

FUNCTION
メンテナンス < ENT >

- ② [ENTER] キーを1回押します。



メンテナンス
リスト < ent >

- ③ ジョグキー [▲] [▼] を押して、ステーションメンテ[ステーションメンテ]を選びます。



メンテナンス
ステーションメンテ < ent >

- ④ [ENTER] キーを押します。



メンテナンス
メンテ : キャリッジ アウト

- ⑤ ジョグキー [▲] [▼] を押して、ワイパ交換[ワイパ コウカン]を選びます。



メンテナンス
メンテ : ワイパ コウカン

- ⑥ [ENTER] キーを押します。

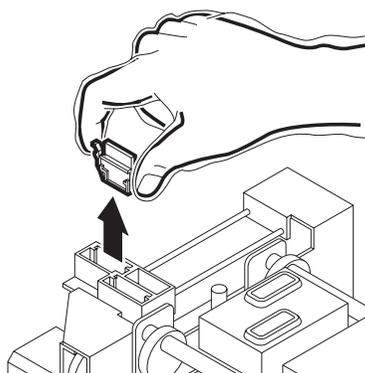
キャリッジが動いて、ステーション上から移動します。



メンテナンス
ジョグリョウ : ent

- ⑦ メンテナンスカバーを開けて、ワイバを交換します。

- ⑧ 両端の突起を持ってワイバを引き抜きます。
別売品のクリーニングワイバセットに付属している手袋をすれば、手が汚れません。

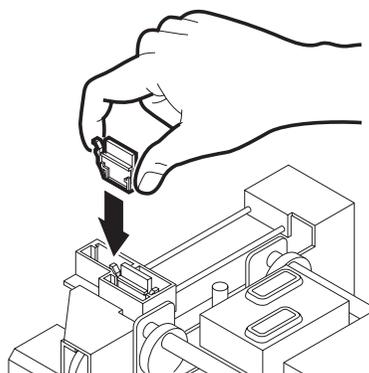


- ⑨ 両端の突起を持って新しいワイバを差し込みます。



注意

- ★ 新しいワイバのゴム部分には触れないでください。ノズル詰まりの原因になります。
- ★ ワイバのフェルト面が前側になるように差し込んでください。



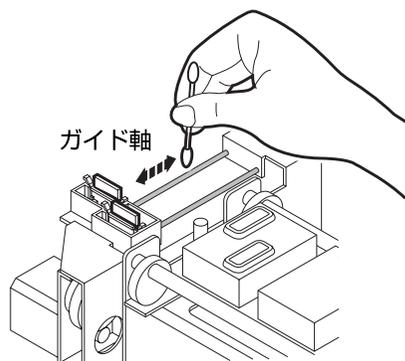
- ⑩ ワイバのガイド軸を綿棒、または布等でクリーニングします。

(汚れが落ちにくい場合は、綿棒または布等を水で湿らせてクリーニングします。)



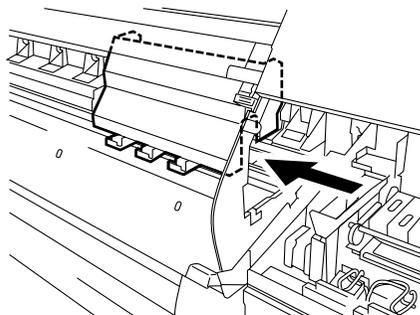
注意

- ★ ワイバのガイド軸が極度に汚れていると、ワイバの動作不良によりエラーを表示する場合があります。

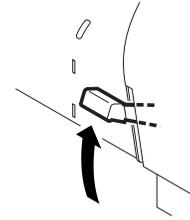


- ⑪ フロントカバーを開けて、キャリッジを手で動かします。

スライダ下面をクリーニングするために、クリーニングしやすい位置まで移動します。



- ⑫ クランプレバーを上げます。

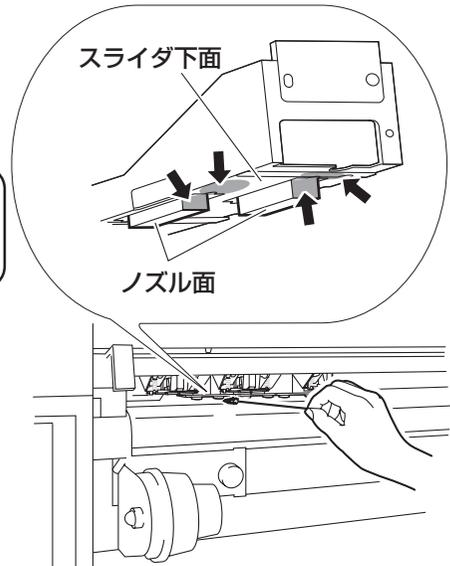


- ⑬ 水で濡らした付属のブラシを使い、右に示した箇所に付着したインクを取り除きます。本体の背面からこするようにクリーニングします。



★ ノズル面は絶対にこすらないでください。吐出不良の原因になります。

注意



- ⑭ メンテナンスカバーを閉めて、【ENTER】キーを押します。



ヨキカチュウ
シバラクオマチクダサイ



★ このときメディアがセットされている場合は、初期動作後メディア検出の表示になります。

注意

- ⑮ ローカルモードに戻ります。

<< 0-加 >>

使用メディアの変更時にヘッドの高さを調整する[カチヨウセイ]

ヘッドの高さ調整の方法については、P.1-34をお読みください。



注意

★ ヘッドの高さ調整はメディアをセットする前に行ってください。メディアをセットした状態でヘッド高さ調整を実行すると、キャリッジアウトの際にメディアにキャリッジが引っかかり、ヘッドを破損する恐れがあります。

版下フィルムを使用する際に確認すること

版下フィルムを使用する作図は、その特性から専用のメンテナンス方法を必要とします。

版下フィルムを使用する場合は、必ずアートワークテストをしてください。

アートワークテストは、使用するインクのノズルチェックと塗りつぶし作図をします。

版下フィルム使用時のヘッドのカスレや欠けが無いかを確認する

[アートワークテスト]

アートワークモードで使用するインクのノズル（1色 x 2ヘッド）の詰まりやゴミの付着がないかを確認します。

操作手順

- ① ファンクションモードにします。

(P.4-3 参照)

FUNCTION
メンテナンス < ENT >

- ② 【ENTER】 キーを 1 回押します。

ENTER	メンテナンス リスト < ent >
-------	-----------------------

- ③ ジョグキー【▲】【▼】を押して、版下フィルム用メンテナンス[アートワークテスト]を選びます。

▲	メンテナンス アートワークテスト < ent >
---	-----------------------------

- ④ 【ENTER】 キーを押します。

ENTER	メンテナンス パターン :ノズルチェック
-------	-------------------------

- ⑤ 【ENTER】 キーを押します。

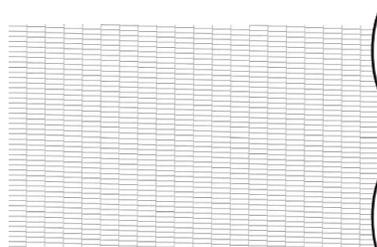
アートワークテスト作図を開始します。

アートワークテスト作図では、黒 (K) を使用している 2 個のヘッドについて、ノズルチェックをします。

ENTER	メンテナンス サグズチュウ
-------	------------------

- ⑥ 作図不良がないか確認します。

テスト作図 (P.2-8 を参照) と同じように、アートワークテストパターンに、線の抜けや曲がりがないかを確認します。作図不良がある場合は、クリーニングを実行してください。(P.2-9 を参照)



- ⑦ 作図を終了します。

メンテナンス パターン :ノズルチェック

- ⑧ 次の操作を選択します。

アートワークの塗りつぶし作図の確認をする場合は、ジョグキー【▲】【▼】を押して、塗りつぶし[スリツブシ]を選択します。

【END】キーを 3 回押すと、ローカルモードに戻ります。

▲	メンテナンス スリツブシ < ent >
▼	END << ローカル >> ハバ : 1272mm

版下フィルムの作図状態に隙間がないかを確認する[スリッヂ]

版下フィルムを使用する場合、黒1色のインクのみを使用します。塗りつぶし機能は、フィルム上に隙間がなく作図されるかを確認するテスト作図です。

塗りつぶし機能は、作図品質や濃度を指定してテスト作図が可能です。

操作手順

- ① ファンクションモードにします。

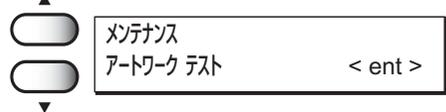
(P.4-3 参照)



- ② 【ENTER】 キーを1回押します。



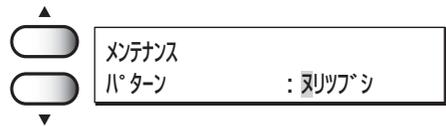
- ③ ジョグキー【▲】【▼】を押して、版下フィルム用メンテナンス[アートワークテスト]を選びます。



- ④ 【ENTER】 キーを押します。



- ⑤ ジョグキー【▲】【▼】を押して、塗りつぶし作図[スリッヂ]を選びます。



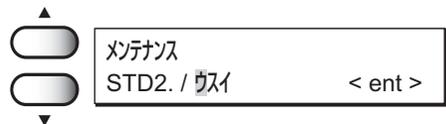
- ⑥ 【ENTER】 キーを押します。

アートワークモードで設定してある作図品質および作図濃度を表示します。(P.2-6、P.3-22を参照)
[STD.]はSTANDARDの略称です。
[QUA.]はQUALITYの略称です。
アートワークモードを設定していない場合は、[STD.3/ノーマル]を表示します。



- ⑦ ジョグキー【▲】【▼】を押して、作図品質と作図濃度を変更できます。

作図品質と作図濃度は、使用するメディアにより変更した場合の方が良質な作図結果を得られます。以下の12パターンから選択して作図状態の確認をしてください。(P.3-22を参照)
STANDARD1 から3 / [ノーマル]または[ウスイ]
QUALITY1 から3 / [ノーマル]または[ウスイ]



- ⑧ 【ENTER】 キーを押します。

塗りつぶし作図を開始します。



⑨ 作図不良がないか確認します。

作図した塗りつぶしパターンに、白点の隙間や塗りつぶしムラが無いかを確認します。

隙間が有る場合は、クリーニングを実行してください。(P.2-9を参照)

作図結果や使用するメディアに合わせて、操作手順⑥から⑨を繰り返してください。

メンテナンス パターン	: 塗りつぶし
----------------	---------

⑩ 【END】 キーを3回押すと、ローカルモードに戻ります。

<< ローカル >> 画面 : 1272mm

インク装填後の表示メニューについて[インクジョグ]

インク交換や新規に装填した場合は、本装置は自動的にインク充填をします。そのため、メンテナンス機能の中にインク充填のメニューがありますが、通常はこの機能は使用しません。

使用中のインクの種類と異なる種類のインクを装填する場合[インクジョグ]

インク交換は、現在使用しているインクと異なるタイプのインクを装填します。インクステーションにセットしてあるインクタイプと同じインクを使用する場合は、インク交換[インクジョグ]を実行する必要はありません。



注意

- ★ インクカートリッジは、ミマキ純正のインクカートリッジをご使用ください。純正以外のインクカートリッジまたはインクを使用し、トラブルが発生した場合は、当社では責任を負いかねますので、ご了承ください。
- ★ インク交換を行う際には、あらかじめ別売りの洗浄液カートリッジを購入してください。
- ★ インク交換を実行する前に、廃インクタンクを空にしてください。

操作手順

- ① ファンクションモードにします。
(P.4-3 参照)

FUNCTION
メンテナンス < ENT >

- ② 【ENTER】 キーを 1 回押します。

ENTER
メンテナンス
リスト < ent >

- ③ ジョグキー【▲】【▼】を押して、インク交換
[インクジョグ]を選びます。

▲
メンテナンス
インクジョグ < ent >
▼

- ④ 【ENTER】 キーを押します。
現在装填してあるインクの種類を表示します。

ENTER
インクジョグ
R : Pigcm F : Pigcm

- ⑥ ジョグキー【▲】【▼】を押して、R列インク
ステーションに装填するインクの種類を設定
します。

▲
インクジョグ
R : Dye F : Pigcm
▼

[Pigcm] 水性顔料インク(ライトセット)
[PigOG] 水性顔料インク(オゾン・グリーンセット)
[Dye] 水性染料インク
[Sub] 分散染料インク

- ⑥ ジョグキー【▶】【▲】【▼】を押して、F列
インクステーションに装填するインクの種類
を設定します。

▲
インクジョグ
R : Dye F:Pigcm
▼

⑦ 【ENTER】 キーを押します。



セシヅ ヨウチュウ
カートリヅジ ヲハス



⑧ 交換するインクカートリヅジを抜きます。
充填されていたインクの排出を開始します。

セシヅ ヨウ
KCMYcm -----

セシヅ ヨウチュウ
シバ ラクオマチクダ サイ



⑨ 洗浄液カートリヅジを装填します。
手順⑧で抜いたインクの位置に、洗浄液カートリヅジを装填します。
自動に洗浄を開始します。

セシヅ ヨウチュウ

セシヅ ヨウ
セシヅ ヨウジヅク ヲセツ



⑩ 洗浄液カートリヅジを抜きます。
洗浄液の排出を開始します。

セシヅ ヨウ
KCMYcm -----

セシヅ ヨウ
セシヅ ヨウジヅク ヲハス



⑪ 再度、操作手順⑨・⑩を実行します。

セシヅ ヨウ
KCMYcm -----

セシヅ ヨウチュウ
シバ ラクオマチクダ サイ



⑫ 新しいインクを装填します。
自動的にインク充填を開始します。
インク充填を終了すると、[インクカ]を終了します。

アタラシイ インク ヲセツ
KCMYcm -----

メンテナンス
インク コウカン < ent >

⑬ 【END】 キーを2回押すと、《ローカル》モードに戻ります。



<< ローカル >>
ハハ : 1272mm

片方のインクステーションで作図をする[ジョグヘッド]

1Way 高速プリント用のセッティング時に、片方のインクステーションのみで作図する場合に設定します。(P.1-27 を参照)

クリーニングを繰り返し行っても、ノズルの抜けや曲がりがない場合や、より高品質な作図を要求する場合に使用します。

ALL : F列とR列両方のインクステーションを使用して作図します。

REAR : R列のインクステーションを使用して作図します。

FRONT : F列のインクステーションを使用して作図します。



★ 2Way マルチプリント用のマルチセッティングのようにインク混載時は、[ジョグヘッド]はメニュー表示されないため、設定ができません。(P.1-28 を参照)

操作手順

- ① ファンクションモードにします。
(P.4-3 参照)

FUNCTION
メンテナンス < ENT >

- ② 【ENTER】 キーを押します。

ENTER
メンテナンス
リスト < ent >

- ③ ジョグキー 【▲】 【▼】 を押して、[ジョグヘッド]を
選びます。

▲
メンテナンス
ジョグヘッド < ent >
▼

- ④ 【ENTER】 キーを押します。

ENTER
メンテナンス
ジョグヘッド : ALL

- ⑤ ジョグキー 【▲】 【▼】 を押して、使用するヘッド
を選択します。
[ALL], [REAR], [FRONT]
ここでは、[FRONT]を選択します。

▲
メンテナンス
ジョグヘッド : FRONT
▼

- ⑥ 【ENTER】 キーを押します。

ENTER
メンテナンス
ジョグヘッド < ent >

- ⑦ 【END】 キーを2回押すとローカルモードに
なります。

<< ローカル >>
H/W : 1272mm

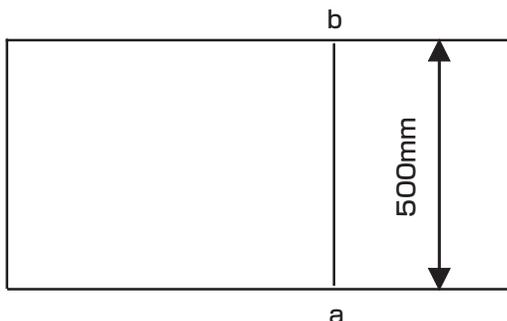
ロールメディアの残量をカウントする[MEDIAガンリョウ]

ロールメディアを使用する場合、ロールメディアの残量が表示できます。

作図やジョグキーによるメディア送り量が残量に反映されます。

メディアの種類や厚さで残量のカウンターの誤差が生じます。メディア残量補正[ガンリョウセツイ]で補正パターンを作図し、パターンの長さを入力することにより、残量のカウンター誤差を軽減します。

補正パターン



操作手順

① ファンクションモードにします。
(P.4-3 参照)

FUNCTION
メンテナンス < ENT >

② [ENTER]キーを1回押します。



FUNCTION
リスト < ent >

③ ジョグキー【▲】【▼】を押して、
[MEDIAガンリョウ]を選びます。



FUNCTION
MEDIAガンリョウ < ent >

④ [ENTER]キーを押します。



MEDIAガンリョウ
セツイ < ent >

⑤ [ENTER]キーを押します。



MEDIAガンリョウ
セツイ :OFF

⑥ ジョグキー【▲】【▼】を押して、[ON]、[OFF]
を選びます。



MEDIAガンリョウ
セツイ :ON

⑦ [ENTER]キーを押します。

[ON]を選ぶと、メディア残量カウント機能が有効になります。
ロールメディアの検出のたびに、メディア残量が入力できます。



MEDIAガンリョウ
セツイ < ent >

- ⑧ ジョグキー【▲】【▼】を押して、[メディア残量]を選びます。
- ⑨ [ENTER]キーを押します。
補正パターンの作図を開始します。
- ⑩ ジョグキー【▲】【▼】を押して、a-b間の長さを0.1mm単位で入力します。
- ⑪ [ENTER]キーを押します。
- ⑫ [END]キーを3回押すと、メニューが<<ローカル>>モードまで戻ります。



MEDIAメディア
メディア残量 < ent >



FUNCTION
サックス カット :ent



メディア残量
X = 500.0mm



MEDIAメディア
メディア残量 < ent >



<< ローカル >>
加工 : 1272mm



注意

- ★ [MEDIA残量]がONになっている場合、リモート画面表示はm（メートル）単位でメディア残量を表示します。
- ★ メディア残量はFeet（フィート）表示も可能ですが、9999Fを超える数字は単位のFを省略した数字のみで表示します。

廃インクタンクのインクが溜まったら

本装置に2箇所付いている廃インクタンクを、タンク内のインクがあふれないように空の廃インクタンクと交換します。

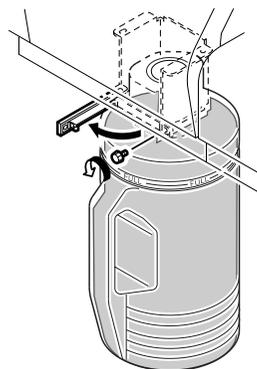
ヘッドのクリーニングやリフレッシュなどで、インクヘッドから出したインクは、廃インクタンクにたまります。

廃インクタンクのインク量が「FULL」ラインを超えたら、速やかに廃インクタンクを交換してください。

廃インクタンクの交換は、目視でインク量を確認して行います。

操作手順

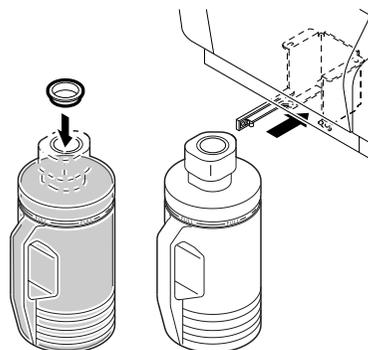
- ① 廃インクタンクガードのネジをはずします。
- ② 廃インクタンクガードを開けます。



- ③ インクが溜まっている廃インクタンクと、空の廃インクタンクを交換します。
インクが溜まっている廃インクタンクは、キャップをして処分してください。



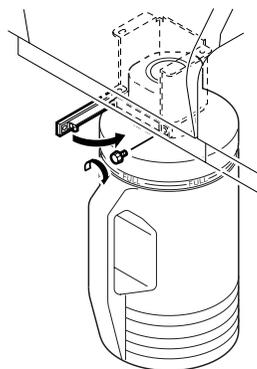
- ★ 廃インクタンクを引き出す際に、廃インクを飛ばさないように、廃インクタンク口をちり紙などで押さえながら、ゆっくり引き出してください。
- ★ インクで床を汚さないように、下に紙を敷いてから交換してください。



- ④ 廃インクタンクガードを締めます。
- ⑤ 廃インクタンクガードのネジを締めて、廃インクタンクを固定します。



- ★ 廃インクは、使用している地域の条例に従って処分してください。



第5章

困ったときは

5章では、本装置になんらかの異常が発生した場合、エラーメッセージを表示した場合のトラブルの解消方法について説明します。

本章の内容

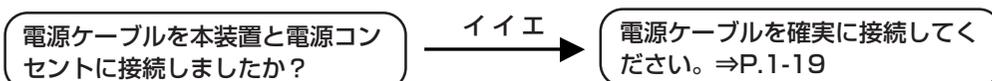
故障?と思う前に.....	5-2
画質不良がでたときは.....	5-4
メッセージを表示するトラブル.....	5-5

故障？と思う前に

ディスプレイにエラーメッセージが表示されないときのトラブルの対処方法について説明します。故障？と思う前にもう一度確認してください。対処しても正常に戻らない場合は、販売店または弊社営業所にご連絡（サービスコール）ください。

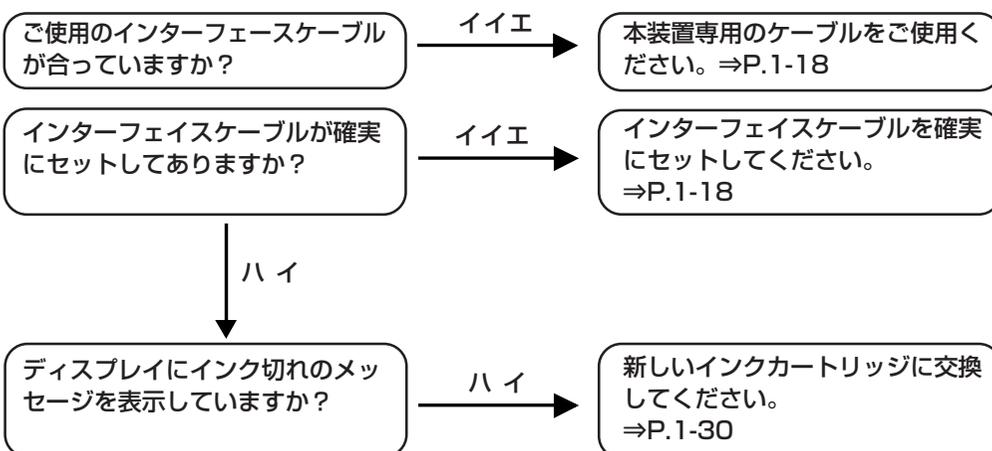
電源が入らない

電源が入らない場合の原因の多くは、電源やコンピュータのケーブル接続ミスによるものです。接続が適正かもう一度確認してください。



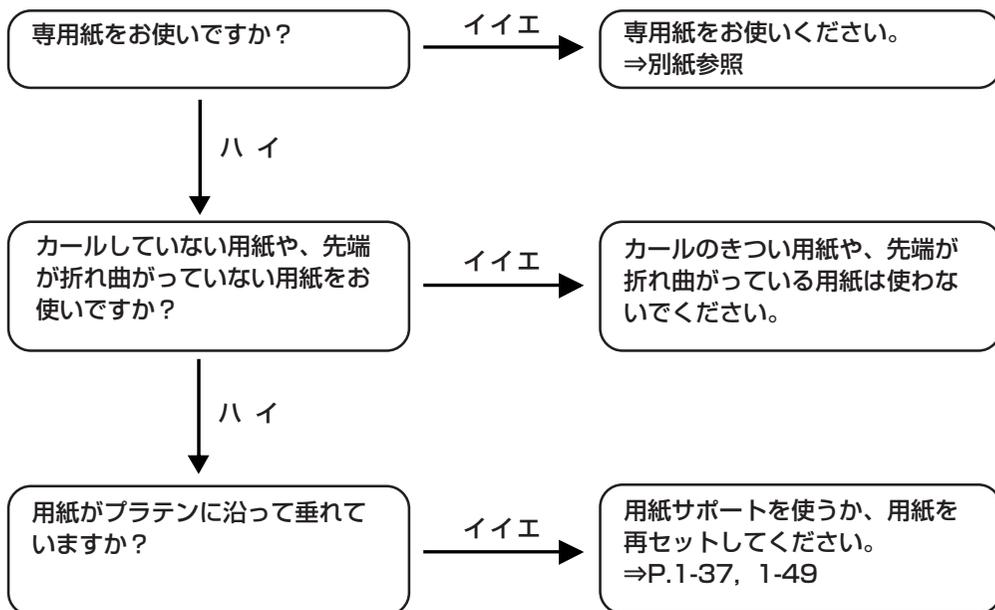
作図できない

作図ができない場合は、データが適正に本装置に送られていない場合があります。また、作図機能に不良がある場合や、メディアのセット方法に問題がある場合などが考えられます。



紙づまりが起こる／メディアが汚れる

紙づまりやメディアの汚れは、ご使用のメディアやセット方法に問題がある場合などが考えられます。



画質不良がでたときは

ここでは、作図品質に問題があるときの対処方法を説明します。症状に従って対処してください。対処しても、なおらない場合は販売店または弊社営業所にご連絡（サービスコール）ください。

白いスジ／カスレ／色の濃いスジが発生する（ヘッド移動方向）

- 対処方法 : ヘッドクリーニングをしてください。⇒2-9 ページ
- 対処方法 : ステーション内部のメンテナンスをしてください。
⇒4-8 ページ
- 対処方法 : 「メディア補正」機能を実行してください。⇒3-26 ページ
- 対処方法 : カールストッパーの上などヘッドが通過する部分に、紙片などのゴミが付着している場合は、ゴミを取り除いてください。

リスト(P.4-4) の文字が用紙送り方向に2重、3重にブレる

- 対処方法 : 「メディア補正」機能を実行してください。⇒3-28 ページ

往復印字でズレが発生する

- 対処方法 : 「ドット位置補正」機能を実行してください。⇒4-6 ページ

色ごとにインクが重ならない

- 対処方法 : 「ドット位置補正」機能を実行してください。⇒4-6 ページ

作図中のメディア上に大きなインク滴が落ちる

- 対処方法 : ① ワイパをクリーニングしてください。⇒4-11 ページ
② インクキャップのクリーニングをしてください。⇒4-9 ページ
③ スライダ下面の洗浄をしてください。⇒4-13～15 ページ
④ ヘッドクリーニングの[ノーマル]を実行してください。
⇒2-9 ページ
⑤ 時間が経つと再びインクの滴りができる場合は、ヘッドクリーニングの[キョウリョク]を実行してください。
⇒2-9 ページ

メッセージを表示するトラブル

何らかの異常が発生すると、ブザーが鳴りディスプレイにメッセージを表示します。メッセージの内容によって対処してください。

ワーニングエラー

インク関連に対して発生します。

エラーメッセージ	原因	対処方法
<< 0-カ >> カートリッジ KCMYcm KCMYcm	インクカートリッジが、インクステーションに取り付けてありません。	表示している記号. のインクカートリッジをインクステーションに取り付けてください。
<< 0-カ >> コアエンド KCMYcm KCMYcm	インクカートリッジのインク残量が少なくなりました。	【REMOTE】を押すと、1ファイルごと作図できます。早めに表示している番号のインクカートリッジを交換してください。
<< 0-カ >> インクエンド KCMYcm KCMYcm	インクカートリッジのインクが終わりました。	表示している番号のインクカートリッジを交換してください。
<< 0-カ >> ワイパ コウカンシテクダサイ	キャッピングステーションのワイパ交換時期です。	【REMOTE】を押すと、作図ができます。電源を入れる度にエラーを表示しますので、早めに新しいワイパに交換してください
<< 0-カ >> RUB ワイパ コウカンシテクダサイ		

エラーメッセージ

エラーメッセージは、エラー番号を表示します。

エラーメッセージを表示した場合は、電源をオフにしてしばらくたってから電源をオンにしてください。

それでもメッセージを表示する場合は、販売店または弊社営業所にご連絡（サービスコール）ください。

エラーメッセージ	原因	対処方法	
ERROR 01 MAIN ROM	制御基板に異常が発生しました。	一度、電源をオフにして、しばらくたってから電源をオンにしてください。再度、表示するときは、販売店または弊社営業所にサービスコールしてください。	
ERROR 02 MAIN RAM			
ERROR 03 POWER +5V	制御基板に異常が発生しました。 POWER+5V POWER+35V		
ERROR 04 フラッシュ ROM	制御基板に異常が発生しました。		
ERROR 06 D-RAM			
ERROR 07 オート (nnnn)	異常な温度検出が発生しました。		
ERROR 08 リアエンコーダ n	リニアエンコーダの検出で異常が発生しました。		
ERROR 09 HDC エラー	制御基板に異常が発生しました。 FPGA エラー HDC エラー		
ERROR 10 コマンドエラー	コマンドデータ以外のデータを受信しました。 IEEE1284 に適合していないインターフェースケーブルが使われています。		インターフェースケーブルを確実に接続してください。 規格に適合したインターフェースケーブルを使用してください。

エラーメッセージ	原因	対処方法
ERROR 11 パラメータエラー	数値範囲外のパラメータを受信しました。	一度、電源をオフにして、しばらくたってから電源をオンにしてください。再度、表示するときは、販売店または弊社営業所にサービスコールしてください。
ERROR 20 I/F ボード	I/F ボードと制御基板のインターフェースにエラーが発生しました。	
ERROR 21 I/F ナ	I/F ボードが制御基板に装着されていません。	
ERROR 23 ホスト I/F	ホストコンピュータと I/F ボードとの通信にタイムアウトエラーが発生しました。	ケーブルが確実に接続してあるか、またはホストコンピュータ側でエラーが発生していないか確認してください。
ERROR 24 I/F インチャル	I/F ボードと制御基板の初期動作不良です。	一度、電源をオフにして、しばらくたってから電源をオンにしてください。再度、表示するときは、販売店または弊社営業所にサービスコールしてください。
ERROR 30 オペレーションエラー	操作パネルで不当なオペレーションをしました。	正しいオペレーションをしてください。
ERROR 34 ミサグデータリ	受信済みで未作図のデータがあるのに、ファンクション機能の設定機能を変更しようとしています。	受信済みのデータを全て作図するか、データクリアを実行してから、設定機能を変更してください。

エラーメッセージ	原因	対処方法
ERROR 40 モータラム X	X モーターに過大な負荷がかかりました。	一度、電源をオフにして、しばらくたってから電源をオンにしてください。
ERROR 41 モータラム Y	Y モーターに過大な負荷がかかりました。	再度、表示するときは、販売店または弊社営業所にサービスコールしてください。
ERROR 42 X オバーカレント	X モーターの過電流エラーを検出しました。	
ERROR 43 Y オバーカレント	Y モーターの過電流エラーを検出しました。	
ERROR 45 キャッピング	キャッピングステーションの高さが適正ではありません。	一度、電源をオフにして、しばらくたってから電源をオンにしてください。再度表示するときは、販売店または弊社営業所にサービスコールしてください。
ERROR 46 ワイパ	ワイパの位置が適正ではありません。	
ERROR 50 メディアケンシュツ	用紙検出ができませんでした。	セットしたリーフ紙の右端の位置が不適切です。「リーフ紙のセット」をご覧ください。(⇒ P.1-42) 正しくセットしても、エラーを表示する場合は、販売店または弊社営業所にサービスコールしてください。
ERROR 51 ケンテンケンシュツ	原点検出ができませんでした。	一度、電源をオフにして、しばらくたってから電源をオンにしてください。再度表示するときは、販売店または弊社営業所にサービスコールしてください。

付録

付録では、各種仕様や構成品、ファンクションメニュー構造を示します。

本章の内容

基本仕様	付録-2
インク仕様	付録-4
メニュー構造	付録-5
警告ラベルについて	付録-6

基本仕様

項目		JV4-130	JV4-160	JV4-180
作図ヘッド部	方式	ドロップオンデマンドピエゾヘッド		
	仕様	6ヘッド (3 x 2列 スタガ配列)		
	ノズル構成	1Way 高速プリント時 : 各色 360 ノズル 2Way マルチプリント時 : 各色 180 ノズル		
作図分解能		360, 540, 720, 1440 dpi		
作図モード		360 x 360 dpi : 2/4 pass, 双方向 / 単方向 360 x 540 dpi : 3/6 pass, 双方向 / 単方向 360 x 720 dpi : 4/8 pass, 双方向 / 単方向 720 x 720 dpi : 4/8/16 pass, 双方向 / 単方向 1440 x 720 dpi : 8/16 pass, 双方向 / 単方向 1440 x 1440 dpi : 16/32 pass, 双方向 / 単方向		
使用可能インク	水性顔料インク	6色 (ブラック, シアン, マゼンダ, イロ) + (ライトシアン, ライトマゼンダ)または(ライトシアン, クリーン)		
	水性染料インク	6色 (ブラック, シアン, マゼンダ, イロ, ライトシアン, ライトマゼンダ)		
	分散染料インク	6色 (ブラック, シアン, マゼンダ, イロ, ライトシアン, ライトマゼンダ)		
インクセット	1Way 高速 プリント時	< 1色あたり 2カートリッジ > 顔料インク 6色専用の高速プリント 染料インク 6色専用の高速プリント 分散インク 6色専用の高速プリント		
	2Way マルチ プリント時	< 1色あたり 1カートリッジ > 顔料インクか染料インク 6色独立プリント 顔料インクか分散インク 6色独立プリント 染料インクか分散インク 6色独立プリント		
インク供給		インクカートリッジからのチューブ供給 インク残量表示機能あり インクエンド検出機能あり インクカートリッジ交換方式		
インク容量		各色 (220 cc ± 5 cc) x 2カートリッジ あるいは x 1カートリッジ 1カートリッジあたり約 200 cc 使用可能		
使用可能メディア	光沢系	白ベットの光沢、フォトペーパー、塩ビ光沢		
	マット系	合成紙、塩ビマット、ターポリン、電飾フィルム		
	クロス系	防災クロス		
	その他	版下フィルム		
ロール紙メディアサイズ	最大作図範囲	幅 : 1371 mm	幅 : 1600 mm	幅 : 1870 mm
	最大幅	1381 mm	1620 mm	1910 mm
	最小幅	210 mm		
	厚さ	1.0 mm 以下		
	ロール外径	φ 150 mm 以下		
	ロール重量	20 Kg 以下		
	紙管内径	2 インチ, 3 インチ		
	作図面	外側		
	巻終わり処理	紙管にテープ止め		

項目		JV4-130	JV4-160	JV4-180
リーフ紙メディアサイズ	最大作図範囲	幅：1371 mm	幅：1600 mm	幅：1870 mm
	最大幅	1381 mm	1620 mm	1910 mm
	最小幅	210 mm		
ボードメディアサイズ	厚さ	7.0 mm 以下		
	たわみ、歪み	1.0 mm 以下		
作図マージン	リーフ紙	左右：5 mm ± 0.5 mm 前：85 mm ± 2 mm 後：85 mm ± 2 mm		
	ロール紙	左右：5 mm ± 0.5 mm 前：50 mm ± 2 mm 後：0 mm		
距離精度	絶対精度	± 0.3 mm または指定距離の ± 0.3 % の大きい方		
	再現性	± 0.2 mm または指定距離の ± 0.1% の大きい方		
直角度		± 0.5 mm/1000 mm		
メディアスキュー		5 mm 以下/10 m		
ヘッド高さ調整		プラテン面より 1.2 mm ~ 10 mm 可変		
メディア裁断		ヘッド部カッタによる Y 方向カット 裁断精度（段差） 0.5 mm 以下		
排紙		ロール巻取り装置標準（内巻き / 外巻き 切り替え可能）		
廃インクタンク		ボトル式（1 リットル 1 本 / 2 リットル 1 本）目視による交換時判断		
インターフェース		IEEE1394 準拠, IEEE1284 準拠		
コマンド		MRL-II（パリアブルドット対応） <ESC/Pi [®] 112 [®] ス ミマキオリジナルコマンド>		
騒音	待機時	56 dB 以下 (FAST-A, 前後左右 1 m)		
	動作連続音	66dB 以下		
	動作不連続音	70 dB 以下		
適合規格		VCCI クラス A, FCC クラス A, UL 1950, CE マーキング（EMC 指令, 低電圧指令）		
電源仕様		AC100 V ~ 240 V ± 10 %（オートボルテージ） 50/60 Hz ± 1 Hz		
消費電力		400 W		
設置環境	使用可能温度	15 °C ~ 30 °C		
	相対湿度	35 ~ 65 %Rh（結露なきこと）		
	精度保証温度	18 °C ~ 25 °C		
	温度勾配	± 10 °C/h 以下		
	粉塵	オフィス相当		
重量	本体	114 Kg	125 Kg	126 Kg
	全体	140 Kg 以下	153 Kg 以下	158 Kg 以下
外形寸法	幅	2406 mm	2740 mm	3025 mm
	奥行き	730 mm		
	高さ	1220 mm		

インク仕様

項目	仕様	
形態	専用インクカートリッジ	
色（水性顔料インク）	ブラックインクカートリッジ (SPC-0180K)	
	シアンインクカートリッジ (SPC-0180C)	
	マゼンタインクカートリッジ (SPC-0180M)	
	イエローインクカートリッジ (SPC-0180Y)	
	ライトシアンインクカートリッジ (SPC-180LC)	
	ライトマゼンタインクカートリッジ (SPC-0180LM)	
	オレンジインクカートリッジ (SPC-0180O)	
	グリーンインクカートリッジ (SPC-0180G)	
色（水性染料インク）	ブラックインクカートリッジ (SPC-0258K)	
	シアンインクカートリッジ (SPC-0258C)	
	マゼンタインクカートリッジ (SPC-0258M)	
	イエローインクカートリッジ (SPC-0258Y)	
	ライトシアンインクカートリッジ (SPC-258LC)	
	ライトマゼンタインクカートリッジ (SPC-0258LM)	
色（分散染料インク）	ブラックインクカートリッジ (SPC-0256K)	
	ブルーインクカートリッジ (SPC-0256BI)	
	マゼンタインクカートリッジ (SPC-0256M)	
	イエローインクカートリッジ (SPC-0256Y)	
	ライトブルーインクカートリッジ (SPC-0256Lbi)	
	ライトマゼンタインクカートリッジ (SPC-0256Lm)	
インク容量	220cc/ カートリッジ	
有効期間	製造日より2年間（常温） 開封から6カ月以内	
保存温度	保存時	-30℃～40℃（40℃の場合1カ月以内）
	輸送時	-30℃～60℃（60℃の場合120時間以内、40℃の場合1カ月以内）



★ インクは、-4℃以下の環境で長時間放置すると凍結します。万一、凍結した場合は、室温（25℃）で3時間以上かけて解凍してから使用してください。

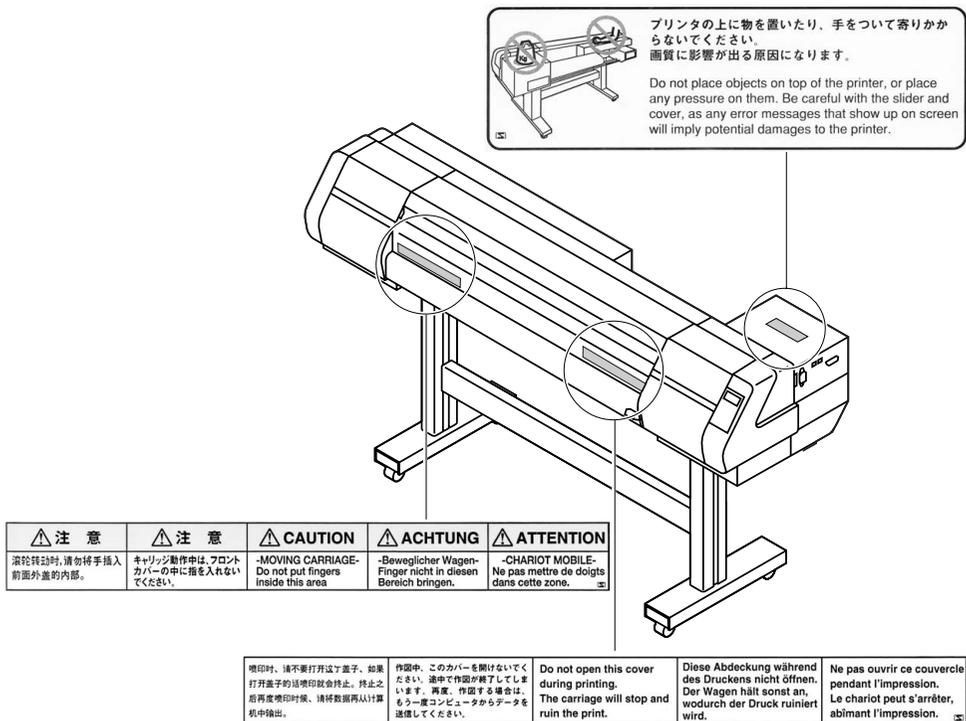


★ インクカートリッジを分解したり、インクを詰め替えないでください。

警告ラベルについて

本装置には、2種類の警告ラベルが貼ってあります。警告ラベルの内容を十分理解してください。なお、警告ラベルが汚れて読めなくなったり剥がれた場合は、新しい警告ラベルを販売店または弊社営業所にてお買い求めください。

ラベルの位置



-の種類	1-24
-の落下点	4-6
[イウ コカ]	4-19
インクカートリッジ	1-6, 1-23, 1-25
-を装填する	1-27
1Way 高速プリント用	1-27
2Way マルチプリント用	1-28
使用中のインクと異なるインクを装填する	4-19
-の交換回数	4-4
インクキャップ	
-のクリーニング	4-8, 4-9
インク残量	
-が少なくなったら	1-30
[イウ ヲウテ]	4-19
インク仕様	付録-4
インクステーション	1-23
-とヘッド列の関係	1-23
-のメンテナンス	4-8
F列インクステーション	1-23
R列インクステーション	1-23
片側だけ使用して作図をする	4-21
[イウ タイ]	3-20
インターフェースケーブル	
IEEE1284	1-18
IEEE1394	1-18

エ

エラーメッセージ	5-6
----------	-----

オ

オートカット	3-9
[オートカット]	3-10
[オートクリーニング]	3-24
-のOFF	3-24
-のON	3-24
[オートクリーニング2]	3-25
応用機能	3-2
お手入れ	
-上のご注意	2-11

外装のお手入れ	2-12
紙粉を除去する	2-11
スライダ下面の付着インクの洗浄	2-12
長期間使用しない場合は	2-11
普段のおていれ	2-11, 2-12
ワイバをクリーニングする	2-11

カ

開梱	1-12
解像度	
[カチヨウ]	3-6
各部の名称	1-5
重ね塗り	
[カネヌリ]	3-8
画質	3-5
-不良	5-4
カッター刃	1-10
-の交換	4-10, 4-8
カットライン	1-10
紙づまりが起こる	5-3
乾燥時間	3-9
オートカット	3-9
[カソウガガ]	3-9
スキャン	3-9

キ

基本仕様	付録-2
キャスト	
-のロック	1-17
キャッピングステーション	1-8
キャリッジ	1-7
-の移動	4-8
[キャリッジアウト]	4-8
吸着	3-18
-標準	3-18
-弱い	3-18
[キウチャク]	3-18

- ク**
- 組み立て 1-12
 - 完成図（前面） 1-5
 - 完成図（背面） 1-6
 - クランプレバー
 - 後 1-6
 - 前 1-5
 - クリーニング
 - を実行する 2-9
- ケ**
- ケーブル
 - を接続する 1-18
 - IEEE1284 1-18
 - IEEE1394 1-18
 - インターフェースケーブル 1-18
 - 警告ラベル 付録-6
 - の位置 付録-6
- コ**
- 故障？と思う前に 5-2
 - ご注意 i
 - 湿度の低い場所での使用 3-15
 - ホコリが多い場所での使用 3-15
 - 使用上のご注意 viii
 - 設置上のご注意 ix
- サ**
- 作図
 - が終了したら 2-7
 - 原点を設定する 1-47
 - できない 5-2
 - を開始する 2-6
 - を中止する 2-7
 - コマンド 4-5
 - HEX コード 4-5
 - スピード 3-5
 - 作図条件
 - の設定の前に 3-3
- の登録 3-4
 - を出力する 3-21
- 作図範囲
- を設定する 1-46
- [サクスビツツ]
- 作図方向 3-7
 - 双方向 3-7
 - 単方向 3-7
- 作図方式
- を設定する 3-5, 3-15
 - をプロッタ側で設定する 3-5
- シ**
- 紙管へのテープ止め 1-50
 - 自動裁断 3-10
 - 受信障害 ii
 - 出力画像
 - に縦縞が発生する場合は 3-18
 - [シヨハツ]
 - ALL 4-21
 - FRONT 4-21
 - REAR 4-21
- 消耗品
- の交換 4-8
- ジョグキー 2-2
- ス**
- 水性顔料インク 1-24
 - 水性染料インク 1-24
 - スキャン 3-9
 - ステーション
 - 内部の掃除 4-8
 - スライダ 4-15
- セ**
- 設置場所 1-2
 - [セツイリヤツ]
 - 設定状態
 - を作図する 4-4
 - セットアップ
 - 組み立て 1-12

- 巻き取り装置を取り付ける 1-14
- メディアサポートを取り付ける 1-49
- メンテナンスカバーを締める. 1-15
- ロールホルダーの取り付け 1-16
- 洗浄液カートリッジ 4-20

ソ

- 操作パネル 1-5, 2-2

タ

タイプ

- 設定をリセットする 3-30
- の選択 3-4
- の変更 3-4

単位

- インチ 3-19
- ミリ 3-19

テ

- [Δ ° Δ °] 4-5

- ディスプレイ 2-2

テスト作図

- パターンの確認 2-8
- を実行する 2-8

- デッドスペース 3-13

- の変更 1-46

電源

- が入らない 5-2
- のオフ 1-21
- のオン 1-20
- スイッチ 1-5

ト

- ドット位置補正 4-6

- 往路 4-6

- 復路 4-6

- [ドット付枚数] 4-4, 4-6

- ドライバー 1-4

- トラブル 5-5

取扱説明書

- 操作キー iii, xvi

- ディスプレイとキーの表記 xvi

- について iii

- 本書の構成 xvii

- 本書の読み方 xv

- マーク表示について vi

トルクリミッタ

- を調節をする 1-49

ナ

長さ

- の単位を決める 3-19

ヌ

塗りつぶし

- 機能 4-17

- 作図 4-16

- 塗りつぶしムラ 4-18

- 白点の間隙 4-18

- [Δ ° Δ °] 4-17

ノ

- ノズルチェック 4-16

- ノズル面 4-15

ハ

- 廃インクタンク 1-5, 4-24

- ガード 4-24

- ガードのネジ 4-24

- のインクが溜まったら 4-24

- のFULLライン 4-24

- パネル 3-11

- パラレルコネクタ 1-5

版下

- フィルム

- の塗りつぶし機能 4-17

- を使用する 3-22

- 使用する際に確認すること 4-16

- を作成する 3-22

- ヒ**
- [ヒタリマージン] 3-13
 - の設定 3-14
 - 表示言語
 - を設定する 3-3
 - ピンチローラー 1-8
- フ**
- ファームウェア 1-20
 - のバージョン 1-20
 - のバージョン情報 4-4
 - ファンクションメニュー 3-2, 4-2
 - ファンクションモード 2-3
 - フィードローラー 1-8
 - 付属品 1-3
 - ブラシ 1-4
 - プラテン 1-5
 - フロントカバー 1-5, 1-7, 1-22
 - の開閉について 1-22
 - 操作中のご注意 1-22
 - 分散染料インク 1-24
- ヘ**
- ヘッド
 - 線の抜けを確認する 2-8
 - のインク詰まりを確認する 2-8
 - のインク詰まりがある場合は 2-9
 - ヘッドの高さ調整 1-34
 - ヘッド高さ調整
 - の後に補正をする 4-6
 - 棒 1-11
 - 適正位置 1-36
 - ネジ 1-11
 - のポイント 1-36
 - ヘッド列 1-23
- ホ**
- ボード
 - [ホート] 3-17
 - の検出方法を設定する 3-17
 - をセットする 1-44
 - [ホコウ] 3-7
 - 保守（サービスマン用）情報 4-4
 - ホスト 3-11
 - 本装置の移動 1-17
 - キャストのロック 1-17
 - 移動方法 1-17
- マ**
- マーク表示について vi
 - 巻き取り装置 1-5
 - のスイッチを切り替える 1-49
- ミ**
- [ミギマージン] 3-13
 - の設定 3-13
 - [ミリ/インチ] 3-19
- メ**
- メッセージを表示するトラブル 5-5
 - メディア
 - が汚れる 5-3
 - を自動的にカットする 3-10
 - をセットする 1-37
 - をセットする前に 1-34
 - 置きバー 1-6
 - 検出方法を設定する 3-16
 - 使用可能メディア 1-31
 - のサイズ 1-31
 - の種類 1-31
 - 取り扱い上のご注意 1-32
 - ボードメディア 1-33
 - [メディアケツリ] 3-16
 - メディア検出 3-16
 - セレクト 3-16
 - メディアサポート 1-5
 - MEDIAサブリョウ 4-22
 - メディアセンサー 1-9
 - メディア補正 3-28

- 補正值	3-28
[メディアセ]	3-28
メディアホセイ	
作図中の補正	3-29
メニュー構造	3-2, 付録-5
メニューツリー	2-4
メニューモード	2-3
-を確認する	3-3, 4-3
メンテナンス	4-2
-機能	4-4
-機能の導入について	4-3
-の前に	4-3
インクキャップのクリーニング	4-8, 4-9
カッター刃の交換	4-8, 4-10
消耗品の交換	4-8
[メンテナンス]	4-2
ワイパのクリーニングと交換	4-8
メンテナンスカバー	1-5

モ

[モト° スタフ°]	3-21
-の OFF	3-21
-の ON	3-21

ユ

優先順位	
-の選択項目	3-11
設定の-	3-11
パネル	3-11
ホスト	3-11
[ユセツ° ユン]	3-11

ヨ

余白	
-デッドスペース	3-13
-を増減する	3-13
-デッドスペース	
-の変更	1-46

リ

リーフ紙	
-をセットする	1-42
[リスト]	4-4
[リフレッシュ]	3-15
-レベル	3-15
リモートモード	2-3

レ

連続作図	3-27
[レゾ° グラス°]	3-27
[レゾ° グラス°]	
-の OFF	3-27
-の ON	3-27

ロ

ローカルモード	2-3
ロール紙	
-をセットする	1-37
ロールホルダー	1-6
ロールメディアの残量をカウントする	4-22

ワ

ワーニングエラー	5-5
ワイパ	
-交換のメッセージを表示したら	4-13
-のクリーニング	4-8, 4-11
-の交換	4-8
-の定期的なお手入れ	4-11
-を交換をする	4-13
取り扱い上のご注意	4-11
[ワパ° コカ]	4-13

お問い合わせ先

製品に関するお問い合わせは、販売店または下記までお願い致します。

株式会社

ミマキエンジニアリング

<http://www.mimaki.co.jp>

東京支社

TEL 03-5420-8680

東京都品川区北品川5-9-41 TKB御殿山ビル
〒141-0001

FAX 03-5420-8686

長野営業所

TEL 0268-64-2377

長野県東御市加沢 1333-3
〒389-0514

FAX 0268-64-2399

大阪支店

TEL 06-6388-8258

大阪府吹田市江坂町1-13-41 明治生命江坂ビル
〒564-0063

FAX 06-6388-8265

金沢営業所

TEL 076-222-5380

金沢市駅西新町2-12-6
〒920-0027

FAX 076-222-5381

札幌営業所

TEL 011-200-5500

札幌市中央区北2条東1-5-2 サニープリンス1F
〒060-0032

FAX 011-200-5510

名古屋営業所

TEL 052-777-7245

名古屋市名東区上社1-119
〒465-0025

FAX 052-777-7309

仙台営業所

TEL 022-213-7303

仙台市青葉区上杉1-6-22 サンビル1F
〒980-0011

FAX 022-213-7305

広島営業所

TEL 082-876-3103

広島市安佐南区緑井6-10-14 メゾン高津屋1F
〒730-0103

FAX 082-876-3108

さいたま営業所

TEL 048-823-3080

埼玉県さいたま市浦和区常盤5-8-41
読売浦和ビル 1F
〒330-0061

FAX 048-823-3090

福岡営業所

TEL 092-612-1355

福岡市博多区吉塚5-11-15
〒812-0041

FAX 092-612-1356

熊本営業所

TEL 096-385-1633

熊本県熊本市新南部4-7-38 オーエムビル1F
〒862-0928

FAX 096-385-1639

お問い合わせ時間：午前10：00より午後5：00まで
営業日：月曜日から金曜日まで（祝祭日を除く）

JV4 Series 取扱説明書

2006年2月

発 行 者 株式会社ミマキエンジニアリング
発 行 所 株式会社ミマキエンジニアリング
長野県東御市加沢 1333-3
〒389-0514 Tel: 0268-64-2413 (代)

D200570-2.70-31022006



Printed in Japan

D200570

© MIMAKI ENGINEERING CO., LTD. 2006